

授業科目名	表現文化論				
担当教員名	白瀬浩司				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「可」

授業概要

私たちにとって、恋は一つの事件にはかならないわけですが、時に、恋ゆえ本当の事件に至ってしまうようなケースもあります。本講座では、この大阪の地で江戸時代に実際に起きた事件を素材とする近松門左衛門の作品を読み進めていきます。古典文学の〈表現〉に出会うとともに、同じ大阪という地に身を置きながらも、時代による〈文化〉の違いと、時代を越えて変わらぬ人々の想いについて考えていきましょう。それぞれの映像化作品も鑑賞します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

大阪の古典文化について知ることや、古典の文章表現を味わうこと、時代を越えて変わらぬ価値について捉え返すこと。

目標：

時代的（当代的）な要素や普遍的な要素を踏まえ、表現・文化について理解することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP7. 完遂

古典という表現文化を通し、自身の生きる時代の捉え返しと課題を見出すことができる。

現代語・現代文化とは異質な古典という表現文化に最後まで向き合い、理解した上で自身の見解をまとめることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

課題レポート（20%×3回）

評価の基準

： 映像作品の鑑賞後に提出された課題レポートを、理解度・記述内容によって評価します。

60%

原文（古文）音読

： 講義時に担当した原文（古文）音読について、5段階で評価します。評価規準については、講義時に提示。

10%

グループ討論・グループ報告

： グループ討議への参加態度、グループによる報告内容によって、3段階で評価します。評価規準については、講義時に提示。

10%

最終レポート

： 与えられた論題に関する理解度と記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示。

20%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
近松門左衛門・作／諏訪春雄・訳・注	曾根崎心中 冥途の飛脚 心中 天の網島—現代語訳付き（角川ソフィア文庫）	角川学芸出版	2007年

参考文献等

諏訪春雄・辻達也・信多純一編『図説日本の古典 近松門左衛門』（集英社、1989年）
 松平進『近松に親しむ—その時代と人・作品』（和泉書院、2001年）
 大阪市立大学文学研究科「上方文化講座」企画委員会編『上方文化講座 曾根崎心中』（和泉書院、2006年）
 神戸女子大学古典芸能研究センター編『近松再発見—華やぎと哀しみ』（和泉書院、2011年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>平成の大阪で、元禄の大坂の表現・文化を〈読む〉ことの意義</p> <p>人形浄瑠璃芝居の特徴や、背景となった元禄時代の習俗（遊郭の生活、商家・農家の生活）について共通認識を持ちます。また、各作品の舞台となった地誌（エリア）についても確認します。</p>	<p>4時間</p> <p>今回の学修範囲（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p>
第2回	<p>『曾根崎心中』お初登場・生玉神社の場—お初の願いと、徳兵衛の苦境—</p> <p>遊廓における遊女の生活、商家における手代の生活などを再確認し、本作品の冒頭で設定された主人公二人の状況について捉えます。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>4時間</p> <p>今回の学修範囲（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p>
第3回	<p>『曾根崎心中』 蜷川新地天満屋の場—〈足問答〉という表現形式—</p> <p>舞台上に展開される〈足問答〉の表現形式について捉えるとともに、登場人物それぞれが抱く想いと、この場面によって、ドラマ展開はどのように方向づけられることになるのか理解します。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>4時間</p> <p>今回の学修範囲（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p>
第4回	<p>『曾根崎心中』 心中道行・曾根崎の森の場—道行文の表現と、〈恋の手本〉—</p> <p>江戸時代の学者・荻生徂徠が絶讃したとされる道行文を音読によって読み味わうとともに、二人の心中場面の陰惨さが持つ意味について考察を加えていきます。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>4時間</p> <p>今回の映像化作品の鑑賞に備え、『曾根崎心中』を読み返し、全篇の内容をしっかりと再確認しておく。</p>
第5回	<p>映像化作品の鑑賞—『曾根崎心中』（ATG、1978）</p> <p>文字情報によって思い描いてきた作品世界と映像情報化した場合の差異（各自が抱くイメージの差異）を踏まえながら作品世界の捉え返しを行います。</p>	<p>4時間</p> <p>課題レポートの執筆。課題内容・分量・書式については講義時に指示する。今回の学修範囲（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p>
第6回	<p>『冥途の飛脚』 上之巻—忠兵衛をめぐる人間群像—</p> <p>当時の飛脚の仕事について再確認するとともに、本作品の冒頭で設定された主人公の状況について捉えます。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>4時間</p> <p>今回の学修範囲（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p>
第7回	<p>『冥途の飛脚』 中之巻—梅川の想いと、忠兵衛の〈封印切り〉にみる表現形式—</p> <p>梅川が忠兵衛に注ぐ愛情と心配を押さえるとともに、友人である八右衛門の言動が忠兵衛の〈封印切り〉を誘発することを踏まえた上で、忠兵衛の葛藤を捉えていきます。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>4時間</p> <p>今回の学修範囲（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p>
第8回	<p>『冥途の飛脚』 下之巻—男女の情と、親子の情—</p> <p>この場面における二人の主人公の心情を捉えるとともに、〈親子の情〉がいかなる表現形式によって描かれているかについて理解します。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>4時間</p> <p>今回の映像化作品の鑑賞に備え、『冥途の飛脚』を読み返し、全篇の内容をしっかりと再確認しておく。</p>
第9回	<p>映像化作品の鑑賞—『浪花の恋の物語』（東映、1959）</p> <p>文字情報によって思い描いてきた作品世界と映像情報化した場合の差異（各自が抱くイメージの差異）を踏まえながら作品世界の捉え返しを行います。</p>	<p>4時間</p> <p>課題レポートの執筆。課題内容・分量・書式については講義時に指示する。今回の学修範囲（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p>
第10回	<p>『心中天の網島』 上之巻—女主人公〈小春〉の事情と、男主人公〈治兵衛〉の事情—</p> <p>本作品の冒頭に設定された〈謎〉について踏まえるとともに、それが以後のドラマ展開にどのようにかかわってくるかを捉えていきます。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>4時間</p> <p>今回の学修範囲（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p>
第11回	<p>『心中天の網島』 中之巻—〈女同士の義理〉が発動するとき—</p>	<p>4時間</p> <p>今回の学修範囲（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p>

	<p>現代的にいえば〈妻と愛人〉という対立するはずの女同士が、愛する男をはさんで互いを認め合ったとき、何が起きるのか。治兵衛の妻おさんの誠意と行動、さらにそれが空しく潰（つい）えたことで一挙に暗転していくドラマの様相について捉えていきます。</p> <p>※古文朗読演習</p>		
第12回	<p>『心中天の網島』下之巻—心中場の表現と、小春・治兵衛の末路—</p> <p>一緒（一所）に死ねない心中という描かれ方から、本作品の結末部に示された〈表現〉意図をさぐっていきます。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>今回の映像化作品の鑑賞に備え、『冥途の飛脚』を読み返し、全篇の内容をしっかりと再確認しておく。</p>	4時間
第13回	<p>映像化作品の鑑賞—『心中天網島』（表現社・ATG、1969）</p> <p>文字情報によって思い描いてきた作品世界と映像情報化した場合の差異（各自が抱くイメージの差異）を踏まえながら作品世界の捉え返しを行います。</p>	<p>課題レポートの執筆。課題内容・分量・書式については講義時に指示する。</p>	4時間
第14回	<p>近松が問いかけるもの—グループ討論—</p> <p>三作品の読解を通じ、これらの作品に通底する作者・近松の〈表現〉意図、あるいは願いについてグループで討議します。</p>	<p>課題レポートの執筆。課題内容・分量・書式については講義時に指示する。</p>	4時間
第15回	<p>近松が問いかけるもの—グループ報告—</p> <p>前時の討議の結果を報告し、近松作品に通底するテーマについて、考察を行います。</p>	<p>最終課題（レポート）の執筆。課題内容・分量・書式については講義時に指示する。</p>	4時間

授業科目名	English Communication 1				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、日本で働いている様々な国籍、業種の方々の英語によるインタビュー映像を使いながら、学生には馴染みのないビジネスシーンで使われる専門的な語彙や表現を学ぶとともに、英語母語話者以外の英語を聴解する機会を多く持つことによって、コミュニケーションツールとしての英語の機能性を理解することを目的とします。また、それぞれの業界で活躍する人々の語る仕事観、日本観、人生観を学び、グローバル社会において英語を使って働くとはどういうことかを、自分の言葉で表現できるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

ビジネスシーンでの英会話能力、英文読解能力、英作文能力

目標：

ビジネスの現場において、英語で会話することができる。日本語と英語の敬語や婉曲表現の違いを知り、異文化理解を深めることができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小テスト（単語・ディクテーション）	40%	： 毎回、授業の初めに既習単元の単語テストやディクテーションテストを実施します。40点満点の小テストの平均を評価の40%とします。
まとめテスト	40%	： 第7回、第14回の授業で、そこまでの既習単元の理解度を確認するまとめテストを実施します。40点満点のまとめテストの平均を評価の40%とします。
プレゼンテーション（表現力）	20%	： 「あなたの将来のキャリア」についての考えをまとめて、英語でプレゼンテーションします。語彙力、表現力、思考力とプレゼンテーションに臨む姿勢について、4段階で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Alice Gordenker, John Rucynski	Working in Japan: Video Interviews with 14 Professionals	Cengage Learning	2015年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限
 場所： 研究室（西館5階）
 備考・注意事項： メールアドレス： asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、 Unit 1 (前半) Sales Can Be like Acting ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・イギリス出身の出版社営業職の方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第1回 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。Unit 1 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第2回	Unit 1 (後半) There's More to Life than Work ・中国出身のツアープランナーの方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第2回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 2 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第3回	Unit 2 (前半) Travel Opens Up the World ・イタリア出身の車のマーケティングの方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	Unit 8 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 8 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第4回	Unit 2 (後半) Japan Needs Muslim-friendly Meals ・アメリカ出身の翻訳家の方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第4回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 3 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第5回	Unit 3 (前半) Love Sells Cars ・中国出身のコンビニの店舗監督者の方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第5回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 3 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第6回	Unit 3 (後半) Money Isn't Everything ・日本出身の醸造業会社社長のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第6回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。既習範囲を対象にまとめテストの対策をしておきます。	4時間
第7回	Unit 1-3 小括、Reviewing the Jobs ・既習範囲を対象にまとめテストを実施します。 ・ニュージーランド出身の小学校教師のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第7回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 4 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第8回	Unit 4 (前半) Translating Is More than Words ・ドイツ出身の建築家の方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第8回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 4 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第9回	Unit 4 (後半) Why Learn Japanese? ・日本出身のデザイナー兼広告コンサルタントの方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第9回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 5 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第10回	Unit 5 (前半) Serve Up the Best Possible Service ・オーストラリア出身の事業開発部マネージャーの方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第10回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 5 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第11回	Unit 5 (後半) Kisetsukan: "Sense of the Seasons" as a Marketing Tool ・台湾出身の人材派遣会社社長のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第11回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 6 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第12回	Unit 6 (前半) Toast Your Success! ・インド出身の技術者の方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第12回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 6 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間

第13回	Unit 6 (後半) Think Global, Act Local	第13回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。既習範囲を対象にまとめテストの対策をしておきます。	4時間
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス出身のシェフの方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。 			
第14回	Unit 4-6 小括、Reviewing the Jobs	第14回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。「あなたの将来のキャリア」について考え、英語でまとめておきます。	4時間
<ul style="list-style-type: none"> ・既習範囲を対象にまとめテストを実施します。 ・イギリス出身の動物愛護活動家方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。 			
第15回	Review and Reflect	・既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。	4時間
<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 1~6 までの内容を振り返り、ポイントを整理します。 ・自分自身の将来のキャリアについて考えたことを、英語でまとめてクラスの前で発表します。 			

授業科目名	English Communication 2				
担当教員名	麻島 徳子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

English Communication 1 に引き続き、本科目では、日本で働いている様々な国籍、業種の方々の英語によるインタビュー映像を使いながら、学生には馴染みのないビジネスシーンで使われる専門的な語彙や表現を学ぶとともに、英語母語話者以外の英語を聴解する機会を多く持つことによって、コミュニケーションツールとしての英語の機能性を理解することを目的とします。また、グローバル社会において英語を使って働くとはどういうことかを考え、自分の言葉で表現できるようになることを目指します

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

ビジネスシーンでの英会話能力、英文読解能力、英作文能力

目標：

ビジネスの現場において、英語で会話することができる。日本語と英語の敬語や婉曲表現の違いを知り、異文化理解を深めることができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の小テスト（単語・ディクテーション）
40%

評価の基準

： 毎回、授業の初めに既習単元の単語テストやディクテーションテストを実施します。40点満点の小テストの平均を評価の40%とします。

まとめテスト
40%

： 第7回、第14回の授業で、そこまでの既習単元の理解度を確認するまとめテストを実施します。40点満点のまとめテストの平均を評価の40%とします。

プレゼンテーション（表現力）
20%

： 「あなたの将来のキャリア」についての考えをまとめて、英語でプレゼンテーションします。語彙力、表現力、思考力とプレゼンテーションに臨む姿勢について、4段階で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Alice Gordenker, John Rucynski	Working in Japan: Video Interviews with 14 Professionals	Cengage Learning	2015年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限
場所： 研究室（西館5階）
備考・注意事項： メールアドレス： asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、 Unit 8 (前半) Build a Happy Life! ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・イギリス出身の出版社営業職の方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第1回 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。Unit 8 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第2回	Unit 8 (後半) Finally! A Better Way to Make Presentations! ・中国出身のツアープランナーの方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第2回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 9 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第3回	Unit 9 (前半) Life is like Riding a Bicycle ・イタリア出身の車のマーケティングの方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第3回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 9 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第4回	Unit 9 (後半) Internships – A Win-win Situation ・アメリカ出身の翻訳家の方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第4回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 10 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第5回	Unit 10 (前半) Trade Ideas for Positive Change ・中国出身のコンビニの店舗監督者の方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第5回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 10 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第6回	Unit 10 (後半) Gaps Can Be Good: The Advantages of a Gap Year ・日本出身の醸造業会社社長のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第6回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。既習範囲を対象にまとめテストの対策をしておきます。	4時間
第7回	Unit 8-10 小括、Reviewing the Jobs ・既習範囲を対象にまとめテストを実施します。 ・ニュージーランド出身の小学校教師のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第7回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 11 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第8回	Unit 11 (前半) Connect Workers with Companies ・ドイツ出身の建築家の方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第8回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 11 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第9回	Unit 11 (後半) What Does It Really Mean? ・日本出身のデザイナー兼広告コンサルタントの方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第9回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第10回	Unit 12 (前半) Necessity Is the Mother of Invention ・オーストラリア出身の事業開発部マネージャーの方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第10回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第11回	Unit 12 (後半) Escape to India – Through Movies! ・台湾出身の人材派遣会社社長のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。	第11回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 13 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第12回	Unit 13 (前半) What's the Recipe for Success?	第12回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 13 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・インド出身の技術者の方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。 		
第13回	Unit 13 (後半) Why Is French Food So Good? <ul style="list-style-type: none"> ・フランス出身のシェフの方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。 	第13回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。既習範囲を対象にまとめテストの対策をしておきます。	4時間
第14回	Unit 11-13 小括、Reviewing the Jobs <ul style="list-style-type: none"> ・既習範囲を対象にまとめテストを実施します。 ・イギリス出身の動物愛護活動家の方のインタビュー映像をもとに、語彙や表現力を学びます。 ・インタビュー内容で学んだ表現をもとに、スピーキングの練習、リーディング課題の読解をします。 	第14回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。「あなたの将来のキャリア」について考え、英語でまとめておきます。	4時間
第15回	Review and Reflect <ul style="list-style-type: none"> ・Unit 8~13までの内容を振り返り、ポイントを整理します。 ・自分自身の将来のキャリアについて考えたことを、英語でまとめてクラスの前で発表します。 	・既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。	4時間

授業科目名	文章表現法				
担当教員名	白瀬浩司・広滝道代				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

「文は人なり」という言葉があるように、文章には書き手の人柄や息づかいのようなものが現れてきます。本講座では、文章執筆（作文）の演習を重ねながら、表現内容はもとより、それを音声化する場合の表情や所作まで含め、的確に想いや主張を伝える技術と、曖昧であった自身の想いに形を与えていく楽しさを味わってほしいと考えています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	様々な形式の文章の実作を通して、書くことに対する苦手意識をなくし、表現する楽しさを味わえること。	様々な形式の文章について理解し、実際に作文することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		対象となる事物について理解し、課題を見つけることができる。
2．DP8. 意思疎通		自身の想いや意見を的確に相手へ伝えられるよう表現することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

作文課題	60%	: 10回の作文課題を課し、3段階で評価します（6点×10回）。評価基準については、講義時に提示。
プレゼンテーション	30%	: グループによるプレゼンテーションに関して、討議状況5%、プレゼンテーション20%、他グループに対する評価票5%で評価します。プレゼンの評価基準については、講義時に提示。
最終課題（レポート）	10%	: 規定時間内（60分間）に資料を読んで仕上げた最終課題（レポート）の内容により3段階で評価します。評価基準については、講義時に提示。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室

授業計画

第1回

《身だしなみ》としての文章表現

なぜ「文は人なり」と言われるのか、文章構成のポイント、文章表現のコツなどについて確認し、共通理解を持ちます。

講義時の作文課題が仕上がっていない場合は、完成させる。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	基本的なルールを再確認する—小論文の書き方— 原稿用紙の使い方、パソコン文書の注意事項、句読点の付け方、文末表現などについて理解し、小論文の構成について学修します。	作文課題を執筆し、次時の開始時に提出する。	4時間
第3回	《わたし》を発信する術を知る 自己発信ツールとしての《第一印象》、被服行動と印象形成過程、表情やしぐさによる印象形成過程について学修します。	講義時の作文課題が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第4回	好印象写真・悪印象写真に挑戦する 前時の学習内容を活かして、グループで好印象写真・悪印象写真の撮影に取り組みます。(グループ活動) 次時の講義開始の際、課題提出用シートに写真貼付・報告文執筆のうえで提出します。	課題提出用シートに好印象写真・悪印象写真をそれぞれ1枚ずつ貼付し、シートの指示に従い、コメントを記述する。	4時間
第5回	自己プレゼンテーションとしての就活—エントリーシート の書き方— 履歴書・エントリーシートにおける自己PRのポイントについて理解し、実際に作成演習に取り組みます。	講義時の作文課題が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第6回	昔話のパロディに挑戦する 昔話『桃太郎』の構成や物語の要素について理解した上で、同じ枠組を用いて昔話のパロディ創作に取り組みます。	講義時の作文課題が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第7回	言葉を選び、心をこめて—手紙の書き方— 手紙文の常識や形式について理解した上で、《身近な人》に少し改まった形式で手紙(あるいはハガキ)を書き、実際に投函します。	講義時の作文課題が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第8回	未来日記・10年後の《私》 自身の人生を企画・設計するために10年後までの未来年表を作成し、10年後のあなたがどうなっているかについて想像力をフル動員して記述します。	講義時の作文課題が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第9回	レポート・論文の書き方 短大における単位レポートの基本的な形式や書き方について確認するとともに、文献収集の方法から収集した情報の整理の仕方まで学修します。	講義時の作文課題が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第10回	プレゼンテーションの技法 プレゼンテーションの基本について理解し、パワーポイントを用いたプレゼンテーションの仕方を学修します。	次時に取り組むグループでのプレゼンテーション準備に向けて、個人で収集できる資料を図書館などでさがしておく。	4時間
第11回	プレゼンテーション準備 与えられた課題に対して、グループで討論した上で資料収集、パワーポイント作成、プレゼン原稿の作成に取り組みます。(グループ活動)	次時のプレゼンテーション担当のグループは、プレゼンの打ち合わせやリハーサルを繰り返し行う。	4時間
第12回	プレゼンテーション演習(1) グループごとに用意したプレゼンテーションを行います。聞き手役は、評価票にプレゼン態度や内容の適否、一言コメントを記入して提出します。	次時のプレゼンテーション担当のグループは、プレゼンの打ち合わせやリハーサルを繰り返し行う。	4時間
第13回	プレゼンテーション演習(2) グループごとに用意したプレゼンテーションを行います。聞き手役は、評価票にプレゼン態度や内容の適否、一言コメントを記入して提出します。	配布されたインタビュー記事に目を通し、自分がインタビューする相手を選定する。	4時間
第14回	自分以外の誰かの語り部となる—インタビュー記事を書く— インタビュー記事の事例を確認しつつ、その構成の仕方や発信の仕方、文体などについて理解します。	実際にインタビューをおこない、インタビュー記事を執筆し、次時の講義開始時に提出する。	4時間
第15回	最終課題(レポート)を書く これまで取り組んできた演習課題の総評をおこなった後、60分間で最終課題(レポート)を執筆します。論題や分量については講義時に指示し、必要な参考文献資料などを配布します。	半期の取り組みについて振り返る。最終レポートが仕上がっていない場合は、完成させ、指定された期日までに提出する。	4時間

授業科目名	音声表現法				
担当教員名	白瀬浩司				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

私たちのコミュニケーションは言語的要素と非言語的な要素によって成り立ちますが、前者を支える柱のひとつが〈音声表現〉にほかなりません。音声表現をしっかり操作できれば、自身の様々な感情をより豊かに伝えることもできるはずですが。本講座では、発声法や間の取り方から始めて、様々な文章（文字情報も言語的な要素）や様々な場面における音声表現に取り組んでいきます。身近なところでは、電話対応や接客、文字情報を介しての音読・朗読、台詞読み、群読など、感情を巧みに操りつつ表現を楽しむことが目標です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

対象をしっかり読み取る（理解すること、聞き手に合わせて的確な表現の仕方を選定すること。

目標：

提示する事柄・内容を正確に理解した上で、適切な表現方法を選んで伝えることができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

自身の伝えるべき事柄を明確に認識し、適切な方法で表現・伝達することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

音声表現にかかわる課題の実演

： 5段階で評価を行い、第8回=6点、第14回=6点、その他の回は4点×12回（第15回は実演なし）とする。評価規準については、講義時に提示。

60%

振り返りシート

： 各回に提出する振り返りシートの記述により、よく理解できている=2点、概ね理解できている=1点とします。

30%

最終課題（レポート）

： 与えられた論題に関する理解度と記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示。

10%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画

第1回

音声表現とは何か

次時の音読演習に備え、配布された昔話のプリントの音読練習を繰り返し行う。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	<p>〈音声表現〉についての共通認識を持つことから始めます。第1回は、様々な文章を身体的には無表情な状態を保つたまま、音声的に様々な感情を表現することに取り組みます。無表情のまま声だけは大喜びしているとか、無表情なのに激しく怒っているとか、無表情のまま号泣しているとか、無表情で大爆笑しているとか、感情をリアルに表現しようとする、顔の表情や体の動きが連動していることに気づく作業でもあります。</p>		
第2回	<p>音読①／昔話一声に出して読んでみる一</p> <p>まずは、ただ声を出して読んでみるという段階です。ひとつの物語を、大きな一小さな声で、高い一低い声で、速い一遅いテンポで、あるいは喜怒哀楽いずれかの一本調子で、通読に取り組みます。</p>	次時の音読演習に備え、配布された詩のプリントの音読練習を繰り返す行う。	4時間
第3回	<p>音読②／詩のことは一声に出して読んでみる一</p> <p>今回はいくつかの詩を選んで、前回と同様の演習に取り組みます。</p>	次時の音読演習に備え、配布された日本古典文学のプリントの音読練習を繰り返す行う。	4時間
第4回	<p>音読③／古典のことは一声に出して読んでみる一</p> <p>今回はいくつかの日本古典文学の文章を選んで、前回と同様の演習に取り組みます。</p>	次時の音読演習に備え、配布された新聞記事のプリントの音読練習を繰り返す行う。	4時間
第5回	<p>音読④／ニュースのことは一声に出して読んでみる一</p> <p>標準語と方言の差異について踏まえた上で、アナウンサーになったつもりでニュース（新聞記事・マンガの台詞・舞台劇の台詞）を読む演習を行います。</p>	次時の読み聞かせ演習に備え、配布された絵本本文のプリントの音読練習を繰り返す行う。	4時間
第6回	<p>読み聞かせ①／擬音語・擬態語のみの絵本</p> <p>次は、誰かに読んで聞かせるという段階です。読み聞かせの基本的な技術について理解した上で、擬音語・擬態語（オノマトペと呼びます）のみで展開する絵本を、最初は淡々と読み、続いて様々な感情をつけながら読み聞かせる作業に取り組みます。</p>	次時の読み聞かせ演習に備え、配布された絵本の本文プリントの音読練習を繰り返す行う。	4時間
第7回	<p>読み聞かせ②／物語絵本</p> <p>物語絵本を、前回と同様、最初は淡々と読み、続いて様々な感情をつけながら読み聞かせる作業に取り組みます。</p>	次時の読み聞かせ演習に備え、自身で1冊の絵本を選定し、読み聞かせ練習を繰り返す行う。	4時間
第8回	<p>読み聞かせ③／各自の選書による絵本</p> <p>各自が選書した絵本を用いて、自身が最適であると判断したやり方で読み聞かせを実演します。</p>	次時の朗読演習に備え、配布された詩のプリントの音読練習を繰り返す行う。	4時間
第9回	<p>朗読・群読／詩のことは</p> <p>音読と朗読の違いや群読について理解します。その上で、いくつかの詩について内容理解の討議を行い、朗読・群読に取り組みます。</p>	次時の発話演習に備え、配布された顧客対応マニュアルをしっかりと覚え、音読練習を繰り返す行う。	4時間
第10回	<p>発話①／電話対応、店頭での顧客対応</p> <p>最後は、誰かと相互交流的に発話（対話）するという段階です。発話内容を全て頭に入れた上で、手元のメモなどに頼らず音声表現を行います。今回は、企業の店舗マニュアルにしたがい、顧客対応する従業員の実演（3分間）に取り組みます。（ペア演習）</p>	次時の発話演習に備え、自己紹介と友人とのエピソードを作文した上でしっかりと覚え、3分間の音読練習を繰り返す行う。	4時間
第11回	<p>発話②／自己紹介、スピーチ</p> <p>結婚披露宴に招待された友人代表という設定で、自己紹介および結婚する友人とのエピソードを含む3分間スピーチに取り組みます。（ペア演習）</p>	次時の発話演習に備え、配布された脚本をしっかりと覚え、どの役でも演じられるように音読練習を繰り返す行う。	4時間
第12回	<p>発話③／演劇のことは（対話劇）</p> <p>日常のことはと演劇のことはの違いについて理解した上で、身体所作はつけず音声表現のみで対話劇を実演します。（グループ演習）</p>	次時の発話演習に備え、配布された脚本をしっかりと覚え、自身で所作や言い回しを工夫しながら音読練習を繰り返す行う。	4時間
第13回	<p>発話④／演劇のことは（一人語り）</p> <p>対話相手不在という条件のもと、あたかも相手と対話しているかのように、適宜、身体所作を交えながら一人語りの実演（3分間）に取り組みます。</p>	次時の発話演習に備え、自身あるいはペアで1つの落語・漫才の演目を選定し、所作や言い回しを工夫しながら練習を繰り返す行う。	4時間
第14回	<p>発話⑤／演芸のことは（落語・漫才）</p> <p>各自で選択した3分程度の落語・漫才の演目を、身体所作も含めて完全コピーする形で実演に取り組みます。</p>	次時の討議および最終課題（レポート）に向けて、これまでの演習の振り返りを行う。	4時間
第15回	<p>よりよきコミュニケーション技術としての音声表現</p> <p>これまでの演習を踏まえ、〈音声表現〉の意義や日常生活における有効活用について、全員で総括（問題点の整理と方向性の確認）の討議を行います。</p>	提示された論題にしたがい、最終課題（レポート）を執筆する。	4時間

授業科目名	基礎発声法 I				
担当教員名	野田 順子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	美しい日本語、聴き取りやすい言葉を発声する為の講義が中心となります。発声の為に必要な正しい姿勢や口の動き等の基本的知識を、テキストや板書を使って説明し、受講生全員または個々にて、肉体訓				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は、歌を歌う発声トレーニングではありません。美しい日本語、聴き取りやすい言葉を発声する為に必要な知識を理解し、発声力や正確な清舌を身につける基礎発声トレーニングを行います。普段考えることのない「日本語を話す」という行為がどのような仕組みでなされているのか？基礎知識から実際に声を発し体感することにより、知識と技術を身につけていきます。声優を目指す学生に限らず、就職活動等の面接時や日常の会話をスムーズに行えるよう、毎回、細かく確認しながら授業を進めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	基礎発声の専門知識	発声のために必要な口の動きや姿勢等、基礎知識を身につけることができる。
汎用的な力		
1 . DP7. 完遂		課題に対し、物怖じすることなくやり遂げる力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内実技・実技試験	40%	： 課題に対し、正しい姿勢・明確な発声で最後までやり通すことができているか、積極的に表現することができるかどうか等を基準に40点満点で評価する。
受講態度	60%	： 授業に関する有意義な質問、授業中のやり取りによって積極的に参加しているか、また、遅刻状況、テキスト忘れ、私語、居眠り等の、授業を放棄していると思われる行為の程度によって評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

共通語を習得したい学生は、アクセント辞典の所有が望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	教室または非常勤講師室

授業計画

回	内容	自身の話し方に意識を向けること。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（基礎発声法とは？） 授業の進め方、方針等の概要説明。 人前で話してみよう。 自己紹介を活用したコミュニケーションを図ります。	自身の話し方に意識を向けること。	4時間
第2回	基礎の基礎 発声に必要な基礎知識を知ろう。 言葉の仕組み、発声の仕組み。	自身の発声方法に注意を払うこと。	4時間
第3回	基礎	自分と他者の話し方の違いを意識すること。	4時間

	発声を行う為に必要な知識を身につけよう。 標準語の無声音、鼻濁音とは？		
第4回	発声・滑舌「あ」行、「か」行 実際に発声してみよう。「あ」行、「か」行 早口言葉テキストを使用し、明確な発声を目指します。	今回の復習、次回課題「さ、た」行の予習。	4時間
第5回	発声・滑舌「さ」行、「た」行 実際に発声してみよう。「さ」行、「た」行 早口言葉テキストを使用し、明確な発声を目指します。	今回の復習、次回課題「な、は」行の予習。	4時間
第6回	発声・滑舌「な」行、「は」行 実際に発声してみよう。「な」行、「は」行 早口言葉テキストを使用し、明確な発声を目指します。	今回の復習、次回課題「ま、や」行の予習。	4時間
第7回	発声・滑舌「ま」行、「や」行 実際に発声してみよう。「ま」行、「や」行 早口言葉テキストを使用し、明確な発声を目指します。	今回の復習、次回課題「ら、わ」行の予習。	4時間
第8回	発声・滑舌「ら」行、「わ」行 実際に発声してみよう。「ら」行、「わ」行 早口言葉テキストを使用し、明確な発声を目指します。	今回の復習、次回課題「濁音、鼻濁音」の予習。	4時間
第9回	発声・滑舌「濁音」、「鼻濁音」 実際に発声してみよう。「濁音」、「鼻濁音」 早口言葉テキストを使用し、明確な発声を目指します。	今回の復習、次回課題「破裂音、破擦音」の予習。	4時間
第10回	発声・滑舌「破裂音」「破擦音」 実際に発声してみよう。「破裂音」「破擦音」 早口言葉テキストを使用し、明確な発声を目指します。	今回の復習、次回テキストの予習。	4時間
第11回	発声「言葉遊び」 早口言葉のテキスト等を使い、明確な発声を身につけよう。 「言葉遊び」をしながら息の使い方、響き方を体感します。	今まで行って来た滑舌基礎の反復練習。	4時間
第12回	発声「寿限無」 落語の一節「寿限無」を使い、明確な発声を身につけよう。	「寿限無」の反復練習。	4時間
第13回	発声・呼吸法「寿限無」 落語の一節「寿限無」を使い、息の使い方、響き方を体感しよう。	呼吸法を意識し反復練習。	4時間
第14回	発声・呼吸法「早口言葉」 早口言葉テキスト等を使い、明確な発声を身につけよう。 息の使い方、響き方が正確に出来ているか確認します。	自分の苦手箇所を意識し、克服するための反復練習。	4時間
第15回	授業まとめ 今まで練習して来た成果を早口言葉テキストを使い、どの程度正しい発声が身についたか確認します。	明確な発声ができているかを常に意識すること。	4時間

授業科目名	コンピュータ基礎				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	必修				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

社会で求められるコンピュータの扱いを身に付けるとともに、インターネットリテラシーやインターネットを用いた検索手法などについて学ぶ。特にWindowsの基本的操作に加え、Office系ソフトであるWordを用いた文書作成、Excelを用いたデータ管理とその表現、PowerPointを用いた発表資料作成を中心に学ぶ。さらに、SNSを含めたインターネットリテラシーや、インターネットを用いた学術的検索手法、メールのやり取り、タッチタイピングなどについても学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	コンピュータに関連するスキル	ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的操作ができる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		分かりやすい文書や発表資料が作成できる。
2．DP4. 課題発見		データ管理のために、表やグラフを作成できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業への取り組み状況	: 授業中に指示する作業を提出する（2点×15回=30点） 30%
演習課題	: Word, Excel, PowerPoint を用いた演習課題を完成する（10点×3回=30点） 30%
最終課題	: WordおよびExcelを用いて修学旅行のしおりを作成し、総合的なレポートを完成する（40点） 40%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	インターネットリテラシーと学内PCの操作 授業の目的、内容、評価について確認を行い、学内PCの基本的操作方法について学ぶ。インターネットリテラシーを身につける。	ポータルシステムにログインし、履修状況を確認する。 4時間
第2回	インターネット検索とタッチタイピング	eメールの送信、タッチタイピングの練習 4時間

	インターネットを用いた検索方法について学びながら、著作権への意識を高める。また文字入力（タッチタイピング）の練習を行う。		
第3回	Word入門 Wordに関する基礎知識を学び、文字入力や変換、様々なショートカットについて学ぶ。	Wordでの文書作成	4時間
第4回	Wordを用いた文章作成 Wordの文書作成機能、校正機能や表について学ぶ。	Wordでの文書作成	4時間
第5回	Wordを用いた画像処理 Wordを用いたレポート作成方法、画像などの挿入方法を学ぶ。	Wordの練習や例題に取り組む	4時間
第6回	PowerPoint入門 PowerPointの基礎知識を学ぶ。	PowerPointの練習や例題に取り組む。	4時間
第7回	プレゼンテーション入門 PowerPointを用いたプレゼンテーションについて学ぶ。	PowerPointの練習や例題に取り組み、プレゼンテーションの準備を行う。	4時間
第8回	プレゼンテーション実習 (1) PowerPointで作成したスライドを用いて実際にプレゼンテーション発表を行い、他者の発表の評価をする。	プレゼンテーションの準備	4時間
第9回	プレゼンテーション実習 (2) PowerPointで作成したスライドを用いて実際にプレゼンテーション発表を行い、他者の発表の評価をする。	プレゼンテーションの準備	4時間
第10回	プレゼンテーション実習 (3) PowerPointで作成したスライドを用いて実際にプレゼンテーション発表を行い、他者の発表の評価をする。	プレゼンテーションの準備	4時間
第11回	Excel入門 Excelの基礎知識を学び、データ入力の方法を身に付ける。	Excelの練習や例題に取り組む。	4時間
第12回	Excelを用いた関数と表作成 Excelを用いた簡単な関数を理解し、表の作成方法を学ぶ。	Excelの練習や例題に取り組む。	4時間
第13回	Excelを用いたグラフ作成 Excelを用いたグラフの作成方法を学ぶ。	Excelの練習や例題に取り組む。	4時間
第14回	まとめ これまでのWord, Excel, PowerPoint の振り返りを行い、最終課題（修学旅行のしおり）に関する説明を行う。	講義資料の復習。	4時間
第15回	課題演習 最終課題（修学旅行のしおり）を実際に作成する。	課題の完成。	4時間

授業科目名	日本語教育基礎演習				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開講科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、日本語教育の基礎である「言語一般」「言語と教育」について、日本語教育に必要な知識を身に付けることを目指す。「言語一般」「言語と教育」は、日本語教育能力検定試験の出題範囲の中でも出題頻度の高い分野である。こうした基礎的分野を学ぶことによって、日本語教育能力検定試験を受験しない場合においても、日本語の構造や文法体系、外国語教授法といった様々な視点から日本語について理解を深めることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	日本語の構造や文法体系の理解	日本語の構造や文法体系を理解し、説明することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	言語教育法の理解	言語教育法を理解した上で、実技につながる力を身に付けることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		日本語の構造や文法体系について、自分なりの問題意識を持つことができる。
2．DP5. 計画・立案力		日本語教育とはどのようなものかを実践的に考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

確認テスト

60%

評価の基準

： 授業内容の理解度について各回5点で評価し、合計60点とする。

期末テスト

40%

： 日本語の構造や文法体系、外国語教授法に関する問題を出題し、40点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

ヒューマンアカデミー『日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド』（翔泳社、2014年）
日本語教育能力検定試験受験予定者は購入することが望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限（13:00-14:30）

場所： 西館5階研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

回	ガイダンス—日本語教育とは—	日本語教育能力検定試験合格を目指すための学習の進め方を考える。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	「日本語教育基礎演習」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、日本語教育の概要について学ぶ。		4時間
第2回	言語の構造一般（1） 形態体系 「言語一般」の「形態体系」について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：形態素、異形態	4時間

第3回	言語の構造一般（2） 語彙①—語彙の分類・語彙の計量・語構成— 「言語一般」の「語彙」について学ぶ。「語彙」の中でも、語彙の分類、語彙の計量、語構成に注目して学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：語彙の分類・語彙の計量・語構成	4時間
第4回	言語の構造一般（3） 語彙②—変音現象・位相— 「言語一般」の「語彙」について学ぶ。「語彙」の中でも、変音現象、位相に注目して学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：変音現象・位相	4時間
第5回	言語の構造一般（4） 言語の種類、対照言語学 「言語一般」の「言語の種類」「対照言語学」について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：対照言語学と言語教育、言語類型論	4時間
第6回	文法体系（1） 文・構文・文型、アスペクト・テンス・ムード 「言語一般」の「文・構文・文型」「アスペクト・テンス・ムード」について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：文の種類、文型、ヴォイス、アスペクト、テンス、ムード	4時間
第7回	文法体系（2） 構造による文の分類と複文の諸相 「言語一般」の「構造による文の分類と複文の諸相」について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：連体修飾節、補足節、引用節、副詞節、並列節、テ形、従属節	4時間
第8回	文法体系（3） 「は」と「が」 「言語一般」の「は」と「が」について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：「は」、「が」	4時間
第9回	文法体系（4） 取り立て 「言語一般」の「取り立て」について学びます。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：取り立て	4時間
第10回	言語一般のまとめ 「言語一般」の確認問題に取り組み、重要用語とその内容について理解しているか確認する。	身につけていないものはレジュメに戻り、関連部分をよく読む。	4時間
第11回	言語教育法・実技（1） 学習観 「言語と教育」の「学習観」について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：学習観の変遷、学習理論	4時間
第12回	言語教育法・実技（2） 外国語教授法 「言語と教育」の「外国語教授法」について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：文字中心・教養のための教授法、音声中心・実用目的の教授法、学習者中心の教授法、ヒューマンステイックな教授法	4時間
第13回	言語教育法・実技（3） 指導法 「言語と教育」の「指導法」について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：言語知識の指導、言語運用の指導、日本事情・日本文化の指導、指導技術	4時間
第14回	言語教育法・実技のまとめ 「言語と教育」の確認問題に取り組み、重要用語とその内容について理解しているか確認する。	身につけていないものはレジュメに戻り、関連部分をよく読む。	4時間
第15回	「日本語教育基礎演習」のまとめ 「言語一般」「言語と教育」の分野から出題された問題に取り組み、再度、重要用語とその内容について理解しているか確認する。不明な点、誤った問題について振り返りを行う。	不明な点、誤った問題は、レジュメに戻り要点を確認する。確認問題を繰り返し解く。	4時間

授業科目名	基礎発声法Ⅱ				
担当教員名	野田順子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	明確で聴き取りやすい言葉を発声する為の講義が中心となります。言葉を発する為に必要な知識をより深く追求し、肉体訓練と共に発声・発音トレーニングを行います。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は、歌を歌う発声トレーニングではありません。美しい日本語、聴き取りやすい言葉を発する為に必要な知識を追求します。基礎発声法Ⅰで培った基礎発声・発音・滑舌練習を引き続き行い、発声力や正確な滑舌を身につける為の基礎トレーニングを行うことを目的としています。また、基礎発声力に表現力を加えたテキストを活用し、基礎知識に応用を加え、実際に表現して行くことにより、基礎力のスキルアップと技術を身につけていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	表現法基礎知識	表現を豊かにする基礎知識を身につけることができる。
汎用的な力		
1 . DP7. 完遂		課題に対し、物怖じすることなくやり遂げる力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内実技・実技試験

評価の基準

： 課題に対し、正しい姿勢・明確な発声で最後までやり通すことができているか、積極的に表現することができているかどうか等を基準に40点満点で評価する。

40%

受講態度

： 授業に関する有意義な質問、授業中のやり取りによって積極的に参加しているか。また、遅刻状況、テキスト忘れ、私語、居眠り等の、授業を放棄していると見なされる行為の程度によって評価する。

60%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

共通語を習得したい学生は、アクセント辞典の所有が望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 教室または非常勤講師室

授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（授業概要ガイダンス） 授業の進め方、方針等の概要説明。 フリートークを活用し、現在の自分の発声状態を知ろう。	日常生活の中で、正しい発声を常に意識する事。 4時間
第2回	表現法「アクセント」 表現を豊かにするポイントを知ろう。 「アクセント」とは？	言葉の調子を意識すること。 4時間
第3回	表現法「アーティキュレーション」 表現を豊かにするポイントを知ろう。 「アーティキュレーション」とは？	人の話し方の違いを意識すること。 4時間

第4回	表現法「リズム」 表現を豊かにするポイントを知ろう。 「リズム」とは？	喜怒哀楽を意識すること。	4時間
第5回	表現法「ポーズ」 表現を豊かにするポイントを知ろう。 「ポーズ」とは？	会話を意識すること。	4時間
第6回	表現法「フレージング」 表現を豊かにするポイントを知ろう。 「フレージング」とは？	感情の動きを意識すること。	4時間
第7回	表現法「イントネーション」 表現を豊かにするポイントを知ろう。 「イントネーション」とは？	方言と標準語の違いを意識すること。	4時間
第8回	表現法「プロミネンス」 表現を豊かにするポイントを知ろう。 「プロミネンス」とは？	言葉の強弱を意識すること。	4時間
第9回	発声と表現 前回までを踏まえながら、 歌舞伎の一節を使い、発声と表現力を身につけよう。	テキスト作品の世界観を調べること。	4時間
第10回	発声と表現「外郎売り」 歌舞伎の一節「外郎売り」を使い、 発声と表現力を身につける為、全体の流れを掴もう。	読めない漢字、意味を調べること。	4時間
第11回	発声と表現「ブロック分け」 歌舞伎の一節「外郎売り」を使い、 文章を区切りながら、明確な表現・発声しよう。	明確な発声で反復練習。	4時間
第12回	発声と表現「明確さ」 歌舞伎の一節「外郎売り」を使い、 ブロック分けされたアクセント等を確認しながら、 明確な表現をしよう。	自分のイメージする表現ができるよう準備する。	4時間
第13回	「外郎売り」発表 成果発表。 歌舞伎の一節「外郎売り」を正しい発声・発音で明瞭に読み上げよう。	イメージ通りの表現ができたかどうか確認。	4時間
第14回	成果確認 前回の成果発表を踏まえ、未熟箇所を確認し、 正しい発声・発音が出来ているか再確認・反復します。	次回テキストの苦手箇所を確認する。	4時間
第15回	授業まとめ テキスト使い、正しい発声・発音で明瞭に読み上げられているか。 また、自分のイメージ通りの表現ができるか確認します。	あらゆる事に興味を持ち、感性を鍛えること。	4時間

授業科目名	朗読演習				
担当教員名	野田 順子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	前に出て発表する講義が中心となります。古典や小説・詩を使って、作品の世界観、言葉の持つ意味、作者の意図を読み解きながら、朗読表現の基本的なレッスンをを行います。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は、古典や小説・詩、童話などを使って、文章の読解や表現を模索することを目的とします。作品に描かれている世界観、言葉の持つ意味、作者の意図を読み解きながら、雰囲気を読んでしまいがちな文章に意味を見だし、情感豊かに自分の意図やイメージを他者に対して正確に伝える力を身につけて行く。また、朗読表現の基本的なレッスンをを行うことにより、文章に描かれた情景をわかりやすく多数の人に届ける力、豊かな表現力を習得します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

朗読表現の知識と技

目標：

抑揚、強調、緩急、間を柔軟に取り入れ、豊かな表現力を身につけることができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

文章に描かれた情景を、わかりやすく多数の人に届ける力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内実技・実技試験

40%

受講態度

60%

評価の基準

： 作品に見合った明確な発声で、最後までやり通すことができているか、積極的に表現することができるかどうか等を基準に40点満点で評価する。

： 授業に関する有意義な質問、授業中のやり取りによって積極的に参加しているか。また、遅刻状況、テキスト忘れ、私語、居眠り等の、授業を放棄していると見なされる行為の程度によって評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

共通語を習得したい学生は、アクセント辞典の所有が望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 教室または非常勤講師室

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（授業概要ガイダンス） 授業の進め方、方針等の概要説明。 フリートーク。 自己紹介で互いを知ろう。	4時間
第2回	朗読のススメ 朗読をする為に必要な知識、技術等の基礎を学ぼう。	4時間

第3回	詩「夢みたものは……」 立原道造の詩を読もう。 穏やかな詩の表現とは？	テキストの詩を読み込むこと。	4時間
第4回	詩「竹」 萩原朔太郎の詩を読もう。 力強い詩の表現とは？	詩の書かれた時代を調べること。	4時間
第5回	詩「あどけない話」 高村光太郎の詩を読もう。 愛情あふれる詩の表現とは？	作品当時の状況を調べること。	4時間
第6回	詩「雨ニモマケズ」 宮沢賢治の詩を読もう。 リズムやテンポ感のよい表現とは？	心地よいリズムを考えること。	4時間
第7回	詩と童話 詩の表現と童話の表現の違いを体感しよう。	情報量の違いを読み取ること。	4時間
第8回	童話「こぶたのとことこ」 童話を使い、 視点の切り替えを身につけよう。	文章に合った読み方を考えること。	4時間
第9回	小説「蜘蛛の糸」前編 芥川龍之介の小説を読もう。 長文を聞きやすく表現するには？	物語を何度も読み込むこと。	4時間
第10回	小説「蜘蛛の糸」後編 芥川龍之介の小説を読もう。 読解力の向上を目指すには？	物語に合ったスピードを考えること。	4時間
第11回	小説「夢十夜」前編 夏目漱石の小説を読もう。 想像力を駆使するには？	物語の世界観を考えること。	4時間
第12回	小説「夢十夜」後編 夏目漱石の小説を読もう。 会話表現力を身につけるには？	興味を持って観察すること。	4時間
第13回	朗読・第一グループ 第一グループ「夢十夜」発表。 作品の内容や状況・設定を踏まえ、 「聞きやすく」「わかりやすい」朗読を目指し、 練習してきた成果を発表します。	繰り返し作品を読むこと。	4時間
第14回	朗読・第二グループ 第二グループ「夢十夜」発表。 作品の内容や状況・設定を踏まえ、 「聞きやすく」「わかりやすい」朗読を目指し、 練習してきた成果を発表します。	苦手な言葉を意識すること。	4時間
第15回	授業まとめ 自分の表現を聴き手に伝える為にどうすれば良いのか等、 授業内で考察してきた成果の確認、総評。	注意深く人間観察をすること。	4時間

授業科目名	音楽パフォーマンス				
担当教員名	楠井淳子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

ノンバーバルコミュニケーションである音楽を使って感性を養います。声・からだを使ったアンサンブルや合唱、各種楽器を用いたアンサンブルなどのグループワークを通して“共に音楽する”ことの意味や効果を探ります。そして、即興やわらべうたを素材とした音楽作りでは、音楽の持つ規則的なテンポ、リズム、音列の枠内、また枠におさまらないものも含んだ創作体験により、非言語で自己表現したり、他者の表現を感受することで音楽表現や創造力を身に付けます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	音やリズムが持つ機能をよく理解し意図的に使える知識。	リズムや音符の高さを理解して演奏する事ができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	声や各種楽器などを意図する表現に向けて演奏する技能。自己の発想を具現化する技能。	グループワークの中で自己表現ができる。簡単な音楽パフォーマンスを創作することができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		自主的な練習を継続することにより、自己の表現力を高める事ができる。
2．DP9. 役割理解・連携行動		アンサンブルや合唱などのグループワークを通して、協同する力を育むと共に自己の役割を果たす事ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題1

20%

授業内課題2

40%

授業内課題3

20%

受講態度（積極的参加）

20%

評価の基準

： 期末レポート課題を20点満点で評価する。

： 各種楽器や合唱などのアンサンブル表現を基礎力・表現力の観点から各5段階で評価する。

： ワークシートなどの提出課題を10段階で評価する。

： 各種発表におけるコメントシートにより5段階で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 第9研究室

備考・注意事項： その他の時間も第9研究室（西館6階）で受け付けます。

授業計画			授業外学修課題にかかると自らの時間
第1回	授業の概要と音楽パフォーマンス入門 <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・音、音楽の起源 ・記譜：音符と休符について ・様々な音階 	音符と休符、音階についての練習問題を復習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第2回	基礎リズムとボディーパーカッション <ul style="list-style-type: none"> ・基礎リズム ・ボディーパーカッション ・リズムアンサンブル 	音価とリズムについての練習問題を復習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第3回	合奏① <ul style="list-style-type: none"> ・各種楽器を用いた合奏曲を演奏する。 ・グループ毎に選曲する。 ・楽器編成と役割を決定する。 ・楽器の奏法 	合奏曲の自己練習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第4回	合奏② グループ活動：パート別に練習する。 グループ全体での練習。	合奏曲の自己練習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第5回	合奏③ <ul style="list-style-type: none"> ・グループ練習を行う ・合奏作品の発表 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想をまとめ意見交換や討議を行なう。 	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第6回	トーンチャイムとハンドベルを使った音楽① <ul style="list-style-type: none"> ・トーンチャイムとハンドベル ・楽器の奏法 ・オブリガート奏とハーモニー奏 ・グループ毎に選曲する。 	課題曲のメロディーの歌唱練習。鍵盤楽器があれば視奏練習も行う。	4時間
第7回	トーンチャイムとハンドベルを使った音楽② <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に音の配分を考察し、役割分担する。 ・パート別に練習する。 ・全体練習も行う。 	自己パートの練習として音読と歌唱を行なう。鍵盤楽器があれば視奏練習も行う。	4時間
第8回	トーンチャイムとハンドベルを使った音楽③ <ul style="list-style-type: none"> ・グループ練習 ・トーンチャイム、ハンドベルアンサンブルの発表。 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想をまとめ意見交換や討議を行なう。 	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第9回	わらべうた創作① <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたを素材として、五音音階など民族的な音楽についての理解を深める。 ・各種わらべうたを身体表現を伴いながら歌う。 ・わらべうたの音階を使って、各自わらべうたを創作する。 	わらべうた創作の推敲。	4時間
第10回	わらべうた創作② <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうた創作を完成させる。 ・創作したメロディーを演奏する。 ・可能であれば、リズム楽器を加えたアンサンブルを考察する。 	創作したわらべうたの練習。自分が知っているわらべうたを確認し、歌ったり動作をつけたりして表現練習する。	4時間
第11回	わらべうた創作③ <ul style="list-style-type: none"> ・創作わらべうたの練習 ・発表 ・他者の演奏を聴き、批評と感想をまとめ意見交換や討議を行なう。 	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。わらべうたを歌う。	4時間
第12回	声や各種楽器による音楽パフォーマンス① <ul style="list-style-type: none"> ・発声法と発声練習 ・合唱曲（2部合唱）を歌う。 ・各自のパートを決定する。 ・パート練習と全体練習 ・グループに分けて、選曲する。 ・各種楽器のアンサンブルを選択したグループは選曲した楽曲の場合に応じてアレンジする。 	発声練習を行う。パフォーマンス作品の各自パート練習。	4時間
第13回	声や各種楽器による音楽パフォーマンス② <ul style="list-style-type: none"> ・音楽パフォーマンス作品の練習 ・作品の表現練習と工夫 ・グループ練習 	発声練習を行う。パフォーマンス作品の各自のパート練習。表現にも配慮して練習する。	4時間
第14回	声や各種楽器による音楽パフォーマンス③ <ul style="list-style-type: none"> ・音楽パフォーマンス作品の練習では完成度を高める。 ・演奏会リハーサル 	各自の完成度を高める練習を行う。可能であれば練習グループも課外時間に実施する。	4時間
第15回	声や各種楽器による音楽パフォーマンス発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・音楽パフォーマンス作品の発表。 ・グループ別と全体曲。 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想、自己評価をまとめ意見交換や討議を行なう。 	期末レポート課題を作成する。	4時間

授業科目名	笑い表現 1				
担当教員名	桂 春蝶				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	伝統芸能のワークショップ、実演、解説を通し、プレゼン技術、話し方、自己表現、それらの向上のためのノウハウを落語家・桂春蝶もしくは様々な分野のゲストを迎えお教えします。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

落語を中心とした伝統芸能を通して、日本の伝統文化・古典的表現法を学び、プレゼン技術・自己表現力・コミュニケーション能力を向上させ、日本の文化に理解を持ち、国際化する社会で活躍する人材の育成を目的とする。具体的には、担当教員の落語家・桂春蝶による落語の実演、その他プロによる講談・浪曲などの伝統芸能の実演を体験する。実演後、表現技術向上に際しての経験談を聞くことで、伝統文化への理解を深める。また、そのノウハウを応用して、自己表現のワークショップを実施することで表現力の向上を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	伝統芸能に関する知識	実演の鑑賞を通して、伝統芸能の表現法を理解できる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		理解した伝統芸能の表現法を自己表現に応用できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

評価の基準

： 芸能表現に対して真摯な態度で鑑賞できていること、毎回の自己表現への積極性を評価する。

50%

毎回の小レポート

： 毎回の授業のまとめとして小レポートの課題を提出。内容の豊かさと独自性についても評価する。

50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・醒酔笑 (安楽庵 策伝著)
- ・米朝落語全集

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えます。

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	自己表現入門（1） 自己紹介 自己紹介をする、または他人の自己紹介を聞き、その構成や手法を分析することで表現についての理解を深めます。	自分の好きなものについて様々な角度から紹介できるよう準備する。 4時間
第2回	自己表現入門（2） 好きなものの紹介 好きなものを紹介する、または他人の好きなものの紹介を聞き、その構成や手法を分析することで、正確な情報伝達に必要なものを学びます。	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。 4時間
第3回	伝統芸能の体験（1） 落語を聞きましよう 桂春蝶が上方落語の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。	実演された演目以外の落語の音源を聴く。 4時間

第4回	伝統芸能の表現法（1） 落語の表現を理解しましょう 上方落語の表現のノウハウ、経験談を聞くことで、表現力を向上させます。	落語に関する書籍を読む	4時間
第5回	伝統的表現法の応用（1） 落語の表現を使ってみましょう 落語的表現を用いて小噺やジョークをつくり発表することで、表現法の定着を図ります。	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。	4時間
第6回	伝統芸能の体験（2） 講談を聞きましょう 講談の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。	実演された演目以外の講談の音源を聴く。	4時間
第7回	伝統芸能の表現法（2） 講談の表現を理解しましょう 講談の表現のノウハウを学び、表現力を向上させます。	講談に関する書籍を読む。	4時間
第8回	伝統的表現法の応用（2） 講談の表現を使ってみましょう 講談的表現を用いて過去の出来事を発表することで、表現法の定着を図ります。	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。	4時間
第9回	表現法の優越性と限界を学びましょう 落語と講談という二つの似て非なる芸能の表現法を比較することで、表現法の適性を学びます。	自分の住む地域でなされている地域寄席について調べる。	4時間
第10回	伝統芸能の体験（3） 浪曲を聞きましょう 浪曲の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。	実演された演目以外の浪曲の音源を聴く。	4時間
第11回	伝統芸能の表現法（3） 浪曲の表現を理解しましょう 浪曲の表現のノウハウを学び、表現力を向上させます。	浪曲に関する書籍を読む。	4時間
第12回	伝統的表現法の応用（3） 浪曲の表現を使ってみましょう 浪曲的表現を用いて最近興味のあるニュースを発表することで、表現法の定着を図ります。	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。	4時間
第13回	討論会に参加して、自己表現方法を考えましょう 討論会を実施し、自分の意見を的確に表現するために必要なものを学びます。	今まで学んだ表現法を使って自己紹介できるようにする。	4時間
第14回	自己表現応用（1） 自己紹介しましょう これまで学んだ表現法を駆使し自己紹介をします。また、自己表現入門（1）の時からどのように変わったかを分析することで、自分にとって得意な表現法を体得します。	今まで学んだ表現法を使って好きなものの紹介をできるようにする。	4時間
第15回	自己表現応用（2） 好きなものの紹介をしましょう これまで学んだ表現法を駆使し好きなものを紹介をします。また、自己表現入門（2）の時からどのように変わったかを分析し、伝統的な表現法から新しい表現をしていく可能性について学びます。	今まで学んだ表現法をあらゆる場面で実践する。	4時間

授業科目名	笑いと表現2				
担当教員名	桂 春蝶				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	落語、講談、浪曲、漫才、太神楽、人相学講座、心理学講座等 あらゆるジャンルの本芸、解説、ワークショップを聞き 知識を広め、ココロを動かします。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

多彩な表現のプロ達を招き、プロの技術・仕事内容を知ること、プレゼン技術・自己表現力・コミュニケーション能力を向上させ、発信力のある人材の育成を目的とする。具体的には、担当教員の落語家・桂春蝶による落語の実演、その他講談、浪曲、漫才、太神楽、人相学講座、心理学講座等を体験する。実演後、表現技術向上に際しての経験談を聞き、そのノウハウを応用して、自己表現のワークショップを実施することで表現力の向上を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	多様な表現法に関する知識	実演の鑑賞を通して、多様な表現法を理解できる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		理解した表現法を自己表現に応用できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

評価の基準

： 芸能および講座に対する鑑賞態度、自己表現の積極性を評価する。

50%

毎回の小レポート

： 内容の妥当性と独自性について評価する。

50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・醒酔笑 (安楽庵 策伝著)
- ・米朝落語全集

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 質問は授業の前後にも答えます。

授業計画

回	内容	実演された演目以外の滑稽の音源を聴く。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	落語の体験（1） 滑稽 桂春蝶が滑稽の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。	実演された演目以外の滑稽の音源を聴く。	4時間
第2回	表現法の実践（1） 滑稽 滑稽における表現のノウハウ、経験談を聞き実践することで、表現力を向上させます。	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。	4時間
第3回	落語の体験（2） 人情 桂春蝶が人情の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。	実演された演目以外の人情の音源を聴く。	4時間
第4回	表現法の実践（2） 人情	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。	4時間

	人情噺における表現のノウハウ、経験談を聞き実践することで、表現力を向上させます。		
第5回	落語の体験（3） 怪談噺 桂春蝶が怪談噺の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。	実演された演目以外の怪談噺の音源を聴く。	4時間
第6回	表現法の実践（3） 怪談噺 怪談噺における表現のノウハウ、経験談を聞き実践することで、表現力を向上させます。	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。	4時間
第7回	聴き手の心理学 聴衆心理を学ぶことで、舞台における表現についての理解を深めます	生の舞台で芸能を鑑賞する。	4時間
第8回	多様な表現法（1） 講談 講談の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。また、講談の表現のノウハウを学び、表現力を向上させます。	講談の歴史を調べる。	4時間
第9回	多様な表現法（2） 浪曲 浪曲の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。また、浪曲の表現のノウハウを学び、表現力を向上させます。	浪曲の歴史を調べる。	4時間
第10回	多様な表現法（3） 太神楽 太神楽の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。また、太神楽の表現のノウハウを学び、表現力を向上させます。	太神楽の歴史を調べる。	4時間
第11回	多様な表現法（4） 人相学・占い 人相学・占いを実演します。その経験談やノウハウを学び、人の興味をひきつける技術を向上させます。	人相学・占いの歴史を調べる。	4時間
第12回	多様な表現法（5） 漫才 漫才の実演をします。鑑賞後、その感想を発表します。また、漫才の表現のノウハウを学び、表現力を向上させます。	漫才の歴史を調べる。	4時間
第13回	笑いの構造 小噺の実演を鑑賞し、いかにして笑いが生まれるかを学びます。	醒酔笑を読み、笑いの構造を理解する。	4時間
第14回	笑いの比較 落語のオチを分類し比較することで、いかにして笑いが生まれるかを学びます。	醒酔笑を読み、笑いを分類する。	4時間
第15回	笑いの実践 小噺・ジョークをつくり、発表します。	授業で得たノウハウを友人間や家庭で実践する。	4時間

授業科目名	漢文学入門				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①漢文を読む上で必要となる句法や重要な文字などに関する知識を着実に習得するとともに、②漢文の読解力を養成することを目指す。漢文の重要事項への理解を深め、読解力を高めることで、中学校教育の現場で漢文や漢詩について分かりやすく説明することができる知識を習得することを本授業の目的とする。また、中学校国語の教科書で故事や漢詩がどのように導入されているか理解し、教育実習の授業実習につなげることができるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	漢文の句法の理解	漢文を読む上で必要となる句法や重要な文字を理解し、説明することができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	漢文の読解力	句法や重要な文字の理解を踏まえ、漢文や漢詩を読解することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		現代の国語教育（故事や漢詩）について、自分なりの問題意識を持つことができる。
2．DP10. 忠恕の心		建学の精神である「桃李不言下自成蹊」、行動指針である「忠恕」の意味を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

確認テスト	評価の基準
65%	： 授業内容の理解度について各回5点で評価し、合計65点とする。
期末テスト	： 漢文の句法や漢詩に関する問題を出題し、35点で評価する。
35%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・ 畠山利子『徹底20日間マスター 漢文（基礎編）』（日栄社、2012年）
- ・ 高橋健一・寺田るり子・藤堂光順『ステップアップノート10 漢文 句形ドリルと演習』（河合出版、2015年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日3限（13:00-14:30）
場所：	西館5階研究室
備考・注意事項：	その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

回	内容	授業で取り上げた漢文や故事についての重要事項を復習する。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス—漢文とは— 一般的な漢文や故事に触れ、漢文とは何か学ぶ。		4時間
第2回	訓読の決まり（1）漢文の構造、送りがなを教育実践から考える 漢文の構造、送りがなについて学び、訓読の方法を習得するとともに、教育実践の視点から「訓読の決まり」を捉え直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：歴史のかなづかい	4時間

第3回	訓読の決まり（２）返り点、書き下し文を教育実践から考える 返り点、書き下し文について学び、訓読の方法を習得するとともに、教育実践の視点から「訓読の決まり」を捉え直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：レ点、一・二点、上・下点、仮名書き、置き字	4時間
第4回	句形（１）使役を教育実践から考える 教育実践の視点から「他に一させる」という内容を表す使役形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：使、命	4時間
第5回	句形（２）受身を教育実践から考える 教育実践の視点から「他から一される」という内容を表す受身形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：被、見	4時間
第6回	句形（３）否定を教育実践から考える 教育実践の視点から単純な否定と禁止を表す句形である否定形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：不、非、無、勿	4時間
第7回	句形（４）疑問形・反語形を教育実践から考える 教育実践の視点から問いかけを表す疑問形、および疑問形の形をとって否定の意味を表す反語形のうち、文末の助字を用いる形、疑問詞を用いる形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：文末の助字を用いる形、疑問詞を用いる形	4時間
第8回	句形（５）比較形・最上形を教育実践から考える 教育実践の視点から二つのものについて優劣や程度を比べる意味を表す比較形と、あるものが他の何ものよりもまさっていることを表す最上形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：如、於、莫	4時間
第9回	句形（６）限定形・累加形を教育実践から考える 教育実践の視点から「ただ～だけ」と限定する意味を表す限定形、「～だけでない」と付け加えることを表す累加形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：唯、耳	4時間
第10回	句形（７）仮定形を教育実践から考える 教育実践の視点から「もし～ならば」と現実にそうならないことを仮定することを表す仮定形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：若、雖	4時間
第11回	中学国語の故事・漢詩（１）中学１年、中学２年 中学国語の１年および２年の教科書で取り上げられている故事や漢詩の教材研究を行う。	教材研究に取り組む。	4時間
第12回	中学国語の漢文（２）中学３年 中学国語の３年の教科書で取り上げられている漢文の教材研究を行う。	教材研究の内容をプリントにまとめる。	4時間
第13回	漢詩を教育実践から考える 教育実践の視点から漢詩の形式、押韻、対句などに関するルールについて学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：絶句、律詩、押韻、対句	4時間
第14回	漢詩の歴史を考える 教育実践の視点から漢詩の歴史について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：李白、杜甫、王維	4時間
第15回	句法と漢詩のまとめ 本授業で取り上げた訓読の決まり、句法（１）～（７）、および漢詩について、もう一度教育実践の視点から確認する。	身につけていないものは、ノートに戻り要点を確認する。	4時間

授業科目名	グローバルプレゼンテーション				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本当のプレゼンとは何か。プレゼンとは、単に言いたいことをいうのではなく、相手の心に響くストーリーを語らなければならない。様々なプレゼンを通して、自分に合ったスキルを身につける授業です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	論理的思考力	母語を用いて論理的に考えをまとめることができる。
2．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	言語・非言語を用いた効果的プレゼンテーション	自分の考えを他者へ適切に伝えることができる。
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		様々な社会問題をテーマとして、何が課題であり、またその課題をどのように解決できるかを考える。
2．DP9.役割理解・連携行動		異なる価値観を尊重する姿勢を持ち、他者と協力して自らの学びを深めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

	評価の基準
発表	40% : 授業内でプレゼンを実施し、内容とプレゼンのスキルを評価する。
レポート	30% : 授業の中でレポートの形式は説明する。授業で話し合った内容や、または与えられたトピックに関する自分の意見をレポートとして提出してもらう。
授業への貢献度	30% : ディスカッションやグループワークの姿勢を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
クリスアンダーソン	TED TALKS スーパープレゼンを学ぶTED公式ガイド	日経BP社	2016年

参考文献等

「Show and Tell 描いて、見せて、伝える」 スゴイ！プレゼン」
その他の参考文献等は授業中に指示を出す。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 授業に関する質問が多い場合は、事前にメール (kudoh-r@osaka-seikei.ac.jp)を送ること。メールには氏名と所属を明記すること。

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる目安の時間
第1回	プレゼンテーションリテラシー プレゼンのスキルは誰でも身につけられるかどうかを、VTRを見ながら考える。様々な方法で行われるプレゼンテーションを見て、効果的に用いられているスキルを考える。	授業で見たTED以外のVTRを見て必要なスキルを取り出ししておく。今回は、付箋が必要です。 1時間
第2回	スピーチのテーマについて考える① 社会編 様々な社会問題を取り上げ、KJ法による課題発見・解決を考える。	課題の解決についてレポートを書きあげる。 2時間
第3回	スピーチのテーマについて考える② 個人の関心事 自分の興味関心のあるものを一つ選び、即興でスピーチを行う。評価シートを用いて、どのように伝えれば、聴衆の心に響くかなどをしっかりと振り返る。	評価シートを見て、自分の課題を書きあげ、解決策を書く。 1時間
第4回	アイデアを築く 優れたトークは贈り物であるという考えを基に、どのようにすれば、何が優れたトークなのかを考える。	授業で見たTED以外のVTRを見て優れたトークをしている人物を探し出し、優れた点を書きあげる。 1時間
第5回	プレゼンにおけるよくある落とし穴 プレゼンにおけるNGを見つけ、何がダメなのかを考える。言いたいことははっきりさせる方法を学ぶ。	1～3回目までの授業内容を復習 1時間
第6回	コネクション・ナレーション 自分に聴衆を引き寄せるために、物語に入りこませる方法を学ぶ。	授業時に見たTED以外のVTRを見て、自分の心に響いたナレーションを行っている人物を書き出し、その理由も書き出す。 1時間
第7回	説明・説得・見せる コンセプトの説明の仕方を学ぶ。論理的で相手の考え方を考えさせ、聴衆を感動させる方法を考える。	4回目と5回目の授業の復習 1時間
第8回	準備① 原稿 原稿の作り方を学ぶ。序論→本論→結論といった基本の流れを基に、わかりやすい内容でどう伝えるかを考える。	原稿を完成させる。 2時間
第9回	準備② スライド 実際のプレゼンでは、PPなどのプレゼンテーション用のソフトを用いて説明する。今回はPPを利用してプレゼンを作成する。効果的な写真や音、さらにはアニメーションをつけていく。	PPの完成 2時間
第10回	準備③ 本番で必要なこと 当日の服装を選ぶ。緊張しないために行うこと。本番のステージの確認。声の調子。	緊張しないための自分の方法を書いてくる。また、当日の服装を選び、記録する。 1時間
第11回	準備④ まねる 効果的なスキル TEDを見て、自分に合う登壇者を探し出し、その人が持っているスキルを書き出す。そのスキルを自分のプレゼンのどの部分に活かせるかを考える。	ワークシートを完成させる。 1時間
第12回	準備④ 通し練習(1) 本番前の確認を行う。評価シートを用いて、それぞれが改善点についてどうすればよいかを考える。	授業で指摘をうけた箇所を踏まえて、プレゼンの準備を行う。 2時間
第13回	準備⑤ 通し練習(2) 本番前の確認を行う。評価シートを用いて、それぞれが改善点についてどうすればよいかを考える。	本番に向けた準備を行う。 2時間
第14回	プレゼン本番 各自の内容を順に発表し、互いにコメントを出す。	プレゼンに関する評価を見て、各自の課題を書き出す。 1時間
第15回	リフレクション パブリックスピーキングとは何かを考える。また、これまでやってきた内容を踏まえて、パブリックスピーキングの大切さを学ぶ。	0時間

授業科目名	Communications 1				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、日本人学生が海外旅行や留学でよく遭遇する問題やシチュエーションを扱いながら、日常英会話に必要な聴解力・表現力を伸ばすことを目的とします。各授業では、自然な速度の英語を多く聞き、英語特有のリズムやイントネーションを理解するように努めます。また、題材に用いられている基本語彙や表現、文法項目を学習し、それらを用いて自分の意見を表現できるように、スピーキング練習や英作文、プレゼンテーションを実施します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日常的な英会話能力、英語聴解能力、英文読解能力、英作文能力

目標：

身近な日常生活について、英語で理解し表現することができる。世界で起こっている様々な話題を学び、異文化理解を深めることができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小テスト（単語・ディクテーション）	20%	： 毎回、授業の初めに既習単元の単語テストやディクテーションテストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価とします。
まとめテスト	60%	： 二回のまとめテストを、第7回・第14回に実施します。指定教科書の既習範囲を対象として、それまでの振り返りと知識の定着を確認するテストを行います。60点満点のまとめテストの平均を評価の60%とします。
グループ発表	20%	： 授業内で用いた英語の語彙や表現を応用して、グループプレゼンテーションを実施します。第15回の授業日に行い、評価の20%とします。

使用教科書

指定する

著者

Simon Cookson, Chihiro Tajima

タイトル

Communicate Abroad: Essential English for Travel and Study

出版社

Cengage Learning

出版年

2016年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： メールアドレス： asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画			授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	オリエンテーション、Unit 1 (前半) My Suitcase Is Overweight ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・荷造りや空港での出来事に関する語彙や表現を学びます。 ・現在形と現在進行形、過去形の時制の違いを学びます。	Unit 1 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。Unit 2 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第2回	Unit 2 I'm Suffering from Jet Lag ・時差ぼけについての英文を読解します。 ・自分の住んでいる地域の食について表現できるように、英会話の練習をします。	Unit 2 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 3 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第3回	Unit 3 Each Host Family Is Different ・ホストファミリーに関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形の時制を使った表現を学びます。	Unit 3で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 4 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第4回	Unit 4 I'm Experiencing Culture Shock ・カルチャーショックについての英文を読解します。 ・初めて会う人とスモールトークができるように、英会話の練習をします。	Unit 1-4 で学習した単語・表現を復習し、まとめテストに備えます。	4時間
第5回	小括 Unit 1-4 ・既習範囲を対象にまとめテストを実施します。 ・助動詞willと時を表す句を用いた表現を学びます。	Unit 5 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第6回	Unit 5 My Dormitory Is too Noisy ・寮生活についての英文を読解します。 ・自分の都市生活についての見解を伝えられるように、英会話の練習をします。	Unit 5 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 6 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第7回	Unit 6 How Can I Make Friends? ・人間関係についての英文を読解します。 ・自分の友人関係についての見解を伝えられるように、英会話の練習をします。	Unit7 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第8回	Unit 7 What Should I Talk About? ・共通の話題に関する語彙や表現を学びます。 ・比較級や不定詞を用いた表現を学びます。	Unit 7で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 8 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第9回	Unit 8 I Feel Homesick ・ホームシックについての英文を読解します。 ・自分の病状を伝えられるように、英会話の練習をします。	Unit 5-8で学習した単語・表現を復習し、まとめテストに備えます。	4時間
第10回	小括 Unit 5-8 ・既習範囲を対象にまとめテストを実施します。 ・過去形と過去進行形の違い、enoughを用いた表現を学びます。	Unit 9で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 10 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第11回	Unit 9 How Do I Order Food? ・料理の注文についての英文を読解します。 ・自分のこれまでの挑戦について表現できるように、英会話の練習をします。	Unit 9 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 10 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第12回	Unit 10 I Lost My Passport ・海外でのトラブルに関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形、How + 形容詞を用いた表現を学びます。	Unit 10で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 11 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第13回	Unit 11 I Need to Go to Hospital ・身体の不調についての英文を読解します。 ・自分の人生の段階に起きた出来事について話すために、英会話の練習をします。	Unit 11 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第14回	Unit 12 I Don't Want to Leave ・ホストファミリーに別れを告げる時についての英文を読解します。 ・自分の感謝を効果的に伝えるために、英会話の練習をします。	Unit 9-12 で学習した単語・表現を復習し、プレゼンテーションの準備をしておきます。	4時間
第15回	Unit 9-12 総括、プレゼンテーション	既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。	4時間

- ・前期の授業内容を振り返ります。
 - ・これまでの学習内容から課題をひとつ選び、プレゼンテーションを行います。
-

授業科目名	Communications2				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

私たちの日常には様々な不思議があちこちに潜んでいるが、それらに対する「なぜ」は放置されがちである。本講義では、その「なぜ」を心理学的・科学的にアプローチしていくことで、科学的なりテラシーを身に付ける。特に認知心理学や知覚心理学、社会心理学に重点を置き、超常現象や錯覚、記憶や注意、原因帰属と言ったトピックを扱い、科学とは何か、心理学とは何かという姿勢を学ぶ。また講義を通じて批判的思考を身に付けることを目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	科学的な思考力を身に付ける。	講義内で扱う内容を深く理解し、議論する。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		日常的に存在する不思議を科学的・批判的に考える。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

30%

中間レポート

30%

期末レポート

40%

評価の基準

： 授業内容に関する質問、コメント、感想などを記入するコメントカードを用いて評価する。(2点×15回=30点)

： 講義の前半で学んだ知識を正しく理解し、表現できているかについて評価する。

： 講義で学んだ知識を正しく理解し、表現できているかについて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	なぜ心理学は科学なのか 授業の目的、内容、評価について確認を行い、各種心理学の基本的な考え方を理解する。	配布資料を復習し、自身が考えたこと、感じたことをまとめる。 4時間
第2回	なぜ人は占いを信じるのか 占いをテーマとして扱い、認知心理学的観点から論じる。	配布資料を復習し、自身が考えたこと、感じたことをまとめる。 4時間

第3回	なぜ人はお化けを信じるのか 妖怪やお化け等をテーマとして扱い、認知心理学的観点から論じる。	配布資料を復習し、自身が考えたこと、感じたことをまとめる。	4時間
第4回	なぜ人は予知夢を信じるのか 予知夢や予言をテーマとして扱い、認知心理学的観点から論じる。	配布資料を復習し、自身が考えたこと、感じたことをまとめる。	4時間
第5回	なぜ人は錯覚を起こすのか 様々な錯視をテーマに扱い、視覚や知覚の仕組みから論じる。	配布資料を復習し、自身が考えたこと、感じたことをまとめる。	4時間
第6回	なぜ人は色や形で錯覚を起こすのか 様々な錯視（特に色と形）をテーマに扱い、視覚や知覚の仕組みから論じる。	配布資料を復習し、自身が考えたこと、感じたことをまとめる。	4時間
第7回	なぜ人は奥行きで錯視を起こすのか 様々な錯視（特に奥行きとゲシュタルト要因）をテーマに扱い、視覚や知覚の仕組みから論じる。	配布資料を復習し、自身が考えたこと、感じたことをまとめる。	4時間
第8回	なぜ人は記憶を間違えるのか 誤った記憶をテーマに扱い、記憶の仕組みの観点から論じる。	配布資料を復習し、自身が考えたこと、感じたことをまとめる。	4時間
第9回	なぜ人は誤った記憶を思い出すのか 誤った記憶（虚再生課題やフラッシュバルブ記憶）をテーマに扱い、記憶の仕組みの観点から論じる。	配布資料を復習し、自身が考えたこと、感じたことをまとめる。	4時間
第10回	なぜ人は誤った記憶を作り出すのか 誤った記憶（抑圧された記憶や誤導情報効果）をテーマに扱い、記憶の仕組みの観点から論じる。	配布資料を復習し、自身が考えたこと、感じたことをまとめる。	4時間
第11回	なぜ人は注意をうまく向けられないのか 人間の注意をテーマに扱い、注意の仕組みの観点から論じる。	配布資料を復習し、自身が考えたこと、感じたことをまとめる。	4時間
第12回	なぜ人は変化に注目できないのか 人間の注意をテーマに扱い、注意の仕組みの観点から論じる。	配布資料を復習し、自身が考えたこと、感じたことをまとめる。	4時間
第13回	なぜ人は原因と結果を誤るのか 人間の原因帰属や内集団ひいきをテーマに扱い、社会心理学の観点から論じる。	配布資料を復習し、自身が考えたこと、感じたことをまとめる。	4時間
第14回	なぜ人は自分を正しいと思うのか 人間のヒューリスティクスをテーマに扱い、認知心理学の観点から論じる。	配布資料を復習し、自身が考えたこと、感じたことをまとめる。	4時間
第15回	まとめ 本講義の内容を整理し、言及できなかった点を中心に補足します。	これまでの授業を復習し、疑問点をまとめてくる。	4時間

授業科目名	日本語文法 1				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①中学校教育の現場で、日本語の文法事項について、分かりやすく説明することができる知識を習得するとともに、②中学生に対する読解や作文、および発表の指導、外国人に対する日本語の説明といった、言語活動全般に日本語の文法体系を役立てられるようになることを目指す。文法の知識を習得することで考えるための土台を構築しながら、学校文法では説明しにくい現象を日本語文法論の視点から検討し直すことを本授業の目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	文法の理解	日本語の文法事項を理解し、説明することができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	学校文法の矛盾点の理解	学校文法では説明しにくい現象を日本語文法論の視点から検討し直すことができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		学校文法について、自分なりの問題意識を持つことができる。
2．DP5. 計画・立案力		文法教育とはどのようなものかを実践的に考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

確認テスト	65%	： 授業内容の理解度について各回5点で評価し、合計65点とする。
期末テスト	35%	： 日本語文法に関する問題を出題し、35点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』（くろしお出版、2005年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日3限（13:00-14:30）
場所：	西館5階研究室
備考・注意事項：	その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

回	内容	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：学校文法、橋本進吉	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス — 「学校文法」とは— 「日本語文法1」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、学校文法の概要について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：学校文法、橋本進吉	4時間
第2回	品詞（1） 品詞分類の基本を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「品詞」について、品詞分類の基本に目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、品詞分類について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：品詞分類	4時間

第3回	<p>品詞（２） 自立語の分類、付属語の分類を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「品詞」について、自立語の分類、付属語の分類に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、自立語の分類、付属語の分類について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：自立語、付属語	4時間
第4回	<p>活用（１） 動詞の活用、音便を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「活用」について、動詞の活用、音便に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、動詞の活用、音便について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：動詞の活用、音便	4時間
第5回	<p>活用（２） 形容詞・形容動詞の活用を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「活用」について、形容詞・形容動詞の活用に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、形容詞・形容動詞の活用について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：形容詞の活用、形容動詞の活用	4時間
第6回	<p>文の組み立て（１） 文節、主語を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「文の組み立て」について、文節、主語に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、文節、主語について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：文節、主語、「が」、「は」	4時間
第7回	<p>文の組み立て（２） 基本文型、語順を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「文の組み立て」について、基本文型、語順に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、基本文型、語順について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：動詞の文型、形容詞・形容動詞の文型、語順	4時間
第8回	<p>格助詞（１） 用法を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「格助詞」について、用法に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、格助詞の用法について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：格助詞	4時間
第9回	<p>格助詞（２） 格助詞の使い分けを学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「格助詞」について、似た意味を持つ格助詞の使い分けに注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、格助詞の使い分けについて日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：似た意味を持つ格助詞の使い分け	4時間
第10回	<p>副助詞（１） 用法を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「副助詞」について、用法に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、副助詞の用法について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：副助詞	4時間
第11回	<p>副助詞（２） 主題と対比を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「副助詞」について、主題と対比に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、主題と対比について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：「は」、主題、対比	4時間
第12回	<p>接続助詞（１） 用法を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「接続助詞」について、用法に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、接続助詞の用法について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：接続助詞	4時間
第13回	<p>接続助詞（２） 意味を学校文法と日本語文法論から考える</p> <p>学校で教えられる文法の「接続助詞」について、意味に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、接続助詞の意味について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：同時、仮定の順接、仮定の逆接、確定の順接、確定の逆接、目的、対立・対比	4時間
第14回	<p>連用修飾・連体修飾—副詞・連体詞を学校文法と日本語文法論から考える—</p> <p>学校で教えられる文法の「連用修飾・連体修飾」について、副詞と連体詞に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、副詞と連体詞について日本語文法論の視点から検討し直す。</p>	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：様態副詞、程度副詞、陳述副詞、連体詞	4時間
第15回	<p>「日本語文法1」のまとめ</p> <p>本授業で扱った文法事項について確認する。</p>	身につけていないものは、ノートに戻り要点を確認する。	4時間

授業科目名	日本語文法 2				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、「日本語文法1」では扱わなかった文法項目を新たに取り上げる。「日本語文法1」と本授業を併せて、①中学校教育の現場で、日本語の文法事項について、分かりやすく説明することができる知識を習得するとともに、②読解や作文、および発表の指導、外国人への日本語の説明といった、言語活動全般に日本語の文法体系を役立てられるようになることを目指す。学校文法では説明しにくい現象や矛盾点を問題点として提示し、その問題点について日本語文法論の視点から検討し直す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	文法の理解	日本語の文法事項を理解し、説明することができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	学校文法の矛盾点の理解	学校文法では説明しにくい現象を日本語文法論の視点から検討し直すことができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		学校文法について、自分なりの問題意識を持つことができる。
2．DP5. 計画・立案力		文法教育とはどのようなものかを実践的に考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

確認テスト	65%	： 授業内容の理解度について各回5点で評価し、合計65点とする。
期末テスト	35%	： 日本語文法に関する問題を出題し、35点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』（くろしお出版、2005年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日3限（13:00-14:30）
場所：	西館5階研究室
備考・注意事項：	その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンスと「日本語文法1」の復習 「日本語文法2」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、「日本語文法1」の期末試験を踏まえて、重要な文法項目について確認する。	「日本語文法1」の期末試験の内容について、身につけていないものはノートに戻り、関連部分をよく読む。 4時間
第2回	「日本語文法1」の復習	「日本語文法1」の内容について、身につけていないものはノートに戻り、関連部分をよく読む。 4時間

	「日本語文法1」で学んだ文法の重要項目について確認する。		
第3回	助動詞（1） 受身を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、受身に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、受身について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：受身、「れる／られる」	4時間
第4回	助動詞（2） 可能を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、可能に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、可能について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：可能、「れる／られる」	4時間
第5回	助動詞（3） 使役を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、使役に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、使役について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：使役、「せる／させる」	4時間
第6回	助動詞（4） 否定を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、否定に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、否定について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：否定、「ない」	4時間
第7回	助動詞（5） 時間を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、時間に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、時間について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：時間、「た」	4時間
第8回	助動詞（6） 断定、推量、推定を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、断定、推量、推定に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、断定、推量、推定について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：断定、「だ」、推量、「う／よう」、推定、「ようだ」、「らしい」	4時間
第9回	助動詞（7） 様態、伝聞を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、様態、伝聞に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、様態、伝聞について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：様態、伝聞、「そうだ」	4時間
第10回	助動詞（8） 比況、例示、希望を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、比況、例示、希望に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、比況、例示、希望について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：比況、例示、「ようだ」、希望、「たい」	4時間
第11回	文章・談話（1） 終助詞を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「文章・談話」について、終助詞に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、終助詞について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：終助詞	4時間
第12回	文章・談話（2） 接続詞を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「文章・談話」について、接続詞に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、接続詞について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：接続詞	4時間
第13回	敬語（1） 敬語の種類を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「敬語」について、敬語の種類に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、敬語について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語	4時間
第14回	敬語（2） 間違えやすい敬語表現を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「敬語」について、間違えやすい敬語表現に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、間違えやすい敬語表現について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：二重敬語、尊敬語と謙譲語の混同、語彙、相対敬語、持ち主の敬語	4時間
第15回	「日本語文法2」のまとめ 本授業で扱った文法事項についてもう一度確認します。	身についていないものは、ノートに戻り要点を確認する。	4時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション基礎演習1				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

学生生活において、研究を行い、それをレポートにまとめるということは必要不可欠である。本演習では、レポートの表現を学ぶために、文章要約や意見を述べると言った基本的なポイントから始める。また学術的な表やグラフの書き方を学び、インターネットを用いた文献検索手法を学び、実際の論文を講読する。研究テーマを決めて簡単な調査を行うが、その際に大阪をテーマにした質問紙調査を行い、研究発表でまとめる。表現手法の学習の一環として文楽鑑賞も行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	レポートの書き方や表現技法を学ぶ。	講義内で扱う内容を深く理解し実践する。
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		大阪をテーマにした質問紙調査を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

評価の基準

： 講義に積極的に参加姿勢や、質問紙調査への協力姿勢を評価する。

50%

研究発表

： 自分たちで行った研究についてプレゼン発表を行い、評価する。

50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	レポートを書くということ 授業の目的、内容、評価について確認を行い、レポート・論文執筆の基本的な考え方を理解する。	2時間
第2回	レポートの書き方と要約 課題文章を読ませ、文章要約の技法を身に付ける。	2時間

第3回	レポートの書き方と意見 課題文章を読ませ、自分の意見を記述する技法を身に付ける。	配布資料を復習し、自身が作成した意見の修正を行う。	2時間
第4回	レポートの書き方と引用方法 研究レポート・論文における引用文献の書き方を学び、文献の検索を行う。	配布資料を復習し、引用文献の書き方を把握する。	2時間
第5回	レポートと読書感想文の違い 研究レポートや論文と、作文や読書感想文との違いを学ぶ。	配布資料を復習し、学術的なレポートの書き方を把握する。	2時間
第6回	レポートの書き方と構成 レポートの特に構成に注目し、論理の展開を学ぶ。	配布資料を復習し、自分なりに論理の道筋をつける。	2時間
第7回	文献検索 インターネットを使用し、学術論文の検索方法を身に付ける。	配布資料を復習し、興味のある文献を探す。	2時間
第8回	文献のまとめ方 文献発表のやり方を学び、実際にまとめていく。	配布資料を復習し、文献をレポートにまとめる。	2時間
第9回	文献講読 テーマに従った論文を購読し、協力しながら論文の内容をまとめ、研究テーマを決める。	事前に論文講読とまとめを必ず行う。	2時間
第10回	文楽鑑賞 (1) 表現技法の学習の一環として、文楽を鑑賞する。	文楽鑑賞の感想をレポートにまとめる。	2時間
第11回	文楽鑑賞 (2) 表現技法の学習の一環として、文楽を鑑賞する。	文楽鑑賞の感想をレポートにまとめる。	2時間
第12回	調査演習 (1) 大阪をテーマにした質問紙調査を実際に行う。	質問紙の準備を行い、実際に調査を実施する。	2時間
第13回	調査演習 (2) 大阪をテーマにした質問紙調査を実際に行う。	質問紙の準備を行い、実際に調査を実施する。	2時間
第14回	データのまとめ 実施した調査をデータにまとめ、パワーポイントにまとめる。	発表準備をグループで行う。	2時間
第15回	研究発表 質問紙調査の結果わかったことを、グループで発表する。	発表準備をグループで行う。	2時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション基礎演習2				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	講義、演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①文章力を磨くとともに、②自分の関心に沿ったテーマについて調査・分析・発表をすることで、調査方法や論理的な説明方法を身に付け、さらに、文化的背景についても考えられるようになることを目指す。本授業で扱う内容は、日本語教育能力検定試験の「記述式問題」、「言語と社会」の出題範囲のうち「社会言語学」を踏まえている。全15回のうち、9回を講義、残り6回を講義に基づく演習の時間とする。演習の時間は個人作業と発表の両方を取り入れる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	書くことによる論理構成力	説得力のある論理的な文章を書くことができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	社会言語学分野の用例分析力	収集した用例を分析し、説得力のある論理的な資料を作成できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		収集した用例について、社会言語学の視点から課題を発見し分析できる。
2．DP7. 完遂		分析した内容について、指定の形式に沿った資料を完成させ、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小論文	40%	： 学期中に作成した小論文2題について、わかりやすさ、簡潔さ、論理性、構成、発想・視点、表記の観点から評価する。
確認テスト	20%	： 授業内容の理解度について各回10点で評価し、合計20点とする。
最終レポート	40%	： 社会言語学の基礎知識を用い、指定の形式に沿って独自の分析結果及び意見を提示できているかどうかという観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

ヒューマンアカデミー『日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド』（翔泳社、2014年）
日本語教育能力検定試験受験予定者は購入することが望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限（13:00-14:30）

場所： 西館5階研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス—小論文とは— 「グローバルコミュニケーション基礎演習2」の目的と全体の計画を学ぶ。また、小論文の概要について学ぶ。	小論文と感想文の違いについて復習する。	4時間
第2回	文章力を磨く(1) 読み手を意識する 「読み手を意識して書く力」に注目して、文章力を磨く方法を学ぶ。	よくない例を検討・修正する。	4時間
第3回	文章力を磨く(2) 伝わりやすさを考える 「分かりやすく書く力」「簡潔に書く力」に注目して、文章力を磨く方法を学ぶ。	文法や語彙・表現について復習し、よくない例を検討・修正する。	4時間
第4回	文章力を磨く(3) 論理性を意識する 「論理的に書く力」に注目して、文章力を磨く方法を学ぶ。	適切な接続表現について復習し、よくない例を検討・修正する。	4時間
第5回	文章力を磨く(4) 構成と構想 「構成を整えて書く力」「発想・視点を工夫して書く力」に注目して、文章力を磨く方法を学ぶ。	小論文の基礎要素、段落構成、構想の視覚化、発想の広げ方について復習し、よくない例を検討・修正する。	4時間
第6回	文章力を磨く(5) 形式を考える 「見た目を整えて書く力」に注目して、文章力を磨く方法を学ぶ。	記号や漢字の使い方、原稿用紙の使い方について復習し、よくない例を検討・修正する。	4時間
第7回	小論文を書く(1) 執筆 「文章力を磨く」(1)～(5)の内容を踏まえ、小論文の問題に取り組む。文章力を磨く方法を意識し、説得力のある文章を書くことを目指す。	形式に沿って小論文を執筆する。	4時間
第8回	小論文を書く(2) 振り返り 第7回に執筆した小論文について振り返る。添削を見ながら添削理由を理解することで、説得力のある小論文の書き方について学ぶ。	添削された箇所について、レジュメに戻り、添削理由を確認する。また、修正案を考える。	4時間
第9回	社会言語学(1) 話者の意図と言語のパリエーション 「社会言語学」の「待遇表現」「言語変種」について学ぶ。社会的な要因と言語の関わりについて確認する。	待遇表現、言語変種について復習し、復習プリントに取り組む。	4時間
第10回	社会言語学(2) まとめ 「社会言語学」の「待遇表現」「言語変種」の確認問題に取り組む、重要用語とその内容について理解しているか確認する。	身につけていないものはレジュメに戻り、関連部分をよく読む。復習プリントに取り組む。	4時間
第11回	言語調査の進め方、発表の仕方 「社会言語学」で学んだものから関心に沿ったテーマを選ぶ。言語調査の進め方、および発表の手順と発表資料の作成方法について学ぶ。	発表テーマを考え、発表の準備を行う。	4時間
第12回	発表(1) 自分の関心に沿ったテーマを探し、調査・分析をし、発表を行います。他の学生の発表内容および発表の仕方について理解を深める。	他の学生の発表内容について、参考になる点をピックアップする。	4時間
第13回	発表(2) 前回に引き続き、調査・分析をしたことをまとめ、発表を行う。他の学生の発表内容および発表の仕方について理解を深める。	他の学生の発表内容および発表の仕方について、参考になる点をピックアップする。	4時間
第14回	発表(3) 前回に引き続き、調査・分析をしたことをまとめ、発表を行う。他の学生の発表内容および発表資料の作り方について理解を深める。	他の学生の発表内容および発表資料の作り方について、参考になる点をピックアップする。	4時間
第15回	発表の振り返りと「グローバルコミュニケーション基礎演習2」のまとめ 発表の振り返りを行うとともに、文章力を磨く方法や社会言語学の内容について理解し身に付いているか確認する。	最終レポートを完成させる。	4時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション基礎演習2				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

研究方法は質問紙調査の他にも実験研究が存在する。グローバルコミュニケーション基礎演習1で学んだ質問紙調査への理解を深めるとともに、実験研究についても学び、その手法の理解を深める。幾つかのテーマから実験内容を選択し、大阪を実験刺激にした心理学実験を行う。実験の計画の方法や実験刺激の統制方法から始め、実験刺激を実際に作成する。それらをもとに実験の行い、データ入力と分析、最終的な研究発表を学生主体となって行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	実験研究の基礎を学び、実際に実験を行う。	講義内で扱う内容を深く理解し実践する。
汎用的な力		
1 . DP5. 計画・立案力		大阪に関する実験刺激を作成し、実験を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

評価の基準

： 講義に積極的に参加姿勢や、実験への協力姿勢を評価する。

50%

研究発表

： 自分たちで行った研究についてプレゼン発表を行い、評価する。

50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	調査をすること 授業の目的、内容、評価について確認を行い、調査研究の基本的な考え方を理解する。	2時間
第2回	サンプリングの方法	2時間

配布資料を復習し、疑問点などを整理しておく。

配布資料を復習し、質問紙における注意点について調べておく。

	データ抽出の方法を紹介し、ランダムサンプリングの考え方を身に付ける。		
第3回	質問紙作成の注意点 ダブルバーレル質問など、質問紙調査において留意すべき点について学ぶ。	配布資料を復習し、質問紙調査について考えを深める。	2時間
第4回	実験をするということ 質問紙研究と実験研究の違いを学び理解する。	配布資料を復習し、実験計画法についてあらかじめ調べておく。	2時間
第5回	実験計画法 被験者内計画や被験者間計画、乱塊法などの実験計画法について学び理解する。	配布資料を復習し、刺激の統制についてあらかじめ調べておく。	2時間
第6回	実験刺激の統制 実験に用いる刺激のカウンターバランスなどについて学び、刺激の統制について理解する。	配布資料を復習し、これまで学んだ実験研究の基礎を固める。	2時間
第7回	実験テーマの決定 実験のテーマを決め、実験の準備を行う。	配布資料を復習し、自分がどのような実験を行いたいかが明確にしておく。	2時間
第8回	実験刺激の予備作成 実験に用いる実験刺激を協同しながら、大まかに作成していく。	配布資料を復習し、実験刺激を多数作成する。	2時間
第9回	実験刺激の作成 実験に用いる実験刺激を協同しながら、精緻に作成していく。	配布資料を復習し、実験刺激を多数作成する。	2時間
第10回	実験の実施 (1) 準備した実験刺激を用い、学生同士で予備実験を行う。	配布資料を復習し、予備実験の手続などを理解する。	2時間
第11回	実験の実施 (2) 準備した実験刺激を用い、授業に参加していない学生を実験参加者とし、実験を行う。	配布資料を復習し、実験の手続などを理解する。得られたデータをまとめておく。	2時間
第12回	実験の実施 (3) 準備した実験刺激を用い、授業に参加していない学生を実験参加者とし、実験を行う。	配布資料を復習し、実験の手続などを理解する。得られたデータをまとめておく。	2時間
第13回	実験のデータ入力 実験で得られたデータをExcelに入力していく	実験データをまとめ、データ入力作業を行う。	2時間
第14回	実験のデータ分析 Excel上で簡易なデータ分析を行う。	実験データをまとめ、データ分析を正確に行う。	2時間
第15回	実験のまとめ 得られた分析データをもとに、結論を考察し、レポートにまとめる。	実験データをまとめ、レポートとしてまとめる。	2時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション基礎演習2				
担当教員名	野田順子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	前に出て発表する講義が中心となります。				

授業概要

本授業は、1分間自己PRを基本として自分自身の体内時計（体感時間と実時間の差異）や普段の会話スピードを確認し、聴き手に伝わりやすい会話のテンポ、リズムなどを知り、身につけるレッスンをを行います。意図を明確に伝えるための言葉（文章）の組み立て、考える力をアップさせることを目指します。また、国内外の詩や各種ナレーション原稿などを使って、状況によって変化する基礎的な音声表現の演習を行います。人前で発表することにより、羞恥心の解放も視野にいれる講義となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	表現の知識	表現法についての知識を身につけることができる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		自分の意図やイメージを、他者に対して正確に伝える力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内実技・実技試験	40%	正しい姿勢・明確な発声で最後までやり通すことができているか、積極的に表現することができるかどうか等を基準に40点満点で評価する。
受講態度	60%	授業に関する有意義な質問、授業中のやり取りによって積極的に参加しているか、また、遅刻状況、テキスト忘れ、私語、居眠り等の、授業を放棄していると思われる行為の程度によって評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

共通語を習得したい学生は、アクセント辞典の所有が望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	教室または非常勤講師室

授業計画

回	内容	人間観察をすること。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（授業概要ガイダンス） 授業の進め方、方針等の概要説明。 フリートークでコミュニケーションを図ります。	人間観察をすること。	1時間
第2回	自己PR「体感」 自分が何分間話をしたのか、実際の時間と体感時間との差異を感じてみよう。	自分の口調を意識すること。	1時間
第3回	自己PR「お題」	自分の口癖を意識すること。	1時間

	聴き手に伝わりやすい口調やテンポ等を確認しよう。 指定された題材に添った話しを発表します。		
第4回	自己PR「1分間」 正確な体内時計を身につけよう。	興味を惹かれるものを意識すること。	1時間
第5回	朗読・詩 島崎藤村「知るや君」を使い、 音の高低差の使い方を身につけよう。	知らない言葉を調べること。	1時間
第6回	会話表現 会話文の基礎表現を身につけよう。	他者の口調を観察すること。	1時間
第7回	会話リズム ジュール・ラフォール「月の出前の対話」を使い、 リズムやテンポ感を身につけよう。	他者の会話リズムを観察すること。	1時間
第8回	ナレーション ナレーションの種類を知ろう。	配布原稿に目を通すこと。	1時間
第9回	番組ナレーション テレビ番組の原稿を読んでみよう。	原稿を何度も読み返すこと。	1時間
第10回	コマーシャル コマーシャル原稿を読んでみよう。	テレビCMを注意して観ること。	1時間
第11回	番宣 番組宣伝原稿を読んでみよう。	想像力を鍛えること。	1時間
第12回	台詞 ナレーションと台詞の違いとは？ 古典表現を考察しよう。	今昔の言葉の違いを調べること。	1時間
第13回	渡し台詞 歌舞伎の一節を使い、渡し台詞を体感しよう。	意味の分からない言葉を調べること。	1時間
第14回	古典表現 歌舞伎の一節「白浪五人男」を使い、キャラクターの違いを表現しよう。	キャラクターの違いを表現しよう。	1時間
第15回	授業まとめ・総括 歌舞伎の一節「白浪五人男」を使い、これまでの授業を通じて習得した成果を発表します。 総括。	日常生活の中で、人間観察をする事。	1時間

授業科目名	舞台パフォーマンス				
担当教員名	美月亜優				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義・演習。毎回セリフと動作を考えながら、舞台芝居を体感します。毎回音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱します。授業の3回程度ダンスパフォーマンスもします。				

開放科目「不可」

授業概要

五感と身体全体を使っていきながら、自分自身を見つめ、自己表現を身につけていきます。体全体を使って、音楽とリズムを体感します。メロディーに感情をのせて歌唱します。感情の台詞を使って心と身体の一体化を体感し、感性豊かな人間力を目指します。様々なキャラクターを演じていくことで、体験したことのない境遇や性質について体感し、人間の深みや広さや優しさについて考え、自分自身を大切に出来る、魅力溢れる人間作りを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

歌唱、ダンス、芝居

目標：

リズム感、音感、感性を向上することができる。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

シナリオを使って役を表現したり、感情をのせてダンスしたり歌唱することができる。

- 2 . DP9. 役割理解・連携行動

台詞の持つ意味を考えたり、相手との距離感を測りながら芝居をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・その他(以下に概要を記述)

他の人の実演も見学し、自分を見つめ直します。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	50%	： 毎回の課題をどれだけ理解し演じているか。
授業態度	30%	： 挨拶、マナーが守られているか。他の人の実演も見学し、マナー良く見ているか。積極的に参加しているか。
最終課題	20%	： どれだけ読解力が身につき、挑んでいるか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： 授業の前後に質問に応じます。

授業計画

第1回

発声、歌稽古、立ち稽古：感情の表現について

台詞、動きについて考え稽古する。

授業外学修課題にかかるとする目安の時間

4時間

	様々な作品を通して、舞台での所作事や、せりふや動作の意味を考えながら、感情を表現していく。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。		
第2回	発声、歌稽古、立ち稽古：キャラクターについて 演じるキャラクターや、相手との距離感、間について考える。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞と動きが一体化するように、芝居の反復練習をする。	4時間
第3回	発声、歌稽古、立ち稽古：大きく動作する 稽古場を大きく使って、大きく動作出来るように考え、思いきり演じる。	次回のプリントに目を通す。	4時間
第4回	発声、歌稽古、ダンス振り付け：それぞれの部位の動かし方を考え、身体全体で表現することを体感する。 体を使って感情を表現する。手、足、胸、頭などそれぞれの部位の動かし方を体験し、ダンスの型を覚える。音楽に合わせて踊ってみる。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	スムーズに体が動くように、ダンスの反復練習をする。	4時間
第5回	発声、歌稽古、ダンス振り付け：音楽、リズム、感情表現について体感する。 ダンスの振りを覚える。音楽、リズム、感情の強弱が一体化するようお稽古する。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	振りの反復練習をする。	4時間
第6回	発声、歌稽古、ダンス振り付け：感情をのせてダンスをする。音楽と身体表現の一体化について考える。 スムーズに感情を乗せて、ダンスする。見られている意識、見える意識について考える。	次回のプリントに目を通す。	4時間
第7回	発声、歌稽古、立ち稽古：和物の芝居について 和物の芝居を体感する。和の所作事、それぞれの人物の歩き方、所作について考える。お客さんがいると設定して、演じている側とみている側とのギャップについて考え、常に自分を客観視出来る力を身につけていく。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞と動きが一体化するように、芝居の反復練習をする。	4時間
第8回	発声、歌稽古、立ち稽古：芝居の型について 喜怒哀楽の強弱をはっきりつけて、大きく芝居をする。普段と舞台の違いを考える。普段と台詞が決まった芝居の空間との違いを考える。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞と動きが一体化するように、芝居の反復練習をする。	4時間
第9回	発声、歌稽古、立ち稽古：役柄について 台詞と動きの一体化、感情移入して役柄を演じる。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	次回のプリントに目を通す。	4時間
第10回	発声、歌稽古、立ち稽古：悲恋物の芝居 悲恋物の芝居を体感する。それぞれの役の生い立ちや、関係、様々な出来事、状況、感情について考え、普段の生活ではありえないようなことを、お芝居を通してヴァーチャル体験をし、登場人物の生きる様子を体感する。音階、感情を意識しながら歌唱する。	それぞれの人物について、深く掘り下げて考える。	4時間
第11回	発声、歌稽古、立ち稽古：思いの伝え方 それぞれの場面での台詞の掛け合いでその人物に成り切って、思いを伝える。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞に感情移入しての反復練習をする。	4時間
第12回	発声、歌稽古、立ち稽古：演じ分けについて考える 様々な役を演じ分け、どういう風に演じれば、相手がやり易いのか、どういう風に演じてもらえれば、自分がやり易いのか、様々な角度から台詞を考える。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	登場人物のキャラクター、役割について、掘り下げて考える。	4時間
第13回	発声、歌稽古、立ち稽古の総仕上げ 総仕上げ。感情移入して、それぞれの役を演じきる。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	次回のプリントに目を通す。	4時間
第14回	発声、立ち稽古：歌舞伎について 歌舞伎の口上を体験する。日本人の伝統芸能である歌舞伎の台詞回しを体験し、日本物の芝居の型、所作事について体感する。	次回のプリントに目を通す。	4時間
第15回	まとめ：舞台芝居と普段との違い、感情表現について考える セリフの課題を感情、キャラクターを考え演じる。心と体と感情を一体化して演じてみる。	授業内容を振り返る。普段の日常生活においても、感性の向上に努める。	4時間

授業科目名	舞台パフォーマンス基礎				
担当教員名	美月亜優				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義・演習。毎回朗読やセリフなどの課題を与え、役のキャラクター、表現方法について考え、心と身体と感情の一体化させる方法などについて考えていく。				

授業概要

普段の日常生活においても、人はそれぞれの場面で色々な顔、表情、言葉づかいを使い分けています。それは演劇と通ずるものがあります。自分が普段、どういう思いでどのように表現しているのか。自分自身を知り、自分自身の一番の理解者になることが、他人のことも理解できるきっかけになるのだと思います。台詞を通して様々なキャラクター、性質を知るとともに、社会に出る前に、今一度、自分自身を見つめ直し、人間力、表現力、そして心の豊かな魅力溢れる人になるお手伝いが出来ればと考えています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	発声練習、音階練習、音声表現、読解力。	五感を使って、様々なキャラクターを表現することができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		様々なキャラクターを演じていくことで、普段の自分自身と対比することができ、自分自身を見つめ直すことができる。
2．DP9. 役割理解・連携行動		会話する台詞から、相手との距離感について考える。相手が演じやすい受け方、出し方をする事で、相手への配慮、思いやりについても考える力を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・その他(以下に概要を記述)

他の人の実演も見学し、自分を省みる作業をする。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として、毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題	評価の基準
	： 毎回の課題をどれだけ理解し演じようとしているのか。
50%	
授業態度	： 挨拶、マナー等守られているか。他の人の実演もマナー良く聞いているのか。
30%	
最終課題	： 最終課題への読解力と挑み方。
20%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。「授業外学習」に取り組むことに加え、その回の授業内容を復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 授業の前後に質問に応じます。

授業計画

第1回 発声法と呼吸法

： 回目のプリントに目を通す。

授業外学修課題にかかると目安の時間

4時間

	腹式呼吸と滑舌の練習と音階練習。まず、大きな声を出すところから始め、様々な声の出し方、聴覚との連携で、音階を考えながら、腹式で声を出していきます。		
第2回	発声練習と朗読 早口言葉と音階練習。台詞を朗読する。まず感情を入れず、大きな声で台詞を読む練習をする。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第3回	発声練習と喜怒哀楽 早口言葉と音階練習。喜怒哀楽についてと動作について考える。日常生活でどのように感情が動き、声にのせて表現しているのかを考えながら、台詞に感情を入れて話してみる。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第4回	発声練習と朗読と動作 滑舌の練習と音階練習。動作をしながら台詞を言う。童話を朗読する。小さな子供達に読み聞かせるように、子供達の心を動かせる読み方を考えながら、朗読してみる。単純で良い、少しオーバー気味に感情表現する。耳障りの良いメロディーとリズムがあるような感じで読んでいく。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第5回	発声練習と朗読と発想 滑舌の練習と音階練習。ゲーム感覚で発想する。連想ゲームから頭の中で発想、アイデアについて考える。童話を朗読する。前回より一回りオーバーに表現してみる。聞き手側のことも考えて朗読する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第6回	発声練習と会話：間の取り方について 滑舌の練習と音階練習。日常会話の台詞を言ってみる。二人芝居の台詞を言う。相手との距離感、間について考える。音階を気にしながら大きな声で歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第7回	発声練習と会話：キャラクターについて 滑舌の練習と音階練習。日常会話の台詞を言ってみる。三人芝居のセリフを言う。キャラクターについて考える。音階と歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第8回	発声練習と会話：声色について 滑舌の練習と音階練習。日常会話の台詞を言ってみる。三人芝居のセリフを言う。キャラクターと声色について考える。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第9回	アニメーション：ものまねについて アニメのキャラクターを演じてみる。ものまねについて考える。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第10回	アニメーション：声色について アニメのキャラクターを演じてみる。声色を考えながら、キャラクターに近づけていく。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第11回	舞台芝居：動作について考える 舞台芝居を体感してみる。キャラクターを考えながら、動作も入れながら芝居をする。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第12回	舞台芝居：キャラクターについて考える 舞台芝居を体感してみる。それぞれのキャラクターを演じ分ける。感情移入しながら芝居をする。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第13回	舞台芝居：自然な演技を目指す 舞台芝居を体感してみる。キャラクターをはっきり演じ分け、感情移入しながら動作も不自然にならないように芝居をする。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第14回	情景と司会進行 台詞で情景を表現する。情景を思い浮かべながら、朗々と朗読する。結婚式の司会の台詞を体験する。自ら大勢の人達を引っ張りながら盛り上げる体感する。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	今回のプリントに目を通す。	4時間
第15回	まとめ：思いを伝えるということ。心と身体と感情の一体化 台詞の課題を感情、キャラクターを考えながら演じる。心と身体と感情を一体化して演じてみる。	授業内容を振り返り、普段の日常生活で、様々なことに興味を持って、行動するように心がける。	4時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション基礎演習 1				
担当教員名	白瀬浩司				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

外国人留学生の友人から「あなたの国では、どうなのですか?」「あなたは、どう考えますか?」と問われる場面は、おそらく多くあると思います。多文化状況の中で、ビジネスや文化交流をおこなう際、相手の国の言葉や文化を理解することは、もちろん大切ですが、自国の文化や自分自身について明確な知識・理解や自分なりの判断基準を持っていることも重要です。本講座では、日本文化（とりわけ大阪の地域文化）について再確認し、理解するとともに、それを的確に発信するコミュニケーション能力を身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日本文化および身近な地域である大阪の文化について再確認・理解すること。また、日本文化・地域文化についての的確に情報発信すること。

目標：

日本文化、とりわけ大阪の文化について理解し、的確に情報発信することができる。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力
- 2 . DP6. 行動・実践

興味・関心のある対象を選び、それを理解し、発信するための調査や情報収集をすることができる。

選択した事象・対象について、的確に情報発信・伝達をすることができる。

学外連携学修

有り（連携先：国立文楽劇場）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

振り返りシート

30%

プレゼンテーション（1）

15%

プレゼンテーション（2）

25%

最終課題（レポート）

20%

受講態度

10%

評価の基準

： 各回に提出する振り返りシートの記述により、よく理解できている＝2点、概ね理解できている＝1点とします。

： 選択した論題に関する理解度と報告内容により5段階で評価します。なお、評価規準については、講義時に提示。

： 選択した論題に関する理解度と報告内容により5段階で評価します。なお、評価規準については、講義時に提示。

： 与えられた論題に関する理解度と記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示。

： 授業時における参加態度（発言およびグループ作業など）や、他の受講生のプレゼンテーションに対する評価票の記述内容により、評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>《日本文化》と、《大阪文化》について</p> <p>外国の友人に《日本文化》を紹介するとき、私たちは何を挙げるでしょうか。また、それについて正しく説明したり実演したりすることができるでしょうか。まずは、《日本文化》、《大阪文化》について捉え返しをおこないます。</p>	配布された次時の授業資料に目を通し、課題について調べた上でワークシートにまとめる。	4時間
第2回	<p>衣・食・住①—衣について—</p> <p>《日本文化》として、私たちの生活にかかわる衣・食・住のうち、衣の要素について学修します。私たちの着衣行動などにおいて、日本的と言われるもの、大阪的と言われるものについても捉え返しを行います。</p>	配布された次時の授業資料に目を通し、課題について調べた上でノートにまとめる。	4時間
第3回	<p>衣・食・住②—食について—</p> <p>《日本文化》として、私たちの生活にかかわる衣・食・住のうち、食の要素について学修します。日本的と言われるもの、あるいは料理の味付けで関東風・関西風と言われるものについても捉え返しを行います。</p>	配布された次時の授業資料に目を通し、課題について調べた上でワークシートにまとめる。	4時間
第4回	<p>衣・食・住③—住について—</p> <p>《日本文化》として、私たちの生活にかかわる衣・食・住のうち、住の要素について学修します。日本的と言われるもの、あるいは江戸間・関西間・京間など住環境の差異についても捉え返しを行います。</p>	配布された次時の授業資料に目を通し、課題について調べた上でワークシートにまとめる。	4時間
第5回	<p>古典文学に描かれた大阪（1）—井原西鶴—</p> <p>大阪で生活する人々の姿を描いた古典文学作品（井原西鶴）を講読します。</p>	配布された次時の授業資料に目を通し、課題について調べた上でワークシートにまとめる。	4時間
第6回	<p>古典文学に描かれた大阪（2）—近松門左衛門—</p> <p>大阪で生活する人々の姿を描いた古典文学作品（近松門左衛門）を講読します。</p>	配布された次時の授業資料に目を通し、課題について調べた上でワークシートにまとめる。	4時間
第7回	<p>プレゼンテーションの基本</p> <p>資料収集および作成（アナログ媒体や電子データ媒体）の仕方、プレゼンに臨む心構えや効果的なプレゼン時の態度や方法について学修します。</p>	配布された次時の授業資料に目を通し、課題について調べた上でワークシートにまとめる。	4時間
第8回	<p>プレゼンテーションの準備</p> <p>アナログ媒体によるプレゼンテーションの準備をグループで行います。テーマは、衣・食・住の中から1つ選定し、資料収集とプレゼン資料作成、プレゼン原稿と段取りに取り組みます。</p>	グループでプレゼンテーションに向けた資料の仕上げや、段取りの確認、リハーサルに取り組む。	4時間
第9回	<p>日本文化・大阪の地域文化に関するプレゼンテーション（1）</p> <p>衣・食・住のうち、衣・食をテーマとして選んだグループによるアナログ媒体のプレゼンテーションを実施します（各6分）。発表者以外の受講生は、評価票に基づき、プレゼンの得点とコメントの記入を行います。</p>	グループでプレゼンテーションに向けた資料の仕上げや、段取りの確認、リハーサルに取り組む。グループのプレゼンを終えた受講生は、個別プレゼンに向けて、テーマの選定と情報収集とプレゼン資料作成、プレゼン原稿と段取りに取り組む。	4時間
第10回	<p>文楽鑑賞</p> <p>文楽を鑑賞し、各自で課題を確認します。</p>	配布された次時の授業資料に目を通し、課題について調べた上でワークシートにまとめる。また、個別プレゼンに向けて、テーマの選定と情報収集とプレゼン資料作成、プレゼン原稿と段取りに取り組む。	4時間
第11回	<p>文楽鑑賞：祭りの習俗と、古典演劇の習俗</p> <p>農作物の豊作を願ったり、祝ったりする五穀豊穡〔ごこくほうじょう〕の祭りのほか、地域に伝わる祭りの習俗について学修します。さらに、能・狂言や歌舞伎・人形浄瑠璃など古典演劇の様式や伝承された芸についての基本的な知識を確認します。</p>	個別プレゼンに向けて、テーマの選定と情報収集とプレゼン資料作成、プレゼン原稿と段取り確認と個人リハーサルに取り組む。	4時間
第12回	<p>日本文化・大阪の地域文化に関するプレゼンテーション（2）—①</p> <p>各自（単独）で選定した文化的対象について、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを実施します（各5分）。発表者以外の受講生は、評価票に基づき、プレゼンの得点とコメントの記入を行います。</p>	個別プレゼンに向けて、テーマの選定と情報収集とプレゼン資料作成、プレゼン原稿と段取り確認と個人リハーサルに取り組む。プレゼン終了者は、ワークシートに感想を執筆する。	4時間

第13回	<p>日本文化・大阪の地域文化に関するプレゼンテーション（2） 一②</p> <p>各自（単独）で選定した文化的対象について、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを実施します（各5分）。発表者以外の受講生は、評価票に基づき、プレゼンの得点とコメントの記入を行います。</p>	<p>個別プレゼンに向けて、テーマの選定と情報収集とプレゼン資料作成、プレゼン原稿と段取り確認と個人リハーサルに取り組む。プレゼン終了者は、ワークシートに感想を執筆する。</p>	4時間
第14回	<p>日本文化・大阪の地域文化に関するプレゼンテーション（2） 一③</p> <p>各自（単独）で選定した文化的対象について、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを実施します（各5分）。発表者以外の受講生は、評価票に基づき、プレゼンの得点とコメントの記入を行います。</p>	<p>プレゼン終了者は、ワークシートに感想を執筆する。配布された次時の授業資料に目を通し、最終課題（レポート）に向けて情報収集を行う。</p>	4時間
第15回	<p>過去と現在、そして未来をつなぎ、幾多の地域をつなぐ文化の担い手となるために</p> <p>多文化状況の中で、ビジネスや文化交流をおこなう際、自国の文化や自分自身について明確な知識・理解や自分なりの判断基準を持つとともに、相手の国の言葉や文化の理解に務めるために何をなすべきか、みんなで討議します。</p>	<p>最終課題（レポート）を執筆し、期限までに提出する。テーマ・書式、評価規準などについては、本時の講義において指示する。</p>	4時間

授業科目名	日本の文学				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、日本の近代文学を中心に、作品の講読を通して作者を理解し、作品の背景を学びます。また、近代文学の特徴をあらわすいくつかのキーワード（主に「アジア」、「女性」、「子ども」等）に基づき、作品を読み解くことを試みます。基本的には講義形式で進めますが、作者と作品の背景については、毎回のテーマごとに分担し、発表形式も取り入れます。毎回ひとつの作品を読み込み、意見交換をすることで、さまざまな解釈に気づくことも目的としています。近代という時代の特徴についても考えていきましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	日本の近代文学研究	文学作品を分析することができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		文学作品をクリティカルに分析できる。
2 . DP7. 完遂		自ら課題を発見し、情報収集・分析し、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション	20%	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
レポート	30%	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
提出物（メモ）	30%	： 毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2ポイント（加点あり）、理解不足は1ポイント。
受講態度	20%	： 授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

プリントを配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限
場所： 研究室（西館5階）
備考・注意事項： 授業前後にも受け付けます。

授業計画

第1回 授業ガイダンス・近代という時代について

振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。

授業外学修課題にかかるとする目安の時間

4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方 ・発表の分担 ・情報の収集方法、文献の調べ方について 		
第2回	国語科教科書掲載の近代文学作品について <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・教科書というメディアについて考える 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。	4時間
第3回	児童文学というジャンル <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「発見」について ・作品講読 ・子どもの文学の特徴について考える 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。	4時間
第4回	森鷗外：「舞姫」の背景 <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。	4時間
第5回	樋口一葉：日本近代文学にみるジェンダー <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。	4時間
第6回	夏目漱石：「青年」というイメージ <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。	4時間
第7回	鈴木三重吉：児童雑誌「赤い鳥」 <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える ・大正期の雑誌媒体について 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。	4時間
第8回	芥川龍之介：児童向けの作品にみるエゴイズム <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。	4時間
第9回	宮澤賢治：「童話」という形式 <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。	4時間
第10回	安部公房：「変身」の意味 <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。	4時間
第11回	中島敦と漢籍 <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。	4時間
第12回	新美南吉：中国関連の作品や中国で発表された作品について <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。	4時間
第13回	日本近代文学と東アジア <ul style="list-style-type: none"> ・近代の作家と東アジアについて考える ・作品講読 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。	4時間
第14回	日本近代文学にみる中国 <ul style="list-style-type: none"> ・近代の作家と中国について考える ・作品講読 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。	4時間
第15回	中国近代文学にみる日本 <ul style="list-style-type: none"> ・授業のまとめをし、印象に残った作品について話し合う 	振り返しシートの作成、およびこれまでのまとめしておく	4時間

授業科目名	English Conversation 1				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、ナショナルジオグラフィックのコンテンツやTED TALK のプレゼンテーションを題材として、実在する人々や場所で交わされる生きた英語に触れながら、日常英会話に必要な聴解力・表現力を伸ばすことを目的とします。各授業では、自然な速度の英語を多く聞き、英語特有のリズムやイントネーションを理解するように努めます。また、題材に用いられている基本語彙や表現、文法項目を学習し、それらを用いて自分の意見を表現できるように、スピーキング練習や英作文を実施します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP1. 幅広い教養やスキル	具体的内容： 日常的な英会話能力、英語聴解能力、英文読解能力、英作文能力	目標： 身近な日常生活について、英語で理解し表現することができる。世界で起こっている様々な話題を学び、異文化理解を深めることができる。
汎用的な力 1 . DP8. 意思疎通		各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
毎回の小テスト（単語・ディクテーション） 20%	： 毎回、授業の初めに既習単元の単語テストやディクテーションテストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価の20%とします。
まとめテスト 60%	： 二回のまとめテストを、第7回・第14回に実施します。指定教科書の既習範囲を対象として、それまでの振り返りと知識の定着を確認するテストを行います。60点満点のまとめテストの平均を評価の60%とします。
グループ発表 20%	： 授業内で用いた英語の語彙や表現を応用して、TED TALKを参考に、グループプレゼンテーションを実施します。第15回の授業日に行い、評価の20%とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Kristin L. Johannsen, Rebecca Tarver Chase	World English 2 Second Edition	Cengage Learning	2015年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限
 場所： 研究室（西館5階）
 備考・注意事項： メールアドレス： asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、Unit 1 (前半) Food from the Earth <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・世界の地理、気候、主要産物に関する語彙や表現を学びます。 ・現在形と現在進行形、過去形の時制の違いを学びます。 	Unit 1 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。Unit 1 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第2回	Unit 1 (後半) A Slice of History <ul style="list-style-type: none"> ・食文化についての英文を読解します。 ・自分の住んでいる地域の食について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 1 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 2 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第3回	Unit 2 (前半) Express Yourself <ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化、コミュニケーション、ジェスチャーに関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形の時制を使った表現を学びます。 	Unit 2 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 2 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第4回	Unit 2 (後半) Taking Pictures of the World <ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化についての英文を読解します。 ・初めて会う人とスモールトークができるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 2 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 3 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第5回	Unit 3 (前半) Cities <ul style="list-style-type: none"> ・世界の都市生活や地図の読み方に関する語彙や表現を学びます。 ・助動詞willと時を表す句を用いた表現を学びます。 	Unit 3 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 3 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第6回	Unit 3 (後半) How Food Shpes Our Cities <ul style="list-style-type: none"> ・都市生活と食についての英文を読解します。 ・自分の都市生活についての見解を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 1-3で学習した単語・表現を復習し、まとめテストに備えます。	4時間
第7回	Unit 1-3 小括、TED TALK <ul style="list-style-type: none"> ・Unit1-3までの内容に基づいたまとめテストを実施します。 ・TED TALK のひとつを視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 4 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第8回	Unit 4 (前半) The Body <ul style="list-style-type: none"> ・人間の身体構造や病気に関する語彙や表現を学びます。 ・比較級や不定詞を用いた表現を学びます。 	Unit 4 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 4 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第9回	Unit 4 (後半) Tiny Invaders <ul style="list-style-type: none"> ・人間と微生物についての英文を読解します。 ・自分の病状を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 4 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 5 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第10回	Unit 5 (前半) Challenges <ul style="list-style-type: none"> ・物理的、精神的な挑戦に関する語彙や表現を学びます。 ・過去形と過去進行形の違い、enoughを用いた表現を学びます。 	Unit 5 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 5 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第11回	Unit 5 (後半) Arctic Dreams and Nightmares <ul style="list-style-type: none"> ・北極地のある挑戦についての英文を読解します。 ・自分のこれまでの挑戦について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 5 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 6 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第12回	Unit 6 (前半) Transitions <ul style="list-style-type: none"> ・人生の段階に関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形、How + 形容詞を用いた表現を学びます。 	Unit 6 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 6 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第13回	Unit 6 (後半) Living Beyond Limits <ul style="list-style-type: none"> ・自分の限界に対する挑戦についての英文を読解します。 ・自分の人生の段階に起きた出来事について話すために、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 4-6 で学習した単語・表現を復習し、まとめテストに備えます。	4時間

第14回	Unit 4-6 小括、TED TALK ・Unit4-6までの内容に基づいたまとめテストを実施します。 ・TED TALK のひとつを視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 1-6 で学習した単語・表現を復習し、プレゼンテーションの準備をしておきます。	4時間
第15回	Unit 1-6 総括、プレゼンテーション ・前期の授業内容を振り返ります。 ・これまでの学習内容から課題をひとつ選び、プレゼンテーションを行います。	既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。	4時間

授業科目名	English Conversation 2				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

English Conversation 1 に引き続き、本科目では、ナショナルジオグラフィックのコンテンツやTED TALK のプレゼンテーションを題材として、実在する人々や場所で交わされる生きた英語に触れながら、日常英会話に必要な聴解力・表現力を伸ばすことを目的とします。各授業では、自然な速度の英語を多く聞き、英語特有のリズムやイントネーションを理解するように努めます。また、題材に用いられている基本語彙や表現、文法項目を学習し、それらを用いて自分の意見を表現できるように、スピーキング練習や英作文を実施します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日常的な英会話能力、英語聴解能力、英文読解能力、英作文能力

目標：

身近な日常生活について、英語で理解し表現することができる。世界で起こっている様々な話題を学び、異文化理解を深めることができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小テスト（単語・ディクテーション）	20%	： 毎回、授業の初めに既習単元の単語テストやディクテーションテストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価の20%とします。
まとめテスト	60%	： 二回のまとめテストを、第7回・第14回に実施します。指定教科書の既習範囲を対象として、それまでの振り返りと知識の定着を確認するテストを行います。60点満点のまとめテストの平均を評価の60%とします。
グループ発表	20%	： 授業内で用いた英語の語彙や表現を応用して、TED TALK を参考に、グループプレゼンテーションを実施します。第15回の授業日に行い、評価の20%とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Kristin L. Johannsen, Rebecca Tarver Chase	World English 2 Second Edition	Cengage Learning	2015年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限
 場所： 研究室（西館5階）
 備考・注意事項： メールアドレス：asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画			授業外学習課題にかかるとの自らの時間
第1回	オリエンテーション、Unit 7 (前半) Luxuries <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・世界の地理、気候、主要産物に関する語彙や表現を学びます。 ・現在形と現在進行形、過去形の時制の違いを学びます。 	Unit 7 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。Unit 7 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第2回	Unit 7 (後半) Luxuries <ul style="list-style-type: none"> ・食文化についての英文を読解します。 ・自分の住んでいる地域の食について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 7で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 8に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第3回	Unit 8 (前半) Nature <ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化、コミュニケーション、ジェスチャーに関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形の時制を使った表現を学びます。 	Unit 8で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 8 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第4回	Unit 8 (後半) Nature <ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化についての英文を読解します。 ・初めて会う人とスモールトークができるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 8 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 9 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第5回	Unit 9 (前半) Life in the Past <ul style="list-style-type: none"> ・世界の都市生活や地図の読み方に関する語彙や表現を学びます。 ・助動詞willと時を表す句を用いた表現を学びます。 	Unit 9 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 9 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第6回	Unit 9 (後半) Life in the Past <ul style="list-style-type: none"> ・都市生活と食についての英文を読解します。 ・自分の都市生活についての見解を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 7-9 で学習した単語・表現を復習し、まとめテストに備えます。	4時間
第7回	Unit 7-9小括、TED TALK <ul style="list-style-type: none"> ・Unit7-9までの内容に基づいたまとめテストを実施します。 ・TED TALK のひとつを視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit10 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第8回	Unit 10 (前半) Travel <ul style="list-style-type: none"> ・人間の身体構造や病気に関する語彙や表現を学びます。 ・比較級や不定詞を用いた表現を学びます。 	Unit 10で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 10 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第9回	Unit 10 (後半) Travel <ul style="list-style-type: none"> ・人間と微生物についての英文を読解します。 ・自分の病状を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 10で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 11 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第10回	Unit 11 (前半) Careers <ul style="list-style-type: none"> ・物理的、精神的な挑戦に関する語彙や表現を学びます。 ・過去形と過去進行形の違い、enoughを用いた表現を学びます。 	Unit 11 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第11回	Unit 11 (後半) Careers <ul style="list-style-type: none"> ・北極地のある挑戦についての英文を読解します。 ・自分のこれまでの挑戦について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 11で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第12回	Unit 12 (前半) Celebrations <ul style="list-style-type: none"> ・人生の段階に関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形、How + 形容詞を用いた表現を学びます。 	Unit 12 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第13回	Unit 12 (後半) Celebrations	Unit 10-12 で学習した単語・表現を復習し、まとめテストに備えます。	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の限界に対する挑戦についての英文を読解します。 ・自分の人生の段階に起きた出来事について話すために、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 		
第14回	Unit 10-12小括、TED TALK <ul style="list-style-type: none"> ・Unit4-6までの内容に基づいたまとめテストを実施します。 ・TED TALK のひとつを視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 7-12 で学習した単語・表現を復習し、プレゼンテーションの準備をしておきます。	4時間
第15回	Unit 7-12 総括、プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・前期の授業内容を振り返ります。 ・これまでの学習内容から課題をひとつ選び、プレゼンテーションを行います。 	既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。	4時間

授業科目名	漢字の世界				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	漢字、文字・表記に必要な知識を学ぶため、講義が中心となる。しかし、一方的な講義に終わるのではなく、講義を踏まえた課題を取り入れる。毎回授業の始めに確認テストを取り入れる。「授業計画」の「授業				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

本授業では、高校までに身につけた漢字の知識を土台として、大学・一般程度の漢字を学ぶ。単に漢字を「読む」「書く」という知識を習得するだけでなく、漢字の意味を理解し、適切に運用できる能力を身に付けるために、日本語教育能力検定試験の出題範囲のうち出題頻度の最も高い分野である「言語一般」の「文字と表記」についても学ぶ。出題頻度の高い分野のポイントをつかむことで、日本語教育能力検定試験で確実に得点することを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	漢字についての深い理解と専門知識	漢字の意味と使い方を理解し、適切に運用することができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	文字・表記についての深い理解と専門知識	文字・表記に関する重要用語とその内容を理解することができる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		漢字を適切に運用することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の方法	評価の割合	評価の基準
確認テスト	60%	: 授業内容の理解度について各回5点で評価し、合計60点とする。
課題	16%	: 確認テストで身に付いていない漢字に関する課題を各2点で評価し、合計16点とする。
期末テスト	24%	: 漢字、重要用語に関する問題を出題し、24点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本語教育能力検定試験に興味がある場合は、ヒューマンアカデミー『日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド』（翔泳社、2014年）が参考になる。その他の参考文献は授業中に指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の授業であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。確認テストや期末テストに備え、各回の内容を復習しておくこと。また、授業内マナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日3限 (13:00-14:30)
場所：	西館5階研究室
備考・注意事項：	その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

回	授業計画	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス—日本語教育能力検定試験とは— 「漢字の世界」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、日本語教育能力検定試験の概要について学ぶ。	4時間
第2回	文字と表記（1） 漢字の歴史、部首、音と訓を考える	4時間

	日本語教育能力検定試験で出題頻度が最も高い分野である「言語一般」の「文字と表記」のうち「漢字の歴史」「部首」「音と訓」について学ぶ。		
第3回	文字と表記(2) 漢字表、仮名遣い、片仮名と外来語の表記を考える 日本語教育能力検定試験で出題頻度が最も高い分野である「言語一般」の「文字と表記」のうち「漢字表」「仮名遣い」「片仮名と外来語の表記」について学ぶ。	漢字表、仮名遣い、片仮名と外来語の表記についてレジュメをよく読み、復習する。	4時間
第4回	文字と表記(3) 送り仮名、ローマ字、文字の分類を考える 日本語教育能力検定試験で出題頻度が最も高い分野である「言語一般」の「文字と表記」のうち「送り仮名」「ローマ字」「文字の分類」について学ぶ。	送り仮名、ローマ字、文字の分類についてレジュメをよく読み、復習する。	4時間
第5回	文字と表記のまとめ 日本語教育能力検定試験の出題範囲「文字と表記」の確認問題に取り組み、重要用語とその内容について理解しているか確認する。	身につけていないものはレジュメに戻り、関連部分をよく読む。	4時間
第6回	漢字の読み(1) 音読み、訓読みを学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「音読み」「訓読み」について学ぶ。	「音読み」「訓読み」の練習問題にもう一度取り組む。	4時間
第7回	漢字の読み(2) 特別な読み、同字の音訓を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「特別な読み」「同字の音訓」について学ぶ。	身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第8回	漢字の部首を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「漢字の部首」について学ぶ。	「漢字の部首」の練習問題にもう一度取り組む。	4時間
第9回	熟語の理解を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「熟語の理解」について学ぶ。	身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第10回	対義語・類義語を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「対義語・類義語」について学ぶ。	身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第11回	四字熟語を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「四字熟語」について学ぶ。	身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第12回	送りがなを学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「送りがな」について学ぶ。	身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第13回	同音・同訓異字を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「同音・同訓異字」について学ぶ。	身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第14回	書き取りを学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「書き取り」について学ぶ。	身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第15回	「漢字の世界」のまとめ 文字と表記、学んだ漢字の内容や意味について、理解し身に付いているか確認する。	確認テストで間違った問題に再度取り組む。	4時間

授業科目名	インターンシップ				
担当教員名	浅野法子・田中哲平				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	集中				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業では、国際交流機関や一般企業において夏休みに原則1週間を基本とした研修・実習を体験します。現場はさまざまですが、現地での研修を通して、就職活動の際の企業研究や社会体験として活かすことを目的としています。

事前の説明会で希望者を募り、本人の希望、面接によってインターンシップ先を決定します。決定後は現地での実習、実習後のインターンシップ先からの評価、レポートの提出、事後指導などがあります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

実際に企業の業務を知ることによって職業理解、社会で求められる事項を理解する。

目標：

決められた期間、条件を守りインターンシップを完遂すること

汎用的な力

- 1 . DP7. 完遂

自身の目標を立て、企業の業務内容の把握、実行し、指導、評価を受けながら実習を完遂すること

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

インターンシップ終了後、1回生に対して、経験を話していただくことがあります。インターンシップ期間中の交通費は自己負担となります。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

現地での研修

評価の基準

： インターンシップ先での実習の評価

70%

事前・事後学習

： インターンシップ前の学習と事後のレポートを評価

30%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・教室での事前学習2回、企業でのビジネスインターンシップ40時間～70時間、教室での事後学習2時間を授業として行います。
- ・企業から個別に留意事項がありますので、それに従ってください。
- ・最初に履修登録を行わないでください。修了し、評価を得た方に単位が付与されます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 浅野：水曜日3限 田中：授業の前後

場所： 西館5階個人研究室

備考・注意事項： 上記のみならず、各アドバイザーが企業を担当しますので、適宜相談してください。

授業計画

回	内容	授業内容の確認	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	インターンシップ先の研究 事前学習：インターンシップ先の理解を進めます。 インターンシップ先は国際交流機関や一般企業などです。	インターンシップ先を研究しておくこと	2時間
第2回	身だしなみのチェックリストの作成・業務の学習・目標設定 事前学習 ・基本的な身だしなみや言葉遣いの習得 身だしなみ、挨拶、言葉遣い等の講義とロールプレイを実施し、ビジネスシーンにおけるマナーを習得します。 ・業務の確認をします。 ・目標を設定し、日誌のつけ方を確認します。	授業内容の確認	2時間

第3回	インターンシップ開始 現地研究1日目	日誌をつける	2時間
第4回	インターンシップ 現地研究2日目	日誌をつける	2時間
第5回	インターンシップ 現地研究3日目	日誌をつける	2時間
第6回	インターンシップ 現地研究4日目	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第7回	インターンシップ 現地研究5日目	日誌をつける	2時間
第8回	事後まとめ 事後学習、研修報告書を作成し、提出する。 これまでの体験をレポートにまとめる準備をする。	これまでの内容をまとめる	2時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション入門				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、コミュニケーションとは何かを知り、現代のグローバル社会に必要なコミュニケーション能力について考えることを目的とします。まず、コミュニケーションをとる上で必要な言語と、身振り手振り等の非言語の役割について学びます。次に、異文化に対するさまざまな考え方を知り、多文化共生社会を生きる上で必要な知識と態度を身につけます。ここではそれぞれが関心をもったテーマを調査し、発表することを取り入れます。また、ケーススタディーとして中国語に着目し、東アジア文化へも目を向けます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

異文化やコミュニケーションに関する知識

目標：

異文化やコミュニケーションについて、学術的な定義づけや多数の事例をもとに、正しく理解することができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

グローバル社会のなかで異文化理解をすることの意義や起こりうる問題点について、インターネットや書籍の情報をもとに検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

プレゼンテーション

20%

授業内課題（論述型試験）

30%

意見文

30%

小テスト

20%

評価の基準

： プレゼンテーションについて、講義内容の理解と調査結果の充実、そして考察の独自性をもとに採点します。それぞれ20点満点とし、全部で評価の20%とします。

： 論述型試験（第15回の授業内に実施）について、講義内容の理解と知識の定着を基準に採点します。30点満点とし、評価の30%とします。

： 意見文（毎回授業後に提出）について、講義内容の理解と考察の独自性をもとに評価で採点します。2ポイント×15回分で評価し、全体評価の30%とします。

： 第6回目と第12回目に理解度をはかる小テストを実施します。1回分を10点満点とし、評価の20%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 浅野：水曜3限
場所： 西館5階研究室

授業計画

第1回

オリエンテーション：コミュニケーションについて

・配布資料の予習

授業外学修課題にかか
る目安の時間

4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、評価方法について。 ・人間関係にかかわるコミュニケーションについて <ul style="list-style-type: none"> ・中国語という言語について 		
第2回	<p>コミュニケーションとは：相手の情報を受け止めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴き手に求められる力について ・相手の気持ちを理解するには ・ほめ言葉について <p>中国語①：繁体字文化と簡体字文化</p>	・配布資料の予習	4時間
第3回	<p>コミュニケーションとは：自分の情報を伝えるために①言語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話を効果的に伝える方法 ・言語コミュニケーションについて ・相手の立場になって情報を伝えるには <p>中国語②：発音について</p>	・配布資料の予習	4時間
第4回	<p>コミュニケーションとは：自分の情報を伝えるために②非言語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場になって情報を伝えるには ・非言語コミュニケーションの種類（身体動作と空間行動） <p>中国語③：母音と子音について</p>	・配布資料の予習	4時間
第5回	<p>コミュニケーションとは：問題を発見し、論理的に考えて提案する①問題分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を発見する ・問題を分析する <p>中国語④：声調と軽声について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて自分が感じたことを、ノートに300字程度でまとめます。 ・配付資料（言語コミュニケーションについての文章）を予習しておきます。 	4時間
第6回	<p>コミュニケーションとは：問題を発見し、論理的に考えて提案する②目的分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決策を提案する ・判断に必要な力について <p>中国語⑤：あいさつのいろいろ</p>	・配布資料の予習	4時間
第7回	<p>日本人のコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高コンテキスト・コミュニケーションについて ・低コンテキスト・コミュニケーションについて <p>中国語⑥：自己紹介</p>	・配布資料の予習	4時間
第8回	<p>異文化間コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化とは ・異文化間コミュニケーションの本質 ・コミュニケーションのずれ <p>中国語⑦：自己紹介のいろいろ</p>	・配布資料の予習	4時間
第9回	<p>グローバルとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル社会について ・国際化、グローバル化とは何か <p>中国語⑧：名詞について</p>	・配布資料の予習	4時間
第10回	<p>異文化を理解する：調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自、関心のある異文化について調べる ・テーマの発表 <p>中国語⑨：肯定文と否定文</p>	・配布資料の予習 ・調査のまとめ	4時間
第11回	<p>異文化を理解する：調査とまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自、関心のある異文化について調査し、まとめる <p>中国語⑩：疑問文</p>	・配布資料の予習 ・調査のまとめ	4時間
第12回	<p>異文化を理解する：発表準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自、関心のある異文化について調査したものをまとめる。 ・発表の準備をする。 <p>中国語⑪：能願動詞</p>	・配布資料の予習 ・発表準備	4時間
第13回	<p>異文化を理解する：発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自、発表する。 ・他の人の発表を聞いて、ルーブリックをつける。 <p>中国語⑫：数の表現</p>	・配布資料の予習	4時間
第14回	<p>異文化を理解する：発表のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの発表についてコメントする。 ・それぞれ振り返りをする。 <p>中国語⑬：曜日と時刻の表現</p>	・配布資料の予習	4時間
第15回	<p>まとめ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容の振り返り ・多文化共生社会を生きる上で必要な力について考える 	・授業の振り返り ・レポートの提出準備	4時間

授業科目名	広告表現				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

広告物である紙や画像、映像、Webページ上の表現について、その特性やスキルについて学びます。情報伝播活動である広告を収集し、分析することで、昨今の広告について考えます。ことばと視覚的な効果を学びながら、広告表現の基礎的な学習と実習を経てより高度な能力を身につけます。

課題制作を通して広告デザインの表現力を高め、企画力やスキルを身につけながら、広告デザインを企画する知識と技術を学びます。身のまわりの広告表現について、分析する目を養います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

広告表現を学ぶ。

目標：

広告表現に関する知識やスキルを身につけることができる。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践
- 2 . DP5. 計画・立案力

積極的に制作に関わることができる。

自ら課題を発見し、情報収集・分析し、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 実験、実技、実習
- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

制作課題

40%

プレゼンテーション

20%

振り返りシート

30%

授業態度

10%

評価の基準

： 企画調査、構成力、オリジナリティー等の観点から、独自のルーブリックに基づいて評価します。

： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

： 毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2ポイント（加点あり）、理解不足は1ポイント。

： 授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限

場所： 研究室（西館5階）

授業計画

第1回

授業ガイダンス

- ・ 広告表現とは
- ・ 実際にいくつかの広告をみて、グループでその特徴について話し合う
- ・ 広告倫理について

振り返りシートの作成、および「大阪」に関する広告を集めておく

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	キャッチコピーを学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・ コマーシャルや広告、看板のキャッチフレーズを集め、その特徴について考える ・ キャッチコピーを作ってみる ・ グループで新聞記事の見出しの特徴をあげてみる 	振り返しシートの作成、および「大阪」に関する広告を集めておく	4時間
第3回	お気に入りのモノを紹介する：基本技能実習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 観察力とデッサン力の大切さを知る ・ お気に入りのモノを紹介する広告を作成する 	振り返しシートの作成、および「大阪」に関する広告を集めておく	4時間
第4回	お気に入りのモノを紹介する：広告表現の計画と設計 <ul style="list-style-type: none"> ・ デイバートで市場調査をしてニーズを知る ・ 企画を立てて作成する。 	振り返しシートの作成、および「大阪」に関する広告を集めておく	4時間
第5回	広告のリスクの要因について <ul style="list-style-type: none"> ・ イメージ受容のギャップについて ・ 不当表示、人権侵害、著作権、商標権、肖像権等について学ぶ 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第6回	広告表現制作：テーマ「大阪の風土と自然」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「大阪」を広告表現の視点からとらえる ・ 企画をたてる ・ 街の広告を分析する 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第7回	広告表現制作：テーマ「大阪の風土と自然」②画像処理について <ul style="list-style-type: none"> ・ ExcelとWord実習 ・ 画像処理の方法を学ぶ 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第8回	広告表現制作：テーマ「大阪の風土と自然」③制作 <ul style="list-style-type: none"> ・ 素材やパーツ、画像の収集、モチーフの決定 ・ 制作 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第9回	広告表現制作：テーマ「大阪の風土と自然」④グループ発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループでの発表 ・ ルーブリックに基づき、お互いを評価する 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第10回	広告表現制作：テーマ「大阪の文化」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「大阪」を広告表現の視点からとらえる ・ 企画をたてる ・ 街の広告を分析する 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第11回	広告表現制作：テーマ「大阪の文化」②画像処理について <ul style="list-style-type: none"> ・ イメージの設定 ・ 画像処理をする 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第12回	広告表現制作：テーマ「大阪の文化」③制作 <ul style="list-style-type: none"> ・ 素材やパーツ、画像の収集、モチーフの決定 ・ 制作 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第13回	広告表現制作：テーマ「大阪の文化」④発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループでの発表 ・ ルーブリックに基づき、お互いを評価する 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第14回	広告表現制作：テーマ「大阪の今」制作 <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画 ・ 素材やパーツ、画像の収集、モチーフの決定 ・ 制作 	振り返しシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第15回	広告表現制作：テーマ「大阪の今」②まとめと発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループでの発表 ・ ルーブリックに基づき、お互いを評価する 	振り返しシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく	4時間

授業科目名	書道				
担当教員名	高橋文香				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	実技中心。 要点をつかむことや積み重ねを重視。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

書や文字の歴史に触れながら、毛筆・硬筆の書写技術の習得、表現方法の向上を目指します。初学者（中学生レベル）への指導の心構えを学び、楷書体及び正確に速く書く為の行書体、これらに調和する仮名の習得が可能です。目的や必要に応じた効果的な書き方に加え、豊かな文字文化を知ることで書の芸術性を再確認し、思いを伝える書や日常生活に生かす多様な書の表現方法を学びます。必要に応じて課題を出題し個別添削を行い書き癖を修正しながら技能向上を目指します。授業中は問答や意見交換を行い授業の理解度を高めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	書道初学者指導の心構えと要領	自分の表現だけではなく初学者（中学生レベル）指導の心構えを学び、「正確に速く」を書写目標とした行書技術習得ができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	書の歴史と書写基本技能・表現力	書や文字の歴史を踏まえ、硬筆・毛筆の基本書写技能習得を目指しながら、思いを伝える多様な書表現を学ぶことができる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		思いを伝える書を学ぶことでコミュニケーション力が向上する。また、情報をわかりやすく、多数の人に伝える発信力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
第6回授業時に硬筆課題作品提出 25%	第1回～第5回硬筆授業を踏まえた硬筆課題作品を提出。授業の理解度及び、字形、筆脈、全体のバランス等の観点で評価する。
第15回授業時に毛筆課題作品提出 25%	第7回～第14回毛筆授業を踏まえた毛筆課題作品と自由創作作品を提出。課題作品は授業の理解度を評価し、自由作品は、授業で学んだ知識を利用し、豊かな表現ができているかという観点で評価する。
授業態度 30%	授業や課題作品制作への集中度や、授業中の受け答えや取り組み姿勢の積極性及び理解度を評価する。
宿題提出 20%	授業内容の理解度と取り組みの集中度の観点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・『中学校学習指導要領解説国語編』（平成29年6月告示 文部科学省）
- ・『新しい書写 一年用、二・三年用（中学校教科書）』（平成25・26年 東京書籍）
- ・『唐拓 九成宮醜泉銘』（昭和52年 清雅堂）
- ・『王羲之 蘭亭序 張金界奴本』（昭和57年 清雅堂）
- ・『世界の文字の物語』（平成28年 大阪府立弥生博物館特別展図録）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、授業内マナーを守り、積極的に授業に参加すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。

<持ち物>

硬筆授業：黒のボールペン、2B鉛筆、消しゴム等

毛筆授業：筆・墨・硯・半紙・下敷き・文鎮など書写用具（今まで使用の品でよい）

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

授業計画		授業外学修課題にかかると目安の時間
第1回	ガイダンスー書とはー 書く事の意味、文字や書の歴史、授業目標と計画、用具等の説明を行います。	書く事の意味、文字や書の歴史について復習する。 4時間
第2回	硬筆：整った文字の条件・漢字（楷書体） 姿勢、ペン（鉛筆）の持ち方、楷書体の特徴を知るとともに、整った文字の条件を学びます。	ペンを使い、名前や大学名等を楷書体で書いて復習する。 4時間
第3回	硬筆：漢字（楷書体）と仮名の調和 平仮名・片仮名の成り立ちや特徴を学びます。 漢字（楷書体）と調和する仮名を学びます。	ペンを使い、漢字・平仮名混じりの文を楷書体で書いて復習する。 4時間
第4回	硬筆：漢字（行書体）をペンで書く 漢字（行書体）の特徴を学びます。 ペンをういた書き方を学びます。 葉書の書き方を練習します。	ペンを使い、名前や大学名等を行書体で書いて復習する。 4時間
第5回	硬筆：漢字（行書体）と調和する仮名 漢字（行書体）と調和する仮名の特徴を学びます。 手紙の書き方を練習します。	ペンを使い、漢字・平仮名混じりの文を行書体で書いて復習する。 4時間
第6回	硬筆：作品指導と課題提出 第1回～第5回の硬筆授業内容を踏まえ、課題を完成させ提出します。	硬筆授業の総復習する。 4時間
第7回	毛筆：用筆法 姿勢、筆の持ち方、使い方の基本を学びます。 基本の点画を練習します。	大筆を用い、基本の用筆法・点画を復習する。 4時間
第8回	毛筆：漢字（楷書体）を書く 大筆を用い、漢字（楷書体）及び、調和する仮名の特徴を学びます。 古典『九成宮醴泉銘』から楷書の用筆法を再確認します。	大筆を用い、名前を漢字（楷書体）と調和する仮名で練習する。 4時間
第9回	毛筆：漢字（行書体）を書く 大筆を用い、漢字（行書体）及び、調和する仮名の特徴を学びます。 古典『蘭亭序』から行書の用筆法を再確認します。	大筆を用い、名前を漢字（行書体）と調和する仮名で練習する。 4時間
第10回	毛筆：小筆を生活に生かす 小筆の使い方を学びます。 小筆で名前や大学名等を練習し、のし紙やのし袋の書き方を学びます。	小筆を用い、名前を漢字と平仮名で練習する。 4時間
第11回	毛筆・硬筆：毛筆体験を硬筆や板書に生かす 大筆・小筆・ペン・鉛筆を用い、硬筆や板書は毛筆の書き方と一体のものであることを学びます。	ペン字に筆の筆圧を取り入れ、名前を漢字と平仮名で練習する。 4時間
第12回	毛筆：文字の歩みを体験する 古典作品の鑑賞ポイントや臨書を学びます。 書の歴史の流れを、実際に大筆や小筆で書く事で確かめます。	古典作品の臨書をする。 4時間
第13回	毛筆：特大筆で書く 大きな筆で大きい紙に大字を書き、体全体で文字を書くことの大切さと面白さを確認します。	半紙に大きく一字書きをして復習する。 4時間
第14回	毛筆：創作の試み 第15回の作品提出に向け、自分の書きたい言葉を選び、自分のイメージに合わせ、色々な表現方法を学びます。	第15回に提出する自由創作作品の練習をする。 4時間
第15回	毛筆：創作指導と作品提出 第7回～第14回の毛筆授業内容を踏まえ、課題作品と自由創作作品を完成させ提出します。	全授業のプリントを読み、実技を復習する。 4時間

授業科目名	デジタル画像処理				
担当教員名	たては遼				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「可」

授業概要

マンガ・イラスト制作におけるキャラクターデザインの基幹となるデフォルメ表現を目的とした画法を学び、それを生かしたオリジナルイラストを制作する。Photoshopなどデジタルツールの使用方法を学び、デジタルコンテンツに対応したイラスト制作技術の基礎を習得することを目指す。イラストを学ぶことで、豊かな表現力やクリエイティブな発想力の育成を目指すとともに、コミュニケーションツールの一つとして役立てられるようにすることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 汎用的な力 1 . DP7. 完遂	具体的内容： アニメ・マンガ・デザインの専門知識 アニメ・マンガ・デザインによる表現力	目標： アニメーション・マンガ・デザインを通じた視覚表現についての深く理解できる。 素描力・演出力・独創性・デジタル技法を通じて自分が思い描いたものを視覚的に表現することができる。 授業で学んだ技術を活用し、作品を完成させることができる。
--	--	---

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

作品評価	評価の基準
60%	: 授業で学んだ技術を作品に活用できているかどうか。画力ではなく、完成度を基準とする。
40%	: 各回授業で技術を学ぶ姿勢があるかどうか、積極的に制作を進めているかどうかを総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

宮川千春、木俣カイ著『これからはじめるPhotoshopの本』（技術評論社、2012）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	Eメール(ryouyuuki@hotmail.com)でも受け付ける。メールの件名は『デジタル画像処理について』とする。氏名と学籍番号を必ず記載すること。

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ペンタブレットの使い方 ペンタブレットに触れ、設定などの仕方を覚える。ペンタブレットでの作業の練習をする。	4時間
第2回	SDキャラクターの描き方① 一等身の低いキャラクター SD手法で等身の低いキャラクターを作る。	4時間
第3回	SDキャラクターの描き方② ーラフ画、下書き作成ー テーマと構図を決め、ラフ画を描く。ラフ画を元に、下書きを作成する。	4時間

第4回	SDキャラクターの描き方③ —ペン入れ— 下書きを元に、ペン入れをする。	ペン入れまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第5回	SDキャラクターの描き方④ —下塗り— 配色を決め、下塗りをする。	下塗りまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第6回	SDキャラクターの描き方⑤ —影— 下塗りした作品に影を付ける。	影付けまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第7回	SDキャラクターの描き方⑥ —ラフ画作成— ハイライトなど細かい部分を塗り込む。加工をして完成させる。	作品を完成させ、提出する。	4時間
第8回	ポストカード制作① —ラフ画作成— カードのテーマを決め、ラフ画を描く。	ラフ画まで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第9回	ポストカード制作② —作品作成— ラフ画を元に、制作を進める。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第10回	ポストカード制作③ —作品作成— 前回は引き続き、作品を制作する。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第11回	ポストカード制作④ —作品作成— 前回は引き続き、作品を制作する。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第12回	ポストカード制作⑤ —作品作成— 前回は引き続き、作品を制作する。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第13回	ポストカード制作⑥ —作品作成— 前回は引き続き、作品を制作する。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第14回	ポストカード制作⑦ —文字入れ— 前回までに作成した作品に文字入れをする。	作品を完成させ、提出する。	4時間
第15回	合評 作品を発表し、評価し合う。	評価を受け、自身の作品を見直す。	4時間

授業科目名	アニメキャラクター演習				
担当教員名	たては遼				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

授業概要

「デジタル画像処理」の授業を踏まえ、マンガ・イラスト制作におけるキャラクターデザインの基幹となるデフォルメ表現をより洗練するため、人体の描き分けを学び、それを生かしたオリジナルイラストを制作する。Photoshopなどデジタルツールの使用方法の定着を図り、デジタルコンテンツに対応したイラスト制作技術の習得を目指す。イラストを学ぶことで表現の幅を広げ、コミュニケーションツールの一つとして役立てられるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	アニメ・マンガ・デザインの専門知識	アニメーション・マンガ・デザインを通じた視覚表現について深く理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	アニメ・マンガ・デザインによる表現力	素描力・演出力・独創性・デジタル技法を通じて自分が思い描いたものを視覚的に表現することができる。
汎用的な力		
1．DP7. 完遂		授業で学んだ技術を活用し、作品を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

作品評価	評価の基準
60%	授業で学んだ技術を作品に活用できているかどうか。画力ではなく、完成度を基準とする。
40%	各回授業で技術を学ぶ姿勢があるかどうか、積極的に制作を進めているかどうかを総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

宮川千春、木俣カイ著『これからはじめるPhotoshopの本』（技術評論社、2012）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： Eメール(ryouyuuki@hotmail.com)でも受け付ける。メールの件名は『アニメキャラクター演習について』とする。氏名と学籍番号を必ず記載すること。

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ペンタブレットの使い方 ペンタブレットに触れ、設定などの仕方を覚える。ペンタブレットでの作業の練習をする。	ペンタブレットの使い方を復習し、練習しておく。 4時間
第2回	キャラクターの描き分け①—顔の描き分け— 男女のキャラクターの顔の描き分けを学ぶ。	男女の顔の描き方を復習しておく。 4時間
第3回	キャラクターの描き分け②—全身の描き分け— 男女のキャラクターの全身の描き分けを学ぶ。	男女の全身の描き方を復習しておく。 4時間

第4回	キャラクターの描き分け③—下書き— 男女キャラクターのラフを描き、下書きを作成する。	下書きまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第5回	キャラクターの描き分け④—ペン入れ— 下書きを元に、ペン入れをする。	ペン入れまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第6回	キャラクターの描き分け⑤—下塗り— 配色を決め、下塗りをする。	下塗りまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第7回	キャラクターの描き分け⑥—影付け— 下塗りした作品に影付けをする。	影付けまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第8回	キャラクターの描き分け⑦—ラフ画完成— ハイライトや加工の処理をし、完成させる。	作品を完成させ、提出する。	4時間
第9回	自分のマスコットキャラクターの制作①—下書き— デザインを決め、ラフを描く。ラフ画を元に下書きをする。	下書きまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第10回	自分のマスコットキャラクターの制作②—ペン入れ— 下書きを元に、ペン入れをする。	ペン入れまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第11回	自分のマスコットキャラクターの制作③—下塗り— 配色を決め、下塗りをする。	下塗りまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第12回	自分のマスコットキャラクターの制作④—影付け— 下塗りした作品に影付けをする。	影付けまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第13回	自分のマスコットキャラクターの制作⑤—ラフ画完成— ハイライトや加工の処理をし、完成させる。	作品を完成させ、提出する。	4時間
第14回	自分のマスコットキャラクターの制作⑥—ネームカード作成— キャラクターを使用したネームカードを作成する。	作品を完成させ、提出する。	4時間
第15回	合評 作品を発表し、評価し合う。	評価を受け、自身の作品を見直す。	4時間

授業科目名	放送メディアコミュニケーション				
担当教員名	久米村直子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	ドキュメント映像やミュージッククリップ、雑誌や新聞のニュースなどさまざまな素材を使用し感想や意見を話すことで自分の理解力のレベルや人との感じ方の違いや共通点を知ってもらいます。更に授業内でのレ				

開放科目の指示：「可」

授業概要

まずは、腹式呼吸での挨拶をマスターします。そして、週に一回の授業である点を活かし、7日間の出来事で印象に残った出来事を時間内に話すことで話すことに慣れ、日々の生活を少し注意深く観察できるようにします。更に、授業では、ドキュメント映像・映画、ミュージッククリップ、雑誌や新聞のニュースなど、さまざまな素材を通してその内容を第三者に伝えられるよう理解を深めます。第三者に内容を伝えるにはどのようにすればよいのか、素材に何を加え、何を省けばよいのかなどを考えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	第三者に何かを伝える際の注意点を学び、言葉の選び方や文章の構成を学びます。	自分自身が感じた日常の喜怒哀楽を相手にも同じように伝えることができる。
汎用的な力		相手に興味を持ってもらうために話を構成することができる。
1．DP8. 意思疎通		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業態度	： 各回授業への積極的参加や受講マナーを総合的に評価します。
課題発表	： 授業で出した課題発表での注意点や課題の意図を理解しているかなどを評価します。
レポート提出	： 発表に連動して必ず原稿を用意してもらいます。文章をチェックすることで理解している点、していない点をより明確に採点評価します。
	25%
	30%
	45%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

実際にラジオ番組で使用した、ニュース原稿やパブリシティ原稿を使用します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	レポート提出がない学生や出席日数が厳しい学生などにはその都度、声掛けしメールでの提出などに対応します。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	挨拶の仕方・授業の狙いを解説 腹式呼吸での挨拶の仕方を練習します。授業の進行方法や成績評価などを説明します。自己分析を兼ねた自己紹介アンケートに記入してもらい授業内で活用してもらいます。	4時間
	腹式呼吸をマスターする	

第2回	滑舌 滑舌練習。文章を使い、正しい滑舌で言葉話すことを学びます。	滑舌プリントを復習する	4時間
第3回	レポート提出と発表 文章力のチェックも兼ねてレポートを出してもらい、起承転結、文章の構成の仕方を学びます。	出来た原稿を声を出し読む練習をする	4時間
第4回	伝える 映像の短編ものを見てもらい、理解力と伝える能力をチェックします。	物語を思い出し、要点を書き出して伝える内容を組み立てる	4時間
第5回	レポート提出と発表 文章力のチェックも兼ねてレポートを出してもらい、起承転結、文章の構成の仕方を復習します。	原稿を元に腹式と滑舌に注意しながら読む練習をする	4時間
第6回	伝える方法 好きな映画やアニメなどの面白さを正しい滑舌の標準語で伝える練習をします。	好きな映画やアニメの面白さを書き出す	4時間
第7回	ニュースなど紙媒体から学ぶ 雑誌など身近な記事から聞き手が興味を持ってくれるような伝え方を学びます。	ニュース番組や新聞をチェックする	4時間
第8回	ラジオ番組構成 実際に進行表を作ってみます。時間配分やコーナーの順番などを構成してもらいます。	ラジオのトークを意識して聞いてみる	4時間
第9回	ラジオ番組進行表作りーオープニングトークとエンディングトークー 番組の始まりになるオープニングとエンディングトークに必要な旬な話題を取り入れ、つかみトークとなる原稿を作ります。	ラジオ番組を意識して聞いてみる	4時間
第10回	ラジオ番組進行表作りー紹介原稿ー 番組で紹介する曲をより魅力的に聞こえるような紹介原稿を考えます。	ラジオ番組の構成を考えてみる	4時間
第11回	ラジオ番組進行表作りー原稿作成ー それぞれがラジオを聴いてる人に知ってほしいことをパブリシティとして原稿作成してもらいます。	人に興味を持ってもらうための番組作りを考える	4時間
第12回	ラジオ番組進行表作りー問題点の確認ー ラジオ番組進行表作りでわからない点、不明な点を確認します。	構成した番組を自分で話す練習をする	4時間
第13回	まとめと発表（1） 他の学生と発表されたラジオ番組を評価し合います。	発表のための準備をする	4時間
第14回	まとめと発表（2） 他の学生と発表されたラジオ番組を評価し合います。	発表のための準備をする	4時間
第15回	まとめと発表（3） 他の学生と発表されたラジオ番組を評価し合います。	評価を受け、発表内容を見直す	4時間

授業科目名	社会心理学				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

人間は社会の中で暮らし、社会の中で他者とかわりながら生活している。本講義では社会心理学の基本的な研究法を紹介しながら、様々なレベルにおける心理を学ぶ。自己レベルでは個々人の心理を扱い、対人レベルでは対人関係の心理を扱う。集団レベルでは集団としての心理を扱い、社会・文化レベルでは広く社会の心理を扱う。自分と他者との関係性を、多種多様な観点から考察し、社会における自分のあり方を考えるきっかけとする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	社会心理学に関する知識を身に付ける。	講義内で扱う内容を深く理解し、議論する。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		社会における心のあり方に関する課題を発見する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

評価の基準

： 授業内容に関する質問、コメント、感想などを記入するコメントカードを用いて評価する。
(2点×15回=30点)

30%

小テスト

： 講義で学んだ知識を正しく理解しているかについて評価する。(10点×2=20点)

20%

期末試験

： 講義で学んだ知識を正しく理解しているかについて評価する。(50点)

50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

回数	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	社会心理学とは何か 授業の目的、内容、評価について確認を行い、心理学や社会心理学の基本的な考え方を理解する。	4時間
第2回	社会心理学の研究法 社会心理学の基本的な研究方法を学び理解する。	4時間

第3回	自己意識と自己評価 社会心理学における、自己意識と自己評価について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「対人認知」「印象形成」「帰属理論」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第4回	対人認知における印象形成と帰属理論 対人認知における印象形成と帰属理論について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「社会的発達」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第5回	他者との関係性から見た社会的発達 親子・友人・恋人などの他者との関係性について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「性格（類型論と特性論）」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第6回	類型論と特性論 様々な性格検査を紹介しながら、類型論と特性論について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「説得的コミュニケーション」「ヒューリスティックス」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第7回	コミュニケーションとヒューリスティックス 社会心理学における説得的コミュニケーションやヒューリスティックスについて学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「対人魅力」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第8回	対人魅力 社会心理学における対人魅力について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「対人コミュニケーション」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第9回	対人コミュニケーション 社会における対人コミュニケーションのメカニズムと役割について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「援助行動」「攻撃行動」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第10回	援助行動と攻撃行動 社会における援助行動と攻撃行動の特徴について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「集団のリーダー」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第11回	集団の規範とリーダー 集団における規範とリーダーの役割について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「文化比較」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第12回	文化比較 社会心理学における文化比較について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「ステレオタイプ」「ジェンダー」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第13回	ステレオタイプとジェンダー 社会におけるステレオタイプとジェンダースtereotypeについて学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「社会的行動」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第14回	社会的行動 社会における行動が様々な要因によっていることについて学び理解する。	配布資料の復習を行う。	4時間
第15回	まとめ 本講義の内容を整理し、言及できなかった点を中心に補足します。	これまでの授業を復習し、疑問点をまとめてくる。	4時間

授業科目名	臨床心理学				
担当教員名	網谷綾香				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

授業概要

臨床心理学は、広く心理的問題の解決を図るための学問です。講義では、まず臨床心理学の基礎理論を学んだ上で、臨床心理学で扱う心の諸問題、および問題を軽減し当事者を支援するための方法について具体的に学んでいきます。正しい知識を身につけることを通して、人間（自己を含む）への深い理解を形成していきます。基本的には講義形式ですが、より深く实际的に理解することを目的として、アクティブラーニングの一環として一部演習を取り入れます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	臨床心理学の基礎理論と応用についての理解	臨床心理学の基礎理論に関する知識を習得し、その応用について考えることができる。
汎用的な力		現代社会における心理的課題を見出し、その改善方法について考えることができる。
1 . DP4. 課題発見		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規程回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

到達度テスト	50%	: 授業内で実施する到達度テストの結果から、基礎知識の定着を評価する。
シャトルシートの記載内容	35%	: 毎回の授業で使用するシャトルシート（授業内課題・振り返り含む）の記載内容を独自のルーブリックに基づいて評価する。（ルーブリックは授業内で提示する）
小レポート	15%	: 授業外学修の1つとして、授業に関連する小レポートを2回課す。記載内容を独自のルーブリックに基づいて評価する。（ルーブリックは授業内で提示する）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

下山晴彦（編）「よくわかる臨床心理学」改定新版 ミネルヴァ書房

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修がもとめられる。「授業外学修課題」にとりくむことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日2限
 場所： 幼児教育学科 第5研究室
 備考・注意事項： 事前にアポイントを取ったうえで入室すること。
 amitani@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

第1回 「臨床心理学」とはなにか

配布資料を熟読し、臨床心理学の概要を理解する。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

		「臨床心理学」という学問の全体像を理解する。具体的には、心理学の中における臨床心理学の歴史・医学モデルとの相違・現場での実践や研究活動の内容について学ぶ。		
第2回	精神分析理論	フロイトの精神分析理論について学ぶ。力動論の原理や防衛機制について理解し、心理的問題を精神分析においてはどのように理解していけるかについて考える。	フロイトの生涯について調べ、彼の理論とどのように結びついていたのかを考える。エゴグラムで自己分析してみる。	4時間
第3回	分析心理学	ユングの分析心理学の理論について学ぶ。元型・コンプレックス・外向型/内向型のパーソナリティ理論について学びを深める。	ユングの生涯について調べ、彼の理論とどのように結びついていたのかを考える。類型論にもとづく心理検査を体験し自己分析してみる。	4時間
第4回	来談者中心療法	ロジャースの来談者中心療法の理論について学ぶ。共感的理解・無条件の積極的関心・自己一致などカウンセラーに求められる態度、グループエンカウンターについて理解する。	グループエンカウンターや遊戯療法について調べ、その活用について理解する。	4時間
第5回	行動療法・認知行動療法	行動療法や認知行動療法について学ぶ。基礎となる学習理論を理解し、その応用について考える。	これまでの資料を熟読し、小レポートを書く。	4時間
第6回	アセスメントの基本	アセスメントの概要について学ぶ。アセスメントの重要性を理解し、面接法、観察法、検査法など具体的な方法を知る。	日常生活の中で観察法などを用いて、他者を理解するためのアセスメントを実践してみる。	4時間
第7回	パーソナリティの理解	心理検査を通じたパーソナリティ理解について学ぶ。パーソナリティ理論を理解し、投影法・質問紙法・作業検査法など具体的な心理検査の実践について知る。	心理検査の背景にある理論や検査結果の分析法について調べ、占いとの違いを考えてみる。	4時間
第8回	カウンセリング演習	これまで学んだことをもとに、ロールプレイを通してカウンセリングの実際を体験する。演習を通して、共感することやアセスメントの難しさと重要性を理解する。	配布資料を読み、実際のカウンセリング事例について知る。	4時間
第9回	ストレスと心理的障害	ストレスについての基本的な理論を学び、ストレスにさらされたとき、どのような心理的障害が生じるのかを学ぶ。	資料をもとに様々な心理的障害の特徴を理解する。	4時間
第10回	うつ・躁・統合失調症の理解と支援	うつ病や躁病・統合失調症、パーソナリティ障害などについて正しい知識を身につける。	資料をもとに実際の事例を学び、当事者の気持ちを理解する。	4時間
第11回	発達障害の理解と支援：自閉症	発達障害について全体像を理解する。特に自閉症についての詳細な特性や支援のあり方を学ぶ。	当事者や家族の書いた書籍やブログなどを読み、理解を深める。	4時間
第12回	発達障害の理解と支援：ADHDなど	ADHD、学習障害、吃音、チックなど、さまざまな発達障害について学び、理解を深める。	これまでの資料を熟読し、小レポート課題について考えをまとめる。	4時間
第13回	青年期の悩みと心理的障害	青年期という発達段階について理解する。この時期生じやすい悩みと心理的障害について学ぶことを通して、自己理解を深める。	これまでの資料を熟読し、小レポートを書く。	4時間
第14回	芸術療法	芸術療法の様々な手法と実際について学ぶ。/到達度テストの実施。	箱庭療法やコラージュ、絵画療法などについて調べる。	4時間
第15回	まとめ	これまでの学習内容を振り返り、自身の到達度について確認を行う。「心の癒し」のイメージを芸術療法の手法を用いて表現し、臨床心理学による心の理解と支援のあり方について考えをより深める。	これまでの資料を熟読し、本講義を通しての学びを確認する。	4時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション演習 1				
担当教員名	野田 順子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	芸術棟ラジオブースでの講義となります。				

授業概要

本授業は、戯曲台本を使って、「音声のみ」の表現に着目し、聴き手に「感情を届ける」ための基礎的技術を習得することを目指します。作品の世界観、台詞の持つ意味、キャラクターの性格やバックボーン、感情の動き、言葉の行間に隠された思いなど、雰囲気を読んでしまいがちな表現に意味を見だし、台本を読解する力や音声表現方法を模索します。どうすれば聴き手に自分の思いや表現が伝わるのかを考え、実際に音声表現をしながら実践し、受講生全員またはグループに別れて課題に取り組みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	音声表現の知識、スキルアップ	オーディオドラマについての知識を身につけることができる。
汎用的な力		
1 . DP9. 役割理解・連携行動		他人の演技を聞き、その表現の意図を把握し、自身の役割を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内実技・実技試験	40%	： 作品、キャラクターに見合った明確な発声で、積極的に表現することができるか、最後までやり通す（表現する）ことができるか等を基準に40点満点で評価する。
受講態度	60%	： 授業に関する有意義な質問、授業中のやり取りによって積極的に参加しているか、また、遅刻状況、テキスト忘れ、私語、居眠り等の、授業を放棄していると思われる行為の程度によって評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

共通語を習得したい学生は、アクセント辞典の所有が望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	教室または非常勤講師室

授業計画

回	内容	授業目標を立てること。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（授業概要ガイダンス） 授業の進め方、方針等の概要説明。 コミュニケーションを図り、チームワークを身につけよう。	授業目標を立てること。	1時間
第2回	スタジオワーク スタジオマナー、マイクワーク等のルール確認。	本日の復習をすること。	1時間
第3回	オーディオドラマとは？ オーディオドラマの専門知識を身につけよう。	感性を鍛え、専門知識を覚えること。	1時間

第4回	台本配布 作品全体の流れを掴むため、配布された台本を音読しよう。	台本を何度も読み込むこと。	1時間
第5回	通し読み 前回は踏まえ、雰囲気を読んでしまわないよう表現しよう。	意味の分からない言葉を調べること。	1時間
第6回	キャラクター考察 キャラクターの性格、関係性など、それぞれのバックボーンを考えよう。	キャラクターに合った表現を考えること。	1時間
第7回	世界観を探る 描かれている作品の世界観を考察し、雰囲気を読んでしまわないよう表現しよう。	他者の会話リズムを観察すること。	1時間
第8回	作品の意図を探る 作品の流れ、意図を読み解き、音声のみで伝える為にどう表現すれば良いのかを考察します。	台本を読み込み、次回の準備をすること。	1時間
第9回	音声ドラマ表現考察 絵も動きも見えない音声ドラマという制約の中で、どう表現したら伝わるのかをより深く考察します。	頭の中のイメージを明確に書き出してみることに。	1時間
第10回	感情表現考察 自身の表現する感情・喜怒哀楽が、聴き手にどう伝わっているのかを考察します。	自分の声を何度も聞き込むこと。	1時間
第11回	会話する 台詞を「読む」のではなく、「会話する」という意識をもって表現しよう。 相手の台詞を聞き、作品の世界観統一を目指します。	作品の世界観を話し合うこと。	1時間
第12回	役を生きる 台詞を「読む」のではなく、作品の中で「生きている」という意識をもって表現しよう。	素と芝居、会話の違いを意識すること。	1時間
第13回	実践・第一グループ 自身の音声表現が聴き手にどう伝わるのか、伝える為にどう表現すれば良いのか等、授業内で考察してきた成果を実践する。 第一グループ。	台本を読み込み、次回の準備をすること。	1時間
第14回	実践・第二グループ 自身の音声表現が聴き手にどう伝わるのか、伝える為にどう表現すれば良いのか等、授業内で考察してきた成果を実践する。 第二グループ。	台本を読み込み、次回の準備をすること。	1時間
第15回	授業まとめ・総括 自分自身のイメージする表現が出来たかどうか、振り返る。 授業総括。	イメージ通りの音声表現が出来るよう追求する。	1時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション演習1				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

卒業研究に向けて、文献を読み、そこから問題点を考え、それを解決できるような実験を組み、それらをまとめる技能は、学生生活において重要である。本演習では、記憶研究やプライミング研究と言った専門的な内容を基盤とし、実験刺激を大阪に関するものに変更する実験を行う（例えば関西弁バージョンの記憶課題など）。実験の実施にあたって、グループで協同しながら実験刺激の作成や実験実施を行い、そこから得られた知見をまとめる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	実験研究の基礎を学び、実際に実験を行う。	講義内で扱う内容を深く理解し実践する。
汎用的な力		
1 . DP5. 計画・立案力		大阪に関する実験刺激を作成し、実験を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

評価の基準

： 講義に積極的に参加姿勢や、実験への協力姿勢を評価する。

50%

研究発表

： 自分たちで行った研究についてプレゼン発表を行い、評価する。

50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

回数	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	実験をすること 授業の目的、内容、評価について確認を行い、実験研究の基本的な考え方を理解する。	2時間
第2回	心理学の基礎	2時間

	記憶とプライミングについて扱い、両者について学び理解する。		
第3回	記憶に関する文献講読 講師が用意する「記憶」に関する論文を読み、授業内でまとめた内容を発表する。	論文を事前に読み、内容をまとめる。	2時間
第4回	ワーキングメモリに関する文献講読 講師が用意する「ワーキングメモリ」に関する論文を読み、授業内でまとめた内容を発表する。	論文を事前に読み、内容をまとめる。	2時間
第5回	プライミングに関する文献講読 講師が用意する「プライミング」に関する論文を読み、授業内でまとめた内容を発表する。	論文を事前に読み、内容をまとめる。	2時間
第6回	文化プライミングに関する文献講読 講師が用意する「文化プライミング」に関する論文を読み、授業内でまとめた内容を発表する。	論文を事前に読み、内容をまとめる。	2時間
第7回	研究テーマの決定 実験のテーマを決め、実験の準備を行う。	これまでの資料を復習し、自分がどのような実験を行いたいかが明確にしておく。	2時間
第8回	予備実験刺激の作成 実験に用いる実験刺激（大阪バージョン）を協同しながら、大まかに作成していく。	配布資料を復習し、実験刺激を多数作成する。	2時間
第9回	本実験刺激の作成 実験に用いる実験刺激（大阪バージョン）を協同しながら、精緻に作成していく。	配布資料を復習し、実験刺激を多数作成する。	2時間
第10回	実験の実施（1） 準備した実験刺激を用い、学生同士で予備実験を行う。	配布資料を復習し、予備実験の手続などを理解する。	2時間
第11回	実験の実施（2） 準備した実験刺激を用い、授業に参加していない学生を実験参加者とし、実験を行う。	配布資料を復習し、実験の手続などを理解する。得られたデータをまとめておく。	2時間
第12回	実験の実施（3） 準備した実験刺激を用い、授業に参加していない学生を実験参加者とし、実験を行う。	配布資料を復習し、実験の手続などを理解する。得られたデータをまとめておく。	2時間
第13回	データ入力と分析 実験で得られたデータをExcelに入力し、簡単な分析を行う。	実験データをまとめ、データ入力作業および分析を行う。	2時間
第14回	実験のまとめと考察 得られたデータをもとに、何が言えるのかを考察し、先行研究との違いを明確にする。	得られたデータから言えることを正確に把握し、内容をまとめる。	2時間
第15回	実験のまとめと発表 得られた分析データをもとに、結論を考察し、研究発表を行う。	実験データをまとめ、研究発表としてまとめる。	2時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション演習 2				
担当教員名	浅野法子・佐伯暁子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、地域研究の視点から文化研究を試みます。前半には、大阪の今を知る一環として、黒門市場でのフィールドワークを実施します。その後、大阪の歴史や風土、自然、文化、文学芸等をキーワードに、個人で課題を探して調査を進めます。日本文化の探求を深め、異文化の視点から欧米文化と比較した日本文化を「発見」を試みます。

演習形式で授業を進め、グループの課題と個人の課題を見つけて発表に取り組みます。最終課題は、調査結果を卒業研究として文章にまとめます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	大阪を事例とした文化研究。	周辺文化を客観的に分析できる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		文学作品や周辺文化をクリティカルに分析できる。
2 . DP7. 完遂		自ら課題を発見し、情報収集・分析し、発表することができる。

学外連携学修

有り（連携先：黒門市場でのフィールドワーク）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ 見学、フィールドワーク
- ・ 課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
プレゼンテーション	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
レポート	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
提出物（メモ）	： 毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2ポイント。
受講態度	： 授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜紹介

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。黒門市場フィールドワークの際には、交通費が必要。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 浅野：水曜3限 佐伯：月曜3限（13:00-14:30）

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じます。

授業計画

： 授業外学修課題にかかると目安の時間

第1回	授業ガイダンス 授業の進め方および、課題および発表方法、評価について大阪の歴史について学びます。	振り返りシートの作成、および大阪の歴史を調べる。	1時間
第2回	生まれ育った地域と大阪 生まれ育った地域と大阪の歴史や文化について調べ、それらの相違点について考えます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第3回	フィールドワークに向けての準備 ・資料収集 ・課題の確認	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第4回	フィールドワーク：黒門市場での体験学習①聞き取り調査 学外授業を通して、わかったこと、感じたことを振り返りシートにまとめます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第5回	フィールドワーク：黒門市場での体験学習②まとめ 学外授業を通して、わかったこと、感じたことを振り返りシートにまとめます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第6回	大阪の文化について①資料の講読 ・前回までに取り上げられた大阪の文化について、知識を深めます。 ・発表方法について学び、発表テーマを探しましょう。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第7回	大阪の文化について②課題の発見 ・前回までに取り上げられた大阪の文化について、グループで話し合い、課題をみつけてまとめます。 ・発表方法について学び、発表テーマを探しましょう。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第8回	大阪の歴史について①資料講読 ・前回までに取り上げられた大阪の歴史について、知識を深めます。 ・発表方法について学び、発表テーマを探しましょう。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第9回	大阪の歴史について②課題の発見 ・前回までに取り上げられた大阪の歴史について、グループで話し合い、課題をみつけてまとめます。 ・発表方法とレポートの書き方について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第10回	大阪の今①資料講読 ・大阪の歴史をふまえて、今の大阪について考えてみましょう。 ・発表方法とレポートの書き方について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第11回	大阪の今②課題の発見 ・大阪の歴史をふまえて、今の大阪についてグループで話し合い、課題をみつけてまとめます。 ・発表方法とレポートの書き方について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第12回	発表および意見交換①テーマを発表する ・発表者が話題提供者となり、取り上げるテーマに関する意見交換を行います。 ・レポートの書き方について復習します。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第13回	発表および意見交換②レポートの構成を発表する ・発表者が話題提供者となり、レポートの構成に関する意見交換を行います。 ・レポートの構成について考えます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第14回	発表および意見交換③個人での発表 ・発表者が話題提供者となり、それぞれ意見交換を行います。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第15回	発表およびまとめ 授業の振り返りおよび、レポートのまとめ方の説明します。	振り返りシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく	1時間

授業科目名	グローバルコミュニケーション演習 1				
担当教員名	白瀬浩司				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

英語を学んでいれば、《いま》という時系列でそれを話す誰かとコミュニケーションする機会に巡り逢う可能性はあります。日本の古典（古文）を学んでいても、その話者に会うことはありませんが、私たちの文化的ルーツと向き合うことにはなります。本講座では、多文化状況の中でビジネスや文化交流を行う際の一つの拠り所として、わが国の伝統的な文化や言葉への理解を深めるべく、古語による作文やスピーチに取り組んでいきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日本の古典文化について知ることや、古典の文章表現を味わい、それをコミュニケーションに活かすこと。

目標：

時代的（当代的）な要素や普遍的な要素を踏まえ、日本古典の表現を用いて書いたり、話したりすることができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

古典の表現や文化的背景を通し、現代の文化や事象の捉え返しと課題を見出すことができる。

現代語・現代の表現とは異なる古典語・古典の表現を理解した上で、それを用いて自身の思いを伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

基礎古語・基本例文の修得

評価の基準

30% : 10回の小テストを実施し、その素点の合計点を30%に換算します。

古文暗誦

20% : 2回の暗誦テストを実施し、5段階で評価します（10%×2回）。評価規準については、講義時に提示。

文例に基づくスピーチ

20% : 1回のスピーチを実施し、5段階で評価します。評価規準については、講義時に提示。

最終課題（レポート）

20% : 現代語で書かれた文章を古典の文章に翻訳します。論題に対する理解と、記述内容により評価します。なお、評価規準および基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示。

受講態度

10% : 講義時の音読演習への参加姿勢や発言、暗誦やスピーチの聴取態度などによって評価します。毎授業の素点の合計点を10%に換算します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画		授業外学修課題にかかかる目安の時間
第1回	<p>素養としての古典文学</p> <p>細かい文法にこだわらず、日本古典文学の世界を楽しみつつ、文化的・言語的な理解を深めていきます。仮名表記とともに、かつての日本語の発音や、読みぐせ（音便など）の基本的な知識を確認します。また、実際にいくつかの古典文章の音読を実施します。</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>エッセイを読むこと（1）—枕草子</p> <p>中等教育で出会った『枕草子』を再読・講読するとともに、古代（中古）文学の特質の一端について学修します。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト①</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>エッセイを読むこと（2）—徒然草</p> <p>中等教育で出会った『徒然草』を再読・講読するとともに、中世文学の特質の一端について学修します。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト②</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>ファンタジーを読むこと（1）—竹取物語・冒頭部と結末部</p> <p>中等教育で出会った『竹取物語』を再読・講読するとともに、古代（上古）文学の特質の一端について学修します。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト③</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>ファンタジーを読むこと（2）—竹取物語・貴公子たちの求婚</p> <p>中等教育の教科書には掲載されない『竹取物語』のある貴公子のエピソードを読み進めます。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト④</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>暗誦課題の実演（1）</p> <p>1人ずつ教壇に立ち、複数課題のいずれかの文章（当日指定）を暗誦します。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト⑤</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>トラベルガイドを読むこと—奥の細道</p> <p>中等教育で出会った『奥の細道』を再読・講読するとともに、近世文学の特質の一端について学修します。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト⑥</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>シナリオを読むこと（1）—平家物語</p> <p>『平家物語』の一節を講読し、朗読・群読の実演に取り組みます。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト⑦</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>シナリオを読むこと（2）—狂言</p> <p>狂言の一演目を講読し、役割分担をして実際に演じてみます。（グループ活動）</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト⑧</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>シナリオを読むこと（3）—歌舞伎・浄瑠璃</p> <p>歌舞伎・浄瑠璃の一演目を講読し、実際に演じてみます。（グループ活動）</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト⑨</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p>暗誦課題の実演（2）</p> <p>1人ずつ教壇に立ち、複数課題のいずれかの文章（当日指定）を暗誦します。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト⑩</p>	<p>第14回の授業で実施するスピーチ課題を提示するので、実演に向けて原稿を作成し、スピーチ練習を繰り返し行う。</p> <p>4時間</p>
第12回	<p>言文一致体の文章（明治期）を読むこと</p> <p>明治期の言文一致体の作品を講読し、近代文学の特質の一端について学修します。</p>	<p>第14回の授業のスピーチ実演に向けて、原稿を作成し、スピーチ練習を繰り返し行う。</p> <p>4時間</p>
第13回	<p>シナリオを読むこと（4）—翻訳劇</p> <p>シェークスピアの翻訳台本（明治期）を講読し、近代における西洋文化受容の一端について学修します。</p>	<p>次時に実施するスピーチ実演に向けて、スピーチ練習を繰り返し行う。</p> <p>4時間</p>

第14回	<p>古典文によるスピーチ実演</p> <p>1人ずつ教壇に立ち、各自で準備したスピーチ（暗誦）を実施します。</p>	<p>各自でスピーチの振り返りを行い、ワークシートに記入する。次時の最終課題の予告内容に合わせ、情報収集や準備を行う。</p>	4時間
第15回	<p>古典作文—現代と過去の精神文化的往還【おうかん】のために</p> <p>事前にも与えられた課題（現代語の文章）を古典の文章に翻訳します（40分間）。また、古典の言語的素養をグローバルコミュニケーションにおいて、どのように活かしていけるのか全員で討議します。</p>	<p>講座全体の振り返りを各自で行う。</p>	4時間

授業科目名	舞台表現演習				
担当教員名	美月亜優				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義・演習。毎回セリフと動作を考えながら、舞台芝居を体感します。毎回音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱します。ダンスも少しやります。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日常において、自分がどう見られているのか、そして、自分はどう見せたいのかを一度立ち止まって考え、客観視をする。もう一人の自分が、自分自身を見つめ、自分の行動、言動にきちんと責任をもって進んで行く。あらゆる角度から、色々なもの、自分自身を見ることが出来る。視野がどんどん広がり、色々なものが見え、色々な感情が湧いてきて、言葉で伝えたくなくなります。舞台パフォーマンスで培った基本をベースに、お芝居を通し、感性豊かで、心の広い人間性へと成長出来るお手伝いが出来ればと考えております。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	歌、ダンス、芝居	五感の向上と、自覚を持ち進むことができる。
		五感の向上と自覚。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		自分自身のキャラクターについて考えることができる。
2 . DP9. 役割理解・連携行動		相手を思いやりながら、芝居をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	50%	： 毎回の課題をどれだけ理解し、演じようとしているか。
授業態度	30%	： 挨拶、マナー等守られているか。他の人の実演もマナー良く見学しているか。積極的に参加しているか。
最終課題	20%	： どれだけ読解力をもって挑んでいるか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 授業の前後に質問に応じます。

授業計画

： 授業外学修課題にかかるとの目安の時間

第1回	発声、歌稽古、大芝居：キャラクターについて考える。 時代考証、キャラクターについて考える。	それぞれのキャラクターに合った台詞回しの反復練習をする。	4時間
第2回	発声、歌稽古、大芝居：大きく演じる 衣装や大舞台で演じることを想定したり、観客に伝わる演じ方について考える。	台詞回しの反復練習をする。	4時間
第3回	発声、歌稽古、大芝居：見せ方 大舞台で伝える演じ方について考える。キャラクターを大きく演じる。	台詞回しの反復練習をする。	4時間
第4回	発声、歌稽古、ダンス：リズムを感じる 体全体を使ってダンスをする。リズムを感じる。	振りの反復練習をする。	4時間
第5回	発声、歌稽古、ダンス：身体で覚える 振りを体で覚え、音楽を感じながら踊る。	振りの反復練習をする。	4時間
第6回	発声、歌稽古、ダンス：感情をのせて踊ることを考える 音楽にのせて、感情表現しながら踊る。	次の課題に目を通す。	4時間
第7回	発声、歌稽古、大芝居：キャラクターの立ち振る舞いについて考える 大芝居の型について学ぶ。舞台考証や、それぞれのキャラクターの所作、立ち振る舞いについて考える。	所作と台詞回しの反復練習をする。	4時間
第8回	発声、歌稽古、大芝居：所作を大きく振る舞うことを学ぶ 歩き方、挨拶の仕方等、所作を大きく優雅に振る舞うことに、少しずつ慣れる。動作も台詞も大きく演じる。	所作と台詞回しの反復練習をする。	4時間
第9回	発声、歌稽古、大芝居：大胆に演じることを学ぶ 様々な役を演じ分ける。思い切り演じる。役に成り切って唄う。	所作と台詞回しの反復練習をする。	4時間
第10回	発声、歌稽古、大芝居：表現について考える 大きく芝居をする。表現を大きくし、動作も大きくし、流れるように、歌うように、優雅に演じ切る。	次の課題に目を通す。	4時間
第11回	発声、歌稽古、コミカル芝居：キャラクターについて考える 様々なキャラクターについて考える、演じる。	台詞の反復練習をする。	4時間
第12回	発声、歌稽古、コミカル芝居：印象深くなる演技について考える 様々なキャラクターを色濃く演じ、印象を残せるように考える。	台詞の反復練習をする。	4時間
第13回	発声、歌稽古、コミカル芝居：スムーズに演じる 相手とのやり取りが、スムーズにいくように、テンポ良く演じる。思い切り演じる。	次の課題に目を通す。	4時間
第14回	発声、古典芝居 古典芝居を演じる。	次の課題に目を通し読み込む。	4時間
第15回	まとめ：舞台表現、感情表現、キャラクター表現について考える セリフの課題を感情、キャラクターを考え演じ切る。心と体と感情を一体化して演じる。	授業内容を振り返る。これからの社会生活においても、思い切りが良く、素敵で優しいキャラクター人生を、歩んでいって欲しいです。	4時間

授業科目名	キャリアプランニングⅡ				
担当教員名	広滝道代・佐伯暁子・種子康子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義と演習を織り交ぜながら授業を行う。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

開講時期は短期大学2年生にとって就職活動の真っ最中にあたる。したがって、働くことの意味、キャリアのプランニング（計画）について、「キャリアプランニングⅠ」で学んだ内容を踏まえ、改めて確認するとともに、就職に必要なコミュニケーション力の向上や様々な就活技法の習得を目指す。そして、希望する職業人になることを目標とする。授業構成は、①基本課題、②テーマ課題（講義と個人またはグループワーク）、③自学による事後課題で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	社会人として必要な人間力、知識・展開力を身につける。	情報収集、言語能力、構成能力、共働力を身につける。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		収集した資料から将来のキャリアに関する課題や志望する業界の課題を発見できる。
2．DP5. 計画・立案力		収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。
3．DP9. 役割理解・連携行動		集団やチームの中で自分の役割を理解し協同できる。
4．DP7. 完遂		自分の担当カ所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
毎回の課題（3～15回）	： 全13回課題を課します。各回1点満点。 13%
「志望動機」シート	： 独自の意見を提示できているかどうかという観点から評価する。 20%
課題提出（振り返りシート・メモなど）	： 授業内容と就職活動の関連、及び今後のキャリア開発との関連が提示できているかどうかという観点から評価する。 20%
レポート	： 指定の形式に沿って、自己と社会の関係について独自の意見を提示できているかどうかという観点から評価する。 47%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学・就職部	『就職ガイドブック』	・	・ 年

参考文献等

株式会社ワークアカデミー『書きこみ式「なりたい自分」を目指すシューカツワークブック』2013年、noa出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンスー働くとはー （担当：広滝） 本授業の概要及び進め方について学ぶ。 また、働くことの意味、人生設計の重要性について学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第2回	ビジネスマナー （担当：種子） 1回生の復習も含めて、電話対応（アポイントの取り方）や訪問マナー、会社訪問時の言葉遣いについて学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第3回	面接演習1ー面接準備ー （担当：種子） 面接シーンで起こりうる状況への対応や想定質問についての準備を行う。	筆記試験対策問題に取り組む。教科書p90, 91の「53の質問」の回答を考える。 4時間
第4回	面接演習2ー模擬面接ー （担当：種子） 模擬面接（個人）を行う。 「志望動機」「就職先で実現したいこと」を考える。	筆記試験対策問題に取り組む。「志望動機」シートを作成する。 4時間
第5回	時事社会1ー経済と産業ー （担当：種子） 経済の基礎と産業の変遷について学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第6回	時事社会2ー日本と国際社会ー （担当：種子） 日本と国際社会について学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第7回	時事社会3ー環境と科学ー （担当：種子） 環境、科学、市民生活などについて学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第8回	情報収集とメディアの活用 （担当：種子） 新聞記事を読んで、正確に情報を収集し分析する練習を行う。 記事についての自分の意見を述べる。	筆記試験対策問題に取り組む。記事についてのレポートを作成する。 4時間
第9回	共働を学ぶ （担当：種子） コミュニケーションゲームを取り入れ、情報収集、伝達、他者への配慮を学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。振り返りシートを作成する。 4時間
第10回	働き方を考える （担当：種子） 労働環境の変化について学ぶ。 「正規雇用と非正規雇用」についてグループディスカッションを行う。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第11回	労働者の義務と権利を学ぶ （担当：種子） 労働に関わる法律や税金、社会保障制度について学ぶ。 給与明細の読み方など身近な問題にも触れる。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第12回	報告・連絡・相談について学ぶ （担当：種子） 電話メモのフォーマットを作成し、ハウレンソウに必要な基本的なポイントを学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。電話メモのフォーマットを作成する。 4時間
第13回	ビジネス文書 （担当：種子） ビジネス文書（社外文書や社内文書）を書くための基本的なポイントを学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第14回	統計・データの読み方 （担当：種子） 会社で使われる数値の読み方を学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第15回	まとめと振り返り （担当：佐伯） 本授業及び実際の就職活動を振り返って、学んだこと、気づいたことを振り返る。	筆記試験対策問題に取り組む。レポートを完成させる。 4時間

授業科目名	オーディオドラマ演習				
担当教員名	野田 順子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	芸術棟ラジオブースでの講義となります。スタジオマナー、マイクワーク等の専門知識、台詞の読解や表現力を身につけるための実践的レッスンをを行います。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、オーディオドラマの台本を使って、映像や動きに頼らず「音声のみ」での表現に特化し、聴き手に「物語を届ける」ための基礎的技術を習得することを目指します。作品の世界観、台詞の持つ意味、キャラクターの性格やバックボーン、感情、言葉の行間に隠された思いなど、雰囲気を読んでしまいがちな表現に意味を見だし、台本を読解する力やより伝わる音声表現方法を追求します。どうすれば聴き手に自分の思いや表現が伝わるのかを考え、実際に収録をしながら実践するレッスンをを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	実践的表現力	抑揚、強調、緩急、間を柔軟に取り入れ、豊かな表現力を身につけることができる。
汎用的な力		「聞き手に伝わる表現とは何か？」を考察し、他者に対して正確に伝える力を身につけることができる。
1 . DP6. 行動・実践		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内実技・実技試験

40%

受講態度

60%

評価の基準

： 作品、キャラクターに見合った明確な発声で、積極的に表現することができるか、最後までやり通す（表現する）ことができるか等を基準に40点満点で評価する。

： 授業に関する有意義な質問、授業中のやり取りによって積極的に参加しているか。また、遅刻状況、テキスト忘れ、私語、居眠り等の、授業を放棄していると思われる行為の程度によって評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

共通語を習得したい学生は、アクセント辞典の所有が望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	教室または非常勤講師室

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（音声収録に際して） 授業の進め方、方針等の概要説明。 フリートークによってコミュニケーションを図り、チームワークを身につけよう。	配布テキストを読み込むこと。 4時間
第2回	スタジオワーク スタジオマナー、マイクワーク等、専門知識を身につけよう。	感性を鍛え、専門知識を覚えること。 4時間

第3回	マイク実践 実際にマイク前に立って、自分の声を確認しよう。	自分の声を常に意識すること。	4時間
第4回	台本配布 作品全体の流れを掴むため、配布された台本を音読しよう。	台本を何度も読み込むこと。	4時間
第5回	通し読み 作品の世界観を考え、雰囲気を読んでしまいがちな台詞に意味を見いだし表現しよう。	意味の分からない言葉を調べること。	4時間
第6回	キャラクター キャラクターの性格、関係性など、それぞれのバックボーンを考え表現しよう。	キャラクターに合った表現を考えること。	4時間
第7回	世界観 描かれている世界観を考察し、雰囲気を読んでしまいがちな台詞に意味を見いだし表現しよう。	世界観に見合う表現を考えること。	4時間
第8回	キャストイング 作品の流れ、意図を読み解き、音声のみで伝える為にどう表現すれば良いのかを考察します。	台本を読み込み、次回の準備をすること。	4時間
第9回	音声ドラマ表現 絵も動きも見えない音声ドラマという制約の中で、どう表現したら伝わるのかをより深く考察します。	頭の中のイメージを明確に書き出してみるこ と。	4時間
第10回	感情表現 自身の表現する感情・喜怒哀楽が、聴き手にどう伝わっているのかを考察します。	自分の声を何度も聞き込むこと。	4時間
第11回	言葉のキャッチボール 台詞を「読む」のではなく、「会話する」という意識をもって表現しよう。 相手の台詞を聞き、作品の世界観統一を目指します。	作品の世界観を話し合うこと。	4時間
第12回	役を生きる 台詞を「読む」のではなく、 作品の中で「生きている」という意識をもって表現しよう。	素と芝居、会話の違いを意識すること。	4時間
第13回	収録・第一グループ 自身の音声表現が聴き手にどう伝わるのか、 伝える為にどう表現すれば良いのか等、授業内で考察してきた成果を実践収録。 第一グループ。	台本を読み込み、次回の準備をすること。	4時間
第14回	収録・第二グループ 自身の音声表現が聴き手にどう伝わるのか、 伝える為にどう表現すれば良いのか等、授業内で考察してきた成果を実践収録。 第二グループ。	台本を読み込み、次回の準備をすること。	4時間
第15回	授業まとめ・発表 成果発表。 収録した作品をチェックしながら反省会。 総括。	イメージ通りの音声表現が出来るよう追求す る。	4時間

授業科目名	文学作品講読				
担当教員名	白瀬浩司				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「可」

授業概要

慌ただしい現代社会を生きる私たちが、ファンタジー（幻想的な物語・非現実的な物語）を読むことの効用とは、いったい何でしょうか。本講座では、みんなで議論しながら安房直子のファンタジー世界を読み解いていきます。安房直子作品に、小学校・中学校の国語科教材として出会った人もいるでしょう。忙しい日々を過ごす私たちが、いつしか、どこかに置き忘れてきたものに出会えるかも知れません。さらに、物語構造や物語の仕掛けを捉えながら、作品分析に取り組んでいくことになります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

安房直子作品を読み味わうこと、ファンタジー小説について理解すること、想像力を豊かにすること。

目標：

非現実的・幻想的な物語世界を理解し、楽しむことができる。

汎用的な力

- 1 . DP10. 忠恕の心

ファンタジー小説の中に描かれた人の優しさや温かさ、怖れや残酷さなど、人としての原始的な心情について捉え返すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

小説本文音読

評価の基準

： 講義時に担当した小説本文音読について、5段階で評価します。評価規準については、講義時に提示。

5%

振り返りシート

： 各回に提出する振り返りシートの記述により、よく理解できている＝2点、概ね理解できている＝1点とします。

30%

グループ討論・グループ報告

： グループ討議への参加態度、グループによる報告内容によって、3段階で評価します。評価規準については、講義時に提示。

20%

受講態度

： 各回の授業への参加態度（通常時の発言・全体討議での発言）、課題への取り組み姿勢により、評価します。

15%

最終課題（レポート）

： 与えられた論題に関する理解度と記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示。

30%

使用教科書

指定する

著者

安房直子・作、吉田尚令・絵

タイトル

『きつねの窓』（ポプラポケット文庫）

出版社

・ ポプラ社

出版年

・ 2005年

参考文献等

藤澤成光『こころが織りなすファンタジー—安房直子の領域』（てらいんく、2004年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>安房直子の世界—ファンタジーとは何か—</p> <p>〈ファンタジー〉とは何か、安房直子の作品世界が有する特徴について踏まえるとともに、本講座における基本的な視座の共有、授業展開の仕方について確認を行います。</p>	次時の読解に備え、『きつねの窓』を通読する。 4時間
第2回	<p>みんなで読み解く『きつねの窓』の作品世界</p> <p>三つの空間が錯綜する本作品を読み、まずは安房直子作品を実際に読み味わってみます。</p> <p>※本文朗読演習</p>	『きつねの窓』を読み返し、本時の学修事項を復習する。 4時間
第3回	<p>報告準備—報告の仕方、報告レジュメの作り方、構造図の作り方、読解の方法について—</p> <p>第7回から、グループによる報告を経て全員で討議していく授業形式となるため、報告の仕方について確認するとともに、各グループの報告作品を分担します。</p>	次時の読解に備え、『うさぎのくれたバレエシューズ』（プリント配布）を通読する。 4時間
第4回	<p>絵本『うさぎのくれたバレエシューズ』を読み解く—報告サンプルとして—</p> <p>報告の事例として『うさぎのくれたバレエシューズ』を読み解きます。レジュメの書き方や報告の仕方を本作品によって改めて具体的に確認します。</p> <p>※本文朗読演習</p>	『うさぎのくれたバレエシューズ』を読み返し、本時の学修事項を復習する。 4時間
第5回	<p>報告準備—資料収集と報告レジュメ作成作業—</p> <p>各グループで資料収集とレジュメの作成作業を行います。</p>	次時の読解に備え、『さんしょっ子』を通読する。 4時間
第6回	<p>みんなで読み解く『さんしょっ子』の作品世界</p> <p>報告の事例として『さんしょっ子』を読み解きます。全員で本作品の問題点・疑問点、さらに構造や主題について討議していきます。</p> <p>※本文朗読演習</p>	『さんしょっ子』を読み返し、本時の学修事項を復習する。 次時の読解に備え、『夢の果て』を通読する。 4時間
第7回	<p>みんなで読み解く『夢の果て』の作品世界</p> <p>グループによる報告を経て、全員で『夢の果て』の問題点・疑問点、さらに構造や主題について討議していきます。</p> <p>※本文朗読演習</p>	『夢の果て』を読み返し、本時の学修事項を復習する。 次時の読解に備え、『だれも知らない時間』を通読する。 4時間
第8回	<p>みんなで読み解く『だれも知らない時間』の作品世界</p> <p>グループによる報告を経て、全員で『だれも知らない時間』の問題点・疑問点、さらに構造や主題について討議していきます。</p> <p>※本文朗読演習</p>	『誰も知らない時間』を読み返し、本時の学修事項を復習する。 次時の読解に備え、『緑のスキップ』を通読する。 4時間
第9回	<p>みんなで読み解く『緑のスキップ』の作品世界</p> <p>グループによる報告を経て、全員で『緑のスキップ』の問題点・疑問点、さらに構造や主題について討議していきます。</p> <p>※本文朗読演習</p>	『緑のスキップ』を読み返し、本時の学修事項を復習する。 次時の読解に備え、『夕日の国』を通読する。 4時間
第10回	<p>みんなで読み解く『夕日の国』の作品世界</p> <p>グループによる報告を経て、全員で『夕日の国』の問題点・疑問点、さらに構造や主題について討議していきます。</p> <p>※本文朗読演習</p>	『夕日の国』を読み返し、本時の学修事項を復習する。 次時の読解に備え、『海の雪』を通読する。 4時間
第11回	<p>みんなで読み解く『海の雪』の作品世界</p> <p>グループによる報告を経て、全員で『海の雪』の問題点・疑問点、さらに構造や主題について討議していきます。</p> <p>※本文朗読演習</p>	『海の雪』を読み返し、本時の学修事項を復習する。 次時の読解に備え、『もぐらのほった深い井戸』を通読する。 4時間
第12回	<p>みんなで読み解く『もぐらのほった深い井戸』の作品世界</p> <p>グループによる報告を経て、全員で『もぐらのほった深い井戸』の問題点・疑問点、さらに構造や主題について討議していきます。</p> <p>※本文朗読演習</p>	『もぐらのほった深い井戸』を読み返し、本時の学修事項を復習する。 次時の読解に備え、『サリーさんの手』を通読する。 4時間

第13回	みんなで読み解く『サリーさんの手』の作品世界 グループによる報告を経て、全員で『サリーさんの手』の問題点・疑問点、さらに構造や主題について討議していきます。 ※本文朗読演習	『サリーさんの手』を読み返し、本時の学修事項を復習する。 次時の読解に備え、『鳥』を通読する。	4時間
第14回	みんなで読み解く『鳥』の作品世界 グループによる報告を経て、全員で『鳥』の問題点・疑問点、さらに構造や主題について討議していきます。 ※本文朗読演習	『鳥』を読み返し、本時の学修事項を復習する。	4時間
第15回	私たちの日々の生活と、ファンタジーの効用 学修を終えるにあたり、〈ファンタジー〉とは何か、安房直子の作品世界が有する特徴は何であったか、改めて整理するとともに、私たちの生活において（ともすれば単なる絵空事に過ぎぬ）ファンタジーが担うものなど、全員で討議します。	最終課題（レポート）の執筆。課題内容・分量・書式については講義時に指示する。	4時間

授業科目名	Communications 3				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

グローバル社会で求められる英語力とは、非英語母語話者同士が英語を国際共通語としてコミュニケーションすることを想定し、文化的差異によって誤解が生まれても対応できるコミュニケーション・スキルを指しています。本科目では、そうした英語力を念頭に置き、継続的な英文読解演習を行いながら、異文化を理解するために必要な知識の習得を目的とします。また、大学の地域性をふまえ、大阪文化を世界に発信するにはどんな方法がありうるかという観点から、ディスカッションを進めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性 1 . DP1. 幅広い教養やスキル	具体的内容： 異文化理解に関する知識、地域の文化を世界に発信する英語力	目標： 異文化理解に関する知識を英語で読解し、地域の文化を英語で紹介することができる。
汎用的な力 1 . DP8. 意思疎通		ペアワーク、グループワークをつうじて、意見交換し、考えをまとめ、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小テスト	20%	： 毎回、授業の初めに既習単元の単語テストや読解、聴解、ディクテーションを含めたテストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価の20%とします。
まとめテスト	60%	： 二回のまとめテストを、第7回・第14回に実施します。指定教科書の既習範囲を対象として、それまでの振り返りと知識の定着を確認するテストを行います。60点のまとめテストの平均を評価の60%とします。
スピーチ	20%	： スピーチについて、講義内容の理解と考察の独自性をもとに5段階評価で採点します。30点満点とし、評価の30%とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Peter Vincent	・ Speaking of Intercultural Communication	・ 南雲堂	・ 2017年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限
 場所： 研究室（西館5階）
 備考・注意事項： メールアドレス： asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

： 授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

第1回	オリエンテーション、文化とはなにか、大阪文化とはなにか <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、評価方法について確認します。 ・文化とはなにかについて学びます。 ・大阪文化の特徴について、各グループで話し合い、発表します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 1 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。 ・Unit 2 に出でくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 	1時間
第2回	コミュニケーションとはなにか <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、評価方法について確認します。 ・コミュニケーションとはなにかについて学びます。 ・大阪のコミュニケーションの特徴について、各グループで話し合い、発表します。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit 1 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 2に出でくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 	1時間
第3回	文化とはなにか <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、評価方法について確認します。 ・文化とはなにかについて学びます。 ・大阪文化の特徴について、各グループで話し合い、発表します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 3 (言語コミュニケーションについての文章) を予習しておきます。 	1時間
第4回	言語コミュニケーションと大阪の言葉文化 <ul style="list-style-type: none"> ・言語コミュニケーションとは何かを学びます。 ・大阪文化における言語コミュニケーションの特徴はなにかについて、各グループで話し合い、発表します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容をふまえ、言語コミュニケーションについて、300字程度でノートにまとめておきます。 ・Unit 3 (非言語コミュニケーションについての文章) を予習しておきます。 	1時間
第5回	非言語コミュニケーションと大阪の身振り <ul style="list-style-type: none"> ・非言語コミュニケーションとは何かを学びます。 ・大阪文化における非言語コミュニケーションの特徴はなにかについて、各グループで話し合い、発表します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容をふまえ、非言語コミュニケーションについて、300字程度でノートにまとめておきます。 ・Unit 5 (文化と価値観についての文章) を予習しておきます。 	1時間
第6回	小括 1、価値観と大阪の笑い <ul style="list-style-type: none"> ・既習範囲を対象にまとめテストを実施します。 ・文化における価値観とは何かを学びます。 ・大阪文化における笑いの位置づけについて、各グループで話し合い、発表します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容をふまえ、文化と価値観について、300字程度でノートにまとめておきます。 ・Unit 6 (文化と知覚能力についての文章) を予習しておきます。 	1時間
第7回	知覚能力と大阪の色彩感覚 <ul style="list-style-type: none"> ・文化における知覚能力とは何かを学びます。 ・大阪の色彩感覚の文化的特徴を、各グループで話し合い、発表します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容をふまえ、文化と知覚能力について、300字程度でノートにまとめておきます。 ・Unit 7 (多様性についての文章) を予習しておきます。 	1時間
第8回	多様性と大阪の文化的スタンス <ul style="list-style-type: none"> ・文化における多様性とは何かを学びます。 ・大阪の多様性に対する文化的スタンスを、各グループで話し合い、発表します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容をふまえ、文化における多様性について、300字程度でノートにまとめておきます。 ・Unit 8 (ステレオタイプについての文章) を予習しておきます。 	1時間
第9回	ステレオタイプと大阪の県民性 <ul style="list-style-type: none"> ・ステレオタイプとは何かを学びます。 ・大阪の県民性の特徴を、各グループで話し合い、発表します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容をふまえ、ステレオタイプについて、300字程度でノートにまとめておきます。 ・Unit 9 (カルチャーショックについての文章) を予習しておきます。 	1時間
第10回	カルチャーショックと大阪対東京の構図 <ul style="list-style-type: none"> ・カルチャーショックとは何かを学びます。 ・大阪対東京の構図が生まれる原因を、各グループで話し合い、発表します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容をふまえ、カルチャーショックについて、300字程度でノートにまとめておきます。 ・Unit 10 (文化の移り変わりについての文章) を予習しておきます。 	1時間
第11回	文化の移り変わりと大阪の今昔 <ul style="list-style-type: none"> ・文化の変化とは何かを学びます。 ・大阪文化の今と昔の相違点を、各グループで話し合い、発表します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容をふまえ、文化の移り変わりについて、300字程度でノートにまとめておきます。 ・Unit 11 (日本文化の発信について文章) を予習しておきます。 	1時間
第12回	日本文化の発信、大阪文化の発信 <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化を世界に発信するとはどういうことを学びます。 ・大阪文化を世界に発信するとして何をどうやって紹介するかを、各グループで話し合い、発表します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容をふまえ、日本文化の発信について、300字程度でノートにまとめておきます。 ・Unit 12 (グローバル人材について文章) を予習しておきます。 	1時間
第13回	グローバル人材と英語力	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容をふまえ、グローバル人材と英語力について、300字程度でノートにまとめておきます。 ・第14回、第15回の「大阪文化を英語で紹介する」スピーチについて、原稿を準備しておきます。 	1時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材とは何かを学びます。 ・第1回～12回の授業内容をふまえて、グローバル社会における英語力とは何かを考察します。 ・第14回、第15回の「大阪文化を英語で紹介する」スピーチについて、説明します。 		
第14回	<p>小括2、「大阪文化を英語で紹介する」スピーチ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習範囲を対象にまとめテストを実施します。 ・「大阪文化を英語で紹介する」スピーチを、クラスの前で行います。 ・発表者以外は、スピーチ内容やプレゼンテーション能力を採点し、結果をフィードバックします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説得力のあったスピーチについて分析し、その結果を300字程度でノートにまとめておきます。 ・第14回、第15回の「大阪文化を英語で紹介する」スピーチについて、原稿を準備しておきます。 	1時間
第15回	<p>「大阪文化を英語で紹介する」スピーチ②、総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業内容を振り返ります。 ・「大阪文化を英語で紹介する」スピーチを、クラスの前で行います。 ・発表者以外は、スピーチ内容やプレゼンテーション能力を採点し、結果をフィードバックします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説得力のあったスピーチについて分析し、その結果を300字程度でノートにまとめておきます。 ・異文化コミュニケーションに関する1000字程度のレポートを作成し、後日提出します。 	1時間

授業科目名	Communications 4				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

Communications 5 に引き続き、本科目では、ナショナルジオグラフィックのコンテンツやTED TALK のプレゼンテーションを題材として、実在する人々や場所で交わされる生きた英語に触れながら、日常英会話に必要な聴解力・表現力を伸ばすことを目的とします。各授業では、自然な速度の英語を多く聞き、英語特有のリズムやイントネーションを理解するように努めます。また、題材に用いられている基本語彙や表現、文法項目を学習し、それらを用いて自分の意見を表現できるように、スピーキング練習や英作文を実施します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日常的な英会話能力、英語聴解能力、英文読解能力、英作文能力

目標：

身近な日常生活について、英語で理解し表現することができる。世界で起こっている様々な話題を学び、異文化理解を深めることができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小テスト（単語・ディクテーション）	20%	： 毎回、授業の初めに既習単元の単語テストやディクテーションテストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価とします。
まとめテスト	60%	： 二回のまとめテストを、第7回・第14回に実施します。指定教科書の既習範囲を対象として、それまでの振り返りと知識の定着を確認するテストを行います。60点満点のまとめテストの平均を評価の60%とします。
グループ発表	20%	： 授業内で用いた英語の語彙や表現を応用して、TED TALK を参考に、グループプレゼンテーションを実施します。第15回の授業日に行い、評価の20%とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Kristin L. Johannsen, Rebecca Tarver Chase	World English 3 Second Edition	Cengage Learning	2015年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限
 場所： 研究室（西館5階）
 備考・注意事項： メールアドレス： asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画			授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	オリエンテーション、Unit 7 (前半) Getting Around ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・世界の地理、気候、主要産物に関する語彙や表現を学びます。 ・現在形と現在進行形、過去形の時制の違いを学びます。	Unit 7 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。Unit 7 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第2回	Unit 7 (後半) The Rickshaws of Kolkata ・食文化についての英文を読解します。 ・自分の住んでいる地域の食について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 7で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 8に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第3回	Unit 8 (前半) Competition ・世界の文化、コミュニケーション、ジェスチャーに関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形の時制を使った表現を学びます。	Unit 8で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 8 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第4回	Unit 8 (後半) In Sports, Red is the Winning Color ・世界の文化についての英文を読解します。 ・初めて会う人とスモールトークができるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 8 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 9 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第5回	Unit 9 (前半) Danger ・世界の都市生活や地図の読み方に関する語彙や表現を学びます。 ・助動詞willと時を表す句を用いた表現を学びます。	Unit 9 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 9 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第6回	Unit 9 (後半) Three Things I Learned While My Plane Crashed ・都市生活と食についての英文を読解します。 ・自分の都市生活についての見解を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 7-9 で学習した単語・表現を復習し、まとめテストに備えます。	4時間
第7回	Unit 7-9小括、TED TALK ・Unit7-9までの内容に基づいたまとめテストを実施します。 ・TED TALK のひとつを視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit10 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第8回	Unit 10 (前半) Mysteries ・人間の身体構造や病気に関する語彙や表現を学びます。 ・比較級や不定詞を用いた表現を学びます。	Unit 10で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 10 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第9回	Unit 10 (後半) Hands Across Time ・人間と微生物についての英文を読解します。 ・自分の病状を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 10で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 11 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第10回	Unit 11 (前半) Learning ・物理的、精神的な挑戦に関する語彙や表現を学びます。 ・過去形と過去進行形の違い、enoughを用いた表現を学びます。	Unit 11 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第11回	Unit 11 (後半) Five Dangerous Things (You Should Let Your Children Do) ・北極地のある挑戦についての英文を読解します。 ・自分のこれまでの挑戦について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 11で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第12回	Unit 12 (前半) Space ・人生の段階に関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形、How + 形容詞を用いた表現を学びます。	Unit 12 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第13回	Unit 12 (後半) The Hubble Space Telescope	Unit 10-12 で学習した単語・表現を復習し、まとめテストに備えます。	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の限界に対する挑戦についての英文を読解します。 ・自分の人生の段階に起きた出来事について話すために、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 		
第14回	Unit 10-12小括、TED TALK <ul style="list-style-type: none"> ・Unit4-6までの内容に基づいたまとめテストを実施します。 ・TED TALK のひとつを視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 7-12 で学習した単語・表現を復習し、プレゼンテーションの準備をしておきます。	4時間
第15回	Unit 7-12 総括、プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・前期の授業内容を振り返ります。 ・これまでの学習内容から課題をひとつ選び、プレゼンテーションを行います。 	既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。	4時間

授業科目名	Communications 5				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、パラグラフリーディングが必要な程度の長さを持った英文の読解、リスニングストラテジーが必要な程度の長さを持った英語の聴解、これらを主な題材として、多読多聴をつうじた英語の表現力の増強を目的とします。各授業では、題材に関連する語彙や表現、文法項目を学習した上で、ひとつのトピックに関する英語の読解・聴解の課題を多数実施します。また、アカデミックな話題について意見する際のフォーマルな英会話表現も身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日常的な英会話能力、英語聴解能力、英文読解能力、英作文能力

目標：

身近な日常生活について、英語で理解し表現することができる。世界で起こっている様々な話題を学び、異文化理解を深めることができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小テスト（単語・ディクテーション）	20%	： 毎回、授業の初めに既習単元の単語テストやディクテーションテストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価の20%とします。
まとめテスト	60%	： 二回のまとめテストを、第7回・第14回に実施します。指定教科書の既習範囲を対象として、それまでの振り返りと知識の定着を確認するテストを行います。60点満点のまとめテストの平均を評価の60%とします。
グループ発表	20%	： 授業内で用いた英語の語彙や表現を応用して、TED TALKを参考に、グループプレゼンテーションを実施します。第15回の授業日に行い、評価の20%とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Kristin L. Johannsen, Rebecca Tarver Chase	World English 3 Second Edition	Cengage Learning	2015年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限
 場所： 研究室（西館5階）
 備考・注意事項： メールアドレス： asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、Unit 1 (前半) People and Places <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・世界の地理、気候、主要産物に関する語彙や表現を学びます。 ・現在形と現在進行形、過去形の時制の違いを学びます。 	Unit 1 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。Unit 1 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第2回	Unit 1 (後半) Pioneers of the Pacific <ul style="list-style-type: none"> ・食文化についての英文を読解します。 ・自分の住んでいる地域の食について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 1 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 2に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第3回	Unit 2 (前半) The Mind <ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化、コミュニケーション、ジェスチャーに関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形の時制を使った表現を学びます。 	Unit 2 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 2のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第4回	Unit 2 (後半) In Your Face <ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化についての英文を読解します。 ・初めて会う人とスモールトークができるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 2 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 3に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第5回	Unit 3 (前半) Changing Planet <ul style="list-style-type: none"> ・世界の都市生活や地図の読み方に関する語彙や表現を学びます。 ・助動詞willと時を表す句を用いた表現を学びます。 	Unit 3 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 3のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第6回	Unit 3 (後半) Salvation (and Profit) in Greentech <ul style="list-style-type: none"> ・都市生活と食についての英文を読解します。 ・自分の都市生活についての見解を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 1-3で学習した単語・表現を復習し、まとめテストに備えます。	4時間
第7回	Unit 1-3 小括、TED TALK <ul style="list-style-type: none"> ・Unit1-3までの内容に基づいたまとめテストを実施します。 ・TED TALK のひとつを視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 4に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第8回	Unit 4 (前半) Money vs. Wealth <ul style="list-style-type: none"> ・人間の身体構造や病気に関する語彙や表現を学びます。 ・比較級や不定詞を用いた表現を学びます。 	Unit 4 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 4 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第9回	Unit 4 (後半) Music is Medicine, Music is Sanity <ul style="list-style-type: none"> ・人間と微生物についての英文を読解します。 ・自分の病状を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 4で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 5に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第10回	Unit 5 (前半) Survival <ul style="list-style-type: none"> ・物理的、精神的な挑戦に関する語彙や表現を学びます。 ・過去形と過去進行形の違い、enoughを用いた表現を学びます。 	Unit 5で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 5 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第11回	Unit 5 (後半) Survival School <ul style="list-style-type: none"> ・北極地のある挑戦についての英文を読解します。 ・自分のこれまでの挑戦について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 5 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 6に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第12回	Unit 6 (前半) Art <ul style="list-style-type: none"> ・人生の段階に関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形、How + 形容詞を用いた表現を学びます。 	Unit 6で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 6 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第13回	Unit 6 (後半) Saving a City's Public Art <ul style="list-style-type: none"> ・自分の限界に対する挑戦についての英文を読解します。 ・自分の人生の段階に起きた出来事について話すために、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 4-6 で学習した単語・表現を復習し、まとめテストに備えます。	4時間

第14回	Unit 4-6 小括、TED TALK <ul style="list-style-type: none"> ・Unit4-6までの内容に基づいたまとめテストを実施します。 ・TED TALK のひとつを視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 1-6 で学習した単語・表現を復習し、プレゼンテーションの準備をしておきます。	4時間
第15回	Unit 1-6 総括、プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・前期の授業内容を振り返ります。 ・これまでの学習内容から課題をひとつ選び、プレゼンテーションを行います。 	既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。	4時間

授業科目名	Communications6				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

私たちの生活において、記憶は重要な基盤である。記憶力が低いとはどう言うことなのか、記憶力を高める方法はあるのか、記憶力を測定する方法はあるのか。古典的実験や脳損傷研究、最新の記憶研究まで包括的に紹介し、それらの研究を通じて、上記の疑問に答えていく。短期記憶や長期記憶と言った基本的な記憶システムや、ワーキングメモリと言った比較的新しい概念まで紹介し、記憶システムに対する理解を深めていく。また文章読解能力や眼球運動分析の知見も紹介する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	記憶に関する専門的な知識を身に付ける。	講義内で扱う内容を体験し、理解を深める。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		記憶の詳細なメカニズム理解し、実験計画などの課題発見を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

評価の基準

: 授業内容に関する質問、コメント、感想などを記入するコメントカードを用いて評価する。
(2点×15回=30点)

30%

小テスト

: 講義の前半で学んだ知識を正しく理解し、表現できているかについて評価する。

30%

期末試験

: 講義で学んだ知識を正しく理解し、表現できているかについて評価する。

40%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

回	授業計画	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	認知心理学における記憶研究 授業の目的、内容、評価について確認を行い、認知心理学における記憶研究の基本的な考え方を理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「短期記憶」「長期記憶」について調べておく。 4時間
第2回	短期記憶と長期記憶の仕組み 短期記憶と長期記憶のメカニズムについて、初頭効果と新近効果の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「脳損傷」について調べておく。 4時間

第3回	脳損傷から見た記憶の仕組み 短期記憶と長期記憶のメカニズムについて、脳損傷の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「長期記憶」について調べておく。	4時間
第4回	長期記憶の仕組み 長期記憶のメカニズムについて、宣言的記憶と手続的記憶の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「技能記憶」について調べておく。	4時間
第5回	技能記憶の仕組み 長期記憶のメカニズムについて、技能記憶の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「ワーキングメモリ」について調べておく。	4時間
第6回	短期記憶とワーキングメモリ 短期記憶とワーキングメモリの違いを論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「リーディングスパンテスト」について調べておく。	4時間
第7回	言語性ワーキングメモリの測定方法 ワーキングメモリの測定方法について、リーディングスパンテストを中心に論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「ワーキングメモリ課題」について調べておく。	4時間
第8回	様々なワーキングメモリの測定方法 ワーキングメモリの測定方法について、各種ワーキングメモリ課題の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「ワーキングメモリが高次認知機能に及ぼす影響」について調べておく。	4時間
第9回	ワーキングメモリが高次認知機能に及ぼす影響 ワーキングメモリが高次認知機能に及ぼす影響について、学力の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「ワーキングメモリが高次認知機能に及ぼす影響」について調べておく。	4時間
第10回	ワーキングメモリと脳機能 ワーキングメモリが高次認知機能に及ぼす影響について、脳機能の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「ワーキングメモリが高次認知機能に及ぼす影響」について調べておく。	4時間
第11回	ワーキングメモリが文章読解に及ぼす影響 ワーキングメモリが高次認知機能に及ぼす影響について、文章読解能力の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「ワーキングメモリが高次認知機能に及ぼす影響」について調べておく。	4時間
第12回	ワーキングメモリを眼球運動で測る ワーキングメモリが高次認知機能に及ぼす影響について、眼球運動の観点から論じる。	配布資料を復習し、「文章読解中の眼球運動」について調べておく。	4時間
第13回	文章読解能力と眼球運動の関係 文章読解において眼球運動が果たす役割について論じる。	配布資料を復習し、「アノテーション（目印）」について調べておく。	4時間
第14回	文章読解とハイライト 文章読解においてアノテーションが果たす役割について論じる。	配布資料を復習する。	4時間
第15回	まとめ 本講義の内容を整理し、言及できなかった点を中心に補足します。	これまでの授業を復習し、疑問点をまとめてくる。	4時間

授業科目名	英米の文学				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、英米それぞれの文学の基礎的な知識、歴史、作家、作品について概説し、文学作品と共に、関連する映画、音楽なども交えながら、英米の文学、文化への知識を広げ、理解を深めていきます。英米の文学の流れを概観しつつ、様々な特徴をもつ作品を実際に鑑賞し、それぞれの作家、作品への理解を深めていくことを目標とします。授業では、レポートやグループディスカッション、プレゼンテーションなどを行い、学生の積極的な授業参加を促します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英米の文学に対する知識を深め、その成り立ちや歴史を理解することができる。

目標：

英米文学の知識を活用して、自ら作品を分析し考察することができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

課題図書を読み、各作品が成立した歴史的文脈を理解したうえで、作品を読む現代的意義について検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の小テスト

評価の基準

： 毎回の授業（第6回、第10回、第15回は除く）の初めに、それまでの講義内容についての理解度を測る、参照可の小テストを実施します。それぞれ5点満点とし、12回全部で評価の60%とします。

60%

論述型の小レポート

： 参照不可の論述型の小レポートについて、講義内容の理解と考察の独自性をもとに採点します。それぞれ10点満点とし、3回全部で評価の30%とします。

30%

プレゼンテーション

： 第15回の授業でプレゼンテーションを実施し、講義内容の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、表現力、明確性、伝達力により評価の10%として採点します。

10%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜 2 限

場所： 西館 5 階研究室

備考・注意事項： メールアドレス： asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

第 1 回 オリエンテーション、古英語・中世英語の文学

テキストを読み、該当部分の内容把握をする。

授業外学修課題にかかるとする自らの時間

4時間

	授業の進め方などの説明します。 授業の目標、学習内容、評価について確認します。 古英語・中世英語の文学について概観します。		
第2回	15世紀－16世紀：ルネサンスの散文と詩 ルネサンス期の文学について学習します。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。	4時間
第3回	演劇時代の到来：シェイクスピアの作品 エリザベス朝演劇について学習します。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。	4時間
第4回	17世紀：清教徒革命の前後 清教徒革命前後の文学について学習します。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。	4時間
第5回	18世紀の散文、詩、そして劇 18世紀の散文・詩・劇について学習します。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。	4時間
第6回	小括1、中世文学から18世紀散文文学までの振り返り ・既習範囲を対象にまとめテストを実施します。 ・これまでの文学史の流れを小括します。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。	4時間
第7回	18世紀：小説時代の到来 18世紀小説について学習する。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。	4時間
第8回	ロマン主義の流行 ロマン主義の流行について学習します。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。	4時間
第9回	19世紀：ヴィクトリア朝の詩と散文 ヴィクトリア朝の詩と散文について学習します。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。	4時間
第10回	小括2、18世紀からヴィクトリア朝にかけての振り返り ・既習範囲を対象にまとめテストを実施します。 ・これまでの文学史の流れを小括します。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。	4時間
第11回	19世紀ヴィクトリア朝の小説 ヴィクトリア朝の小説について学習します。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。	4時間
第12回	20世紀の詩と劇 世紀末文学、20世紀の詩や劇について学習します。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。	4時間
第13回	20世紀の小説 20世紀に入って以降の小説について学習します。	テキストを読み、該当部分の内容把握をする。	4時間
第14回	小括3、イギリス文学史の流れ ・既習範囲を対象にまとめテストを実施します。 ・プレゼンテーションの準備をします。 ・イギリス文学史の全体的な流れを小括します。	プレゼンテーションの準備。	4時間
第15回	総括、プレゼンテーション ・自分の関心に基づき、作品を選んでその考察に関するプレゼンテーションを行います。 ・講義内容を整理し、要点をまとめます。	これまでの復習、要点の整理。	4時間

授業科目名	映像表現				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

実用的な英語を習得するために、映像を利用し、シチュエーションに応じた表現を学ぶ。また、絵本の挿絵を利用し、「聞く」「話す」を中心とした活動も行います。「話す」を「書く」につなげる力も同時に身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	異文化理解	映像の中で出てくる海外の文化に触れ、その国の背景を理解することができる。
2．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	コミュニケーション能力	英語をツールとして、自分の伝えたいことを正しい英語で表現できる。
汎用的な力		様々な状況を英語で他者に伝えることができる。
1．DP7.完遂		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
小テスト 20%	: 授業内で小テストを実施する。主に授業で扱う語彙や文法が評価対象。小テストとの範囲は授業で提示する。
レポート 40%	: 授業の中でレポートの形式は説明する。レポート内容は英語の知識だけでなく、扱った国の文化も含む。
授業への貢献度 20%	: ペアワークやグループワークの取り組みを評価。
ショートスキット 20%	: 評価観点では①内容②スキル③英語運用能力の3つである。この3つの観点は授業内で段階的にトレーニングする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
松本茂	・ おとなの基礎英語 ル・香港・タイ	・ シンガポール ・ 主婦の友社	・ 2013年

参考文献等

英語の知識が必要になった場合は、数研出版の「DUAL SCOPE」が参考になる。その他の参考文献等は、授業中に提示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室

備考・注意事項： 授業に関する質問が多い場合は、事前にメール（kudoh-r@osaka-seikei.ac.jp）を送ること。メールには氏名と所属を明記すること。

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	The Pancake 様々な動作を進行形で描写する。 パンケーキレースについて（文化）	テキストweek1～3 予習	1時間
第2回	week 1～3 行きたい場所までの説明する。 お店で注文をしてみよう。 海外の食事について調べる。	week4～6	1時間
第3回	week 4～6 外国の文化に触れ、感じたことを伝える。 食事のマナーの違いを考える。	week 7～8	1時間
第4回	week 7～8 レストランの予約をする。 友人への感謝の気持ちを表す。		1時間
第5回	Hide and Seek 仮定法・前置詞を使って描写する。	week 9～11	1時間
第6回	week9～11 自分に起こった出来事（時・場所・様態）を正確に説明する。	week 12～14	1時間
第7回	week 12～14 見物をしたりレッスンを申し込む。 自分が今〇〇に対して感じていることを伝える。	week15～16	1時間
第8回	week 15～16 自分の体の症状を伝える。 デートを楽しむ。 海外の観光場所（最新スポット）について調べてみよう。 日本の医療制度と海外の医療制度について調べてみよう。		1時間
第9回	Kipper's Diary 過去形を用いて1週間の出来事を書いてみよう。	week 17～19	1時間
第10回	week 17～19 手紙を用いて自分の気持ちを伝える。 地図上での居場所を尋ねる。 相手に許可を求める。	week 20～22	1時間
第11回	week 20～22 ボランティア活動をする。 日本のボランティア活動やNPOについて調べてみよう。 会話を深めるための話の展開の仕方を学ぶ。	week 23～25	1時間
第12回	week 23～25 問題解決の手がかりを見つける方法について考える。 実際に課題を発見し、その解決方法を英語で伝える。 必要な情報を伝え合う。		1時間
第13回	What a Bad Dog なぜに対する答えを伝えよう。 感嘆文を用いて描写してみよう。		1時間
第14回	preparing for shot skit 様々なシチュエーションに応じた表現を利用して、グループでスキットを行う。スキットの配役を決め、原稿を作成する。	最後の授業に向けた準備を行うこと。	4時間
第15回	short skit 作成したショートスキットを行い、自己評価、他者評価を行う。	振り返りシートを用いて、それぞれの課題を見つけ、自分の英語力を上げるためにはどうすればよいのかを考える。	1時間

授業科目名	人間関係論				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

人間は他者との関係を持たずに一人で生きていくことはできない。親や友人など周囲の様々なヒトとの関係を理解することは、社会の中で生活する上で必要不可欠である。本講義では、ヒトとヒトとの様々な関係性や自分自身との関係性、ヒトと動物との関係性を、発達心理学・社会心理学・認知心理学・比較心理学などのそれぞれの観点から取り上げていく。本講義の受講によって、ヒトがどのように他者とかわり、自分と向き合うのかを考えるきっかけにしたい。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	各種心理学の観点から人間の関係性に関する知識を身に付ける。	講義内で扱う内容を深く理解し、議論する。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		人間の関係性に関する課題を発見する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

評価の基準

： 授業内容に関する質問、コメント、感想などを記入するコメントカードを用いて評価する。
(2点×15回=30点)

30%

小テスト

： 講義で学んだ知識を正しく理解しているかについて評価する。(10点×2=20点)

20%

期末試験

： 講義で学んだ知識を正しく理解しているかについて評価する。(50点)

50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	人間関係論とは何か 授業の目的、内容、評価について確認を行い、各種心理学の基本的な考え方を理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「ピアジェ」「認知的発達段階」についてあらかじめ調べておく。 4時間
第2回	幼児と世界の関係論	配布資料を復習し、次回キーワードの「愛着理論」「三項関係」についてあらかじめ調べておく。 4時間

	幼児が世界に対してどのように働きかけるのかを、ピアジェの認知的発達段階の観点から論じる。		
第3回	子どもと親の関係論 子どもが親とどのように関係性を築いていくのかを、愛着理論や三項関係の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「心の理論」「誤信念課題」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第4回	子どもと他者の関係論 子どもが他者の心をどのように理解し関係を持つのかを、心の理論の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「対人認知」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第5回	大人と大人の関係論 (1) 成熟した大人同士の関係性を、対人認知の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「援助行動」「攻撃行動」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第6回	大人と大人の関係論 (2) 成熟した大人同士の関係性を、援助行動と攻撃行動の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「誤導情報効果」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第7回	自分と自分の関係論 (1) 自分が自分の記憶と向き合う時、その記憶が歪んでしまうことについて、誤導情報効果の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「変化盲」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第8回	自分と自分の関係論 (2) 自分が自分の注意と向き合う時、その注意を完全には制御できないことについて、変化盲の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「錯視」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第9回	自分と自分の関係論 (3) 自分が自分の知覚と向き合う時、その知覚が誤っているように感じてしまうことについて、錯視の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「自己開示」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第10回	自分と自分の関係論 (4) 自分が自分に向き合い、他者に開示する際の行動について、自己開示の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「PM理論」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第11回	個人と集団の関係論 (1) 個人が属する集団におけるリーダーについて、PM理論の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「同調」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第12回	個人と集団の関係論 (2) 個人が属する集団における同調圧力について、社会心理学の観点から論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「チンパンジーのアイちゃん」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第13回	ヒトと動物の関係論 (1) チンパンジーの発達について、ヒトとの比較を通じて論じる。	配布資料を復習し、次回キーワードの「チンパンジーのアイちゃん」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第14回	ヒトと動物の関係論 (2) チンパンジーとヒトとの共通点と差異を、比較心理学の観点から論じる。	配布資料の復習を行う。	4時間
第15回	まとめ 本講義の内容を整理し、言及できなかった点を中心に補足します。	これまでの授業を復習し、疑問点をまとめてくる。	4時間

授業科目名	欧米の文化				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

明治時代、文明開化により流れ込んできた西洋文化の波が日本の文化に大きな影響を及ぼしました。小説もそのひとつです。夏目漱石をはじめとする明治の文豪たちは、西洋の小説に触れ、それを自分たちの文体に取り込んでいきました。本科目では、日本の小説に影響を与えた西洋の小説のなかでも、他のヨーロッパ諸国に先駆けて近代小説が誕生したといわれる18世紀イギリスに注目し、それがどういう観点で「誕生」といえるのか、またどのような歴史的な過程を経て成立していったのかについて、具体的な小説作品を取り上げながら見ていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	18世紀イギリス小説史に関する知識	18世紀イギリスにおいて近代小説が誕生した歴史的背景を理解し、そうした散文芸術の文化的意義について考察することができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		課題図書を読み、各作品が成立した歴史的な文脈を理解した上で、現代における文学の衰退について問題点を検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小テスト	60%	： 毎回（第6回、第10回、第15回は除く）の授業のはじめに、それまでの講義内容についての理解度を測る、参照可の小テストを実施します。それぞれ5点満点とし、12回全部で評価の60%とします。
論述型の小レポート	30%	： 参照不可の論述型の小レポート（第6回、第10回、第15回の授業内に実施）について、講義内容の理解と考察の独自性をもとに採点します。それぞれ10点満点とし、3回全部で評価の30%とします。
意見文	10%	： 第15回の講義のあと、課題図書のなかから一冊選び、その作品についての自分の意見文を提出してもらいます。講義との関連性を持った意見文であるかどうかを基準に採点します。意見文は評価の10%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ① 『ロビンソン・クルーソー（上）（下）』、平井正徳（訳）、岩波文庫（1967）
- ② 『カリヴァー旅行記』、平井正徳（訳）、岩波文庫（1980）
- ③ 『パミラ、あるいは淑徳の報い』、原田範行（訳）、研究社（2011）
- ④ 『トム・ジョーンズ（一）（二）（三）（四）』、朱牟田夏雄（訳）、岩波文庫（1952）
- ⑤ 『トリストラム・シャンディ（上）（中）（下）』、朱牟田夏雄（訳）、岩波文庫（1969）
- ⑥ 『オトランド城』、千葉康樹（訳）、研究社（2012）
- ⑦ 『フランケンシュタイン』、小林章夫（訳）、光文社（2010）
- ⑧ 『ノーザンガー・アビー』、中野康司（訳）、ちくま文庫（2009）
- ⑨ 『高慢と偏見』、小尾英佐（訳）、光文社（2011）
- ⑩ 『ジェイン・エア（上）（下）』、小尾英佐（訳）、光文社（2006）
- ⑪ 『嵐が丘（上）（下）』、小野寺健（訳）、光文社（2010）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜 2限
 場所： 研究室（西館5階）
 備考・注意事項： メールアドレス： asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		授業外学修課題にかかると見られる目安の時間
第1回	<p>はじめに：イギリス近代小説の「誕生」における歴史的文脈</p> <p>・授業の進め方、評価方法の確認をします。 ・イギリス近代小説が誕生した歴史的背景を概観します。 ・課題図書を指示します。</p>	<p>・『ロビンソン・クルーソー』について、あらずじや時代背景などを下調べしておきます。 ・イギリス近代小説が誕生した歴史的背景について、1000字程度でまとめられるように講義内容を整理しておきます。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>黎明期①：ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー漂流記』（1719）とジャーナリズム</p> <p>・近代小説というジャンルが確立する以前の小説を読みます。 ・デフォーの経歴と作品との関係学びます。 ・ジャーナリズムと小説の起こりの関連性を学びます。</p>	<p>・『ガリヴァー旅行記』について、あらずじや時代背景などを下調べしておきます。 ・第2回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>黎明期②：ジョナサン・スウィフト『ガリヴァー旅行記』（1726）と植民地支配</p> <p>・近代小説というジャンルが確立する以前の小説をもうひとつ読みます。 ・デフォーのライバル的存在であったスウィフトの経歴とその作品を学びます。 ・小説と現実の関連性を学びます。</p>	<p>・『バミラ』について、あらずじや時代背景などを下調べしておきます。 ・第3回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>勃興期①：サミュエル・リチャードソン『バミラ』（1740）と書簡文化</p> <p>・近代小説の父と呼ばれるリチャードソンの経歴と作品について学びます。 ・書簡体小説とは何かを学びます。</p>	<p>・『トム・ジョーンズ』について、あらずじや時代背景などを下調べしておきます。 ・第4回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>勃興期②：ヘンリー・フィールディング『トム・ジョーンズ』（1749）と古典主義</p> <p>・リチャードソンのライバル的存在であったフィールディングの経歴と作品について学びます。 ・三人称小説という小説の語りの技法について学びます。</p>	<p>・第1～4回の講義内容について、2000字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。 ・第6回の授業内で実施する論述小テストのために復習しておきます。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>リチャードソンとフィールディング：小説技法の比較、これまでの振り返り</p> <p>・リチャードソンとフィールディングの語りの技法のメリット、デメリットについて学びます。 ・第1～5回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。</p>	<p>・『トリストラム・シャンディ』について、あらずじや時代背景などを下調べしておきます。 ・第6回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>展開期①：ローレンス・スターン『トリストラム・シャンディ』（1759-67）と観念運合</p> <p>・近代小説が勃興した以降の小説の展開を見ていきます。 ・メタ小説とよばれる作品『トリストラム・シャンディ』の内容と、スターンの経歴について学びます。 ・メタ小説とは何かを理解します。</p>	<p>・『オトランド城』について、あらずじや時代背景などを下調べしておきます。 ・第7回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>展開期②：ホレス・ウォルポール『オトランド城』（1765）とゴシック・リバイバル</p> <p>・ゴシック・ロマンスというジャンルの流行について学びます。 ・ゴシック・ロマンスの火付け役であるウォルポールの経歴と、その作品について学びます。</p>	<p>・『フランケンシュタイン』について、あらずじや時代背景などを下調べしておきます。 ・第8回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>展開期③：メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』（1818）と女流作家</p> <p>・ゴシック・ロマンスの流行と『フランケンシュタイン』の関連性を学びます。 ・メアリー・シェリーの経歴とその作品の関係について学びます。</p>	<p>・第5～9回の講義内容について、2000字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。 ・第10回の授業内で実施する論述小テストのために復習しておきます。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>ゴシック・ロマンスとオースティン：小説というジャンル意識の確立、これまでの振り返り</p> <p>・ゴシック・ロマンスの流行とオースティン作品の関連性について学びます。 ・第6～9回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。</p>	<p>・『ノーザンガー・アビー』について、あらずじや時代背景などを下調べしておきます。 ・第10回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。</p> <p>4時間</p>

第11回	円熟期①：ジェイン・オースティン『ノーザンガー・アビー』（1818）とパロディ意識	<ul style="list-style-type: none"> ・『高慢と偏見』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 ・第11回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。 	4時間	
第12回	円熟期②：ジェイン・オースティン『高慢と偏見』（1813）と中産階級意識	<ul style="list-style-type: none"> ・『ジェイン・エア』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 ・第12回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。 	4時間	
第13回	円熟期③：シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』（1847）と結婚制度	<ul style="list-style-type: none"> ・『嵐が丘』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 ・第13回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。 	4時間	
第14回	円熟期④：エミリ・ブロンテ『嵐が丘』（1847）とロマン主義	<ul style="list-style-type: none"> ・第1～14回の講義内容について、それぞれ300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。 ・第15回の授業内で実施する論述小テストのために復習しておきます。 	4時間	
第15回	総括：イギリス近代小説誕生の文化的意義、これまでの振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内で取り扱った作品の中で興味を持ったものは、翻訳や映像化されたものをつうじて、実際に鑑賞してみることにします。 	4時間	
<ul style="list-style-type: none"> ・近代小説の母と呼ばれるオースティンの経歴と作品について学びます。 ・ゴシック・ロマンスという形式とオースティンの作風との関連性について学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オースティンの代表作『高慢と偏見』の内容を学びます。 ・オースティンが確立した自由間接話法という小説技法について学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小説というジャンルが確立した以降の発展を辿っていきます。 ・自伝的小説といわれる『ジェイン・エア』とシャーロット・ブロンテの経歴について学びます。 ・小説のテーマ性というものが生まれてきた過程を辿ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シャーロット・ブロンテの妹、エミリ・ブロンテの生涯唯一の作品を読みます。 ・エミリ・ブロンテとロマン主義の関連性について学びます。 ・『嵐が丘』における小説のテーマ性の追求について学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義内容を総括し、イギリス近代小説が生まれた背景とその過程を整理します。 ・第1～14回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。